

国立国語研究所学術情報リポジトリ

Texts of tape-recorded conversations in Japanese dialects (Volume 10) : Dialogues in set up scenarios

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2019-10-23 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 国立国語研究所, The National Language Research Institute メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.15084/00002279

方言談話資料 (10)

—場面設定の対話 その2—

青森・群馬・千葉・新潟・長野
静岡・愛知・福井・奈良・鳥取
島根・愛媛・高知・長崎・沖縄

国立国語研究所資料集 10-10

国立国語研究所

1987

方言談話資料(10)

一場面設定の対話その2

青森・群馬・千葉・新潟・長野
静岡・愛知・福井・奈良・鳥取
島根・愛媛・高知・長崎・沖縄

国立国語研究所

刊 行 の こ と ば

国立国語研究所では、昭和49年度から同51年度にかけて、「『各地方言資料の収集および文字化』のための研究」という題目の下に、全国各地で方言による談話の録音と、その文字化（標準語訳・注つき）を行ってきました。この研究は、急速に失われつつある方言を現時点で録音・文字化し、国語研究の基本的資料とすることを目的としており、当研究所地方研究員の協力を得てこれを実施しました。

その結果は、昭和61年度までに、『方言談話資料(1)』～『方言談話資料(9)』として刊行しました。本年度は、場面設定の対話の第二集として、本書を刊行します。

本書に収めた資料の録音・文字化は、鳥取県については、当研究所言語変化研究部第一研究室所属（収録当時）の飯豊毅一・佐藤亮一・真田信治・沢木幹栄・白沢宏枝が担当し、その他の各県については、当研究所地方研究員（収録当時）・同協力者の愛宕八郎康隆、上野勇、江端義夫、加藤和夫、加藤信昭、剣持隼一郎、後藤和彦、佐々木隆次、佐藤茂、杉村孝夫、杉山正世、土居重俊、中松竹雄、日野資純、広戸惇、馬瀬良雄、山口幸洋の各氏に担当していただきました。また、話者として、別記の70名の方々の協力を得たほか、有志の助力がありました。記して深く感謝の意を表します。

昭和62年 6 月

国立国語研究所長 野元菊雄

方言談話資料作成のための担当者

国立国語研究所言語変化研究部第一研究室

飯 豊 毅 一（現在，昭和女子大学教授） 徳 川 宗 賢（現在，大阪大学教授）

佐 藤 亮 一（室長） 真 田 信 治（現在，大阪大学助教授）

沢 木 幹 栄（主任研究官） 白 沢 宏 枝（研究員）

国立国語研究所地方研究員（五十音順）

秋 山 正 次	愛宕 八郎康隆	五十嵐 三 郎	井 上 章	井 上 史 雄
今 石 元 久	岩 井 隆 盛	上 野 勇	遠 藤 潤 一	大 島 一 郎
大 橋 勝 男	岡 野 信 子	奥 村 三 雄	寛 大 城	加 治 工 真 市
加 藤 信 昭	加 藤 正 信	金 沢 直 人	川 本 栄 一 郎	神 部 宏 泰
剣 持 隼 一 郎	後 藤 和 彦	小 松 代 融 一	斎 藤 義 七 郎	迫 野 虔 徳
佐々木 隆 次	佐 藤 茂	佐 藤 虎 男	清 水 茂 夫	杉 山 正 世
田 尻 英 三	種 友 明	玉 井 節 子	近 石 泰 秋	土 居 重 俊
日 高 貢 一 郎	日 野 資 純	広 戸 惇	廣 濱 文 雄	北 条 忠 雄
本 堂 寛	馬 瀬 良 雄	松 本 宙	三 浦 芳 夫	虫 明 吉 治 郎
村 内 英 一	室 山 敏 昭	谷 開 石 雄	矢 作 春 樹	山 口 幸 洋
山 本 俊 治	和 田 實			

『方言談話資料』(10) 編集担当者

国立国語研究所言語変化研究部第一研究室

飛 田 良 文（部長） 佐 藤 亮 一（室長） 沢 木 幹 栄（主任研究官）

小 林 隆（研究員） 白 沢 宏 枝（同）

収録・文字化担当者及び協力者

担当 地域	氏名	現在の勤務先
青森	佐々木隆次	(県立青森北高等学校教諭)
群馬	上野 勇	(故人)
	杉村 孝夫	(同協力者, 福岡教育大学助教授)
千葉	加藤 信昭	(千葉大学教育学部教授)
新潟	剣持隼一郎	
長野	馬瀬 良雄	(信州大学人文学部教授)
静岡	日野 資純	(静岡大学人文学部教授)
愛知	山口 幸洋	
福井	佐藤 茂	(福井大学名誉教授・ノートルダム清心女子大学教授)
	加藤 和夫	(同協力者, 和洋女子短期大学講師)
奈良	後藤 和彦	(大妻女子大学教授)
鳥取	飯豊毅一・佐藤亮一・真田信治・沢木幹栄・白沢宏枝	
	(所属については4頁参照)	
島根	広戸 惇	(島根大学名誉教授)
愛媛	杉山 正世	(故人)
	江端 義夫	(同協力者, 広島大学教育学部助教授)
高知	土居 重俊	(高知学園短期大学講師)
長崎	愛宕八郎康隆	(長崎大学教育学部教授)
沖縄	中松 竹雄	(琉球大学教育学部教授)

話 者

- 青森県 桜田鉄弥・八木沢千代三郎・棟方トミ・坂本チヲ
群馬県 井上嘉十・小林弥太郎・小林よ志ゑ・井上トリ
千葉県 武田松雄・鈴木ぎん・網仲きん・西藤徳蔵・森留吉
新潟県 高橋真・高橋辰男・高橋初枝・高橋チユノ・高橋ミサノ・高橋武義・高橋森一
長野県 尾沢国蔵・井沢賢一・清水ちま・寺沢直江
静岡県 佐藤吉平・山本俊男・佐藤とし・後藤百々代
愛知県 鈴木清光・鈴木英雄・小林ハルコ・堤ふじよ
福井県 谷口松樹・道端初江・下出寅義・加藤よ志子
奈良県 東正弘・泉谷正彦・後木弘・上垣セキ・後木美智恵
鳥取県 衣笠光寿・土井頼重・衣笠トラ・衣笠寿賀
島根県 戸屋英明・吉川幸吉・勝部定市・野原フジエ・戸屋マサヨ
愛媛県 村上寿一・山岡寅夫・阿部ヒロミ・阿部チヨエ・馬越コクニ
高知県 山崎貢・山崎春井・田島正実・森田多賀恵・窪添久子・窪添紺恵
長崎県 平尾忠太郎・山崎キメ・竹島マシ・溝口誠治・山崎政右衛門
沖縄県 真栄平房敬・尚 詮・高宮城恵子・知名茂子

収録地点

- 1 青森県青森市大字牛館
- 2 群馬県利根郡利根村大字追貝
- 3 千葉県館山市相浜
- 4 新潟県柏崎市大字折居字餅糰
- 5 長野県上伊那郡中川村南向
- 6 静岡県静岡市南字中村
- 7 愛知県北設楽郡富山村中の甲
- 8 福井県武生市下中津原町
- 9 奈良県吉野郡十津川村那知合・谷垣内
- 10 鳥取県八頭郡郡家町
- 11 島根県仁多郡横田町大字犬馬木
- 12 愛媛県越智郡伯方町木浦
- 13 高知県南国市岡豊町滝本
- 14 長崎県西彼杵郡琴海町尾戸郷
- 15 沖縄県那覇市首里

目 次

刊行のことば	3
方言談話資料作成のための担当者	4
「方言談話資料」(10) 編集担当者	4
収録文字化担当者及び協力者	5
話者	6
収録地点	6
まえがき	9
場面設定の対話について	12
収録内容について	15
凡 例	26
場面(5) 隣家の主人の所在をたずねる	
1. 青森県	29
(詳しい地点名は6頁を参照。以下同じ)	
2. 群馬県	32
3. 千葉県	37
4. 新潟県	39
5. 長野県	43
6. 静岡県	47
7. 愛知県	50
8. 福井県	51
9. 奈良県	55
10. 鳥取県	57
11. 島根県	61
12. 愛媛県	64
13. 高知県	67
14. 長崎県	70
場面(6) 道で知人に会う	
1. 青森県	75
2. 群馬県	79
3. 千葉県	87
4. 新潟県	91
5. 長野県	98
6. 静岡県	101
7. 愛知県	104
8. 福井県	109
9. 奈良県	113
10. 鳥取県	115
11. 島根県	120
12. 愛媛県	123
13. 高知県	126
14. 長崎県	130

場面(7) 道で目上の知人に会う

1. 青森県	137	8. 福井県	166
2. 群馬県	143	9. 奈良県	172
3. 千葉県	147	10. 鳥取県	177
4. 新潟県	151	11. 島根県	181
5. 長野県	157	12. 愛媛県	185
6. 静岡県	161	13. 高知県	188
7. 愛知県	164	14. 長崎県	193

場面(8) うわさ話をする

1. 青森県	199	8. 福井県	221
2. 群馬県	205	9. 奈良県	226
3. 千葉県	208	10. 鳥取県	230
4. 新潟県	210	11. 島根県	237
5. 長野県	213	12. 愛媛県	241
6. 静岡県	216	13. 高知県	243
7. 愛知県	219	14. 長崎県	247

沖縄県那覇市首里

(1～4は『方言談話資料』(9)に収録)

5. あいさつ	255
6. 子供の日の玩具市で	257
7. 結婚のうわさ話	259

まえがき

研究の経過

この研究は、昭和49年度から同51年度にかけて行った。

昭和49年度は準備期間とし、全国47都道府県で各種の実験的録音・文字化を行い、その結果に基づいて、次年度以降の計画を立案した。

50年度は、全国的視野のもとに重点地域を定め、23の府県から各1地点を選定して、老年層の男性と同女性との対話、もしくは、男女を含む老年層話者3人の会話を録音し、文字化することとした。

51年度は収録地点を4地点減らし、19の府県について、原則として50年度と同一の地点で(a)目上・目下の関係にある老年層の男性2人による対話、(b)老年層の男性と若年層の男性との対話、もしくは、両者を含む3人の話者の会話、(c)場面設定の対話、の3項目についての録音・文字化を行い、収録可能な地域では、付録として、民話の収録・文字化も実施することとした。(c)については、「品物を借りる」「旅行に誘う」「けんかをする」「新築の祝いを述べる」「隣家の主人の所在をたずねる」「道で知人に会う」「道で目上の知人に会う」「うわさ話をする」の八場面を、全地点共通の場面として設定した

以上の録音・文字化資料は、すべて国立国語研究所で整理し、保管しているが、当研究所では、このうち、50年度分についてはすべて刊行した。本巻は51年度分のうち4巻目にあたる。今回は51年度に収録した場面設定の対話の後半を複製印行する。このうち、沖縄を除く14地点分については八場面のうちの四場面を場面ごとにまとめて掲載したが、沖縄県那覇市首里の分は場面設定が他の地点と異なるため、この地点で収録した七場面のうち残りの三場面を巻末にのせることにした。

話者の条件

話者には次の条件の人を選ぶこととした。

1. 老年層話者による談話(50年度)

その土地で生まれ育ち、よその土地に住んだことのない、あるいは、その期間が比較的短い人で、日常の生活ではもっぱら方言を用い、また、録音機を前にしても方言色豊かなおしゃべりが可能な人。したがって、よその土地から嫁入り、婿入りした人は採らない。ただし、女性については、他に適当な人が得られないときには、近隣地から嫁入りした人でも、収録地点との間に大きな方言の違いが認められない場合は可とする。話者の年齢は、原則として収録時において60歳以上とし、やむをえないときは、55歳以上も可とする。発音その他の障害がなければ、高齢者でも差し支えないが、話者相互の年齢が離れすぎるのは好ましくない。また、話者相互の地位・身分関係も、ほぼ対等であることを原則とする。

2. 目上・目下の関係にある老年層の男性2人による対話(51年度)

話者の年齢は上記1に準ずる。この項は、改まった表現や種々の敬語形式などを得ることをねらって設定したものであり、対話の具体的な人物像として、たとえば、旧地主階層の人物対旧小作階層の人物、僧侶対その壇家にあたる人物、その土地出身の教員(校長など)対その土地の一般的職業(農業・漁業など)に従事している人物などを候補として示したが、地域の事情もあると思われるので、この点は各地の担当者(地方研究員)に一任した。なお、目上にあたる人物として、在外期間の比較的長い人物を登場させなくてはならない場合もあると考えられるので、在外歴に厳しい条件はつけないことにした。

3. 老年層男性と若年層男性との談話(51年度)

老年層については原則として60歳以上、若年層については原則として20~30歳台とする。話者相互の地位・身分関係は、ほぼ対等であることが望ましい。職業は老若ともにその土地における一般的なものであること。在外歴については1に準ずる。

4. 場面設定の対話(51年度)

上記1に準ずる条件を備えた老年層の男女に、場面に応じて、種々の演技的対話をしてもらった。

5. 民話

特に条件はつけず、その土地で生まれ育った民話の語り手があれば可とした。

司会者

主たる話者のほかに、話の引き出し役としての司会者が同席することとした。司会者はこの研究の主旨を理解し、かつ、司会役としての能力を有する地元方言の話し手が望ましい。司会者の年齢・居住歴等に、特に条件はつかなかった。

録音量・文字化量

50年度・51年度ともに各約60分程度の録音量(51年度については、各項目平均20分、合計60分程度)について文字化を行うこととした。また、内容の豊かな文字化資料を得るために、文字化すべき録音量の数倍を録音し、その中から適切な部分(話がとぎれず、しかも発言が特定の話者にかたよっていないこと。話の流れ、話題の展開が自然であること、など)を選択して文字化することとした。

文字化原稿の作成・表記

1. 将来のオフセットによる複製印行に備えて、一定の様式の文字化用紙を作成し、担当地方研究員に配布した。
2. 文字化は原則として表音的カタカナ表記によることとした。これは、利用者の便宜、文字化作業の能率などを考慮してのことである。ただし、対象とする方言の性格によって、カナ表記では特殊な字母を多数必要とし、かえって煩雑になると判断される場合は、国際音声字母による表記も可とした。なお、それぞれのカナで表わす具体的音声の範囲・内容については、各担当者が「解説」の中で説明することとした。

3. アクセント，文末イントネーションの記述の有無は，その表記法を含めて担当者の判断にまかせた。

4. 聴き取りが困難な箇所や，言いよどみ，言い重なり，言い直し，笑い声などについては，これらを一定の符号で表わすことにした（凡例参照）。

文字化には，標準語訳，および，場面，文脈，特徴的音声，方言形の意味・用法などについての注をつけることとした。なお，標準語訳はあくまでも内容理解のための手がかりの一つと考え，訳が問題となるような箇所については，できるだけ詳しい注をつけることを担当者に求めた。

5. 文字化原稿とは別に，収録方言・表記・収録内容についての解説を担当者に求めた。本書ではそれを【収録内容について】（15頁～24頁）として記載した。

【場面設定の対話について】

場面設定の対話は全部で八場面である。

- (1) 品物を借りる
- (2) 旅行に誘う
- (3) けんかをする
- (4) 新築の祝いを述べる
- (5) 隣家の主人の所在をたずねる
- (6) 道で知人に会う
- (7) 道で目上の知人に会う
- (8) うわさ話をする

今回はそのうちの(5)～(8)までの四場面を収録した。場面設定の対話は演技的な対話であり、一定のあらすじに従ったものである点が今までに収録した文字化資料と異なる。

このような録音を企画した理由、また、設定の内容は、以下にあげる昭和51年度の地方研究員への依頼文書の通りである。

1. 目的と方法

これは自然会話の録音では得にくい各種の表現を得ることを目的として、ある場面を設定してインフォーマントに「演技的対話」をしてもらうものである。ただし表現といっても「ありがとう」「こんにちは」のような慣用的な言い回しや、「飲め」のような動詞の命令形、また「～してほしい」のような文法形式の複合したもの、さらに、物を頼む時にいきなり本題に入るかどうか、人の家にかかる時あいさつをするかどうか、などの点についても広い意味の表現と考えたい。こうした表現を、なるべく自然に近い形で得るため、標準語テキストの方言訳という形式を避け、場面についてある程度のわくを設定するにとどめた。

それぞれの場面の説明は、a. 題名 b. 登場人物 c. ねらいと場面
d. あらすじ に分けて行う。

b. 「登場人物」

世代・性についての指定は厳守していただきたい。ただし、隣人などあるのは単なる設定なので、演技力のあるインフォーマントであれば、実際の間柄が違っていてもかまわない。また出演者は場面によって変更しても

よいし、複数場面を同一の出演者で通しても差し支えない。

c. 「ねらいと場面」

これは将来各地の表現を比較する時の鍵となるべきものである。インフォーマントに対話を行ってもらった時も「ねらい」に合致した表現が得られない場合には、インフォーマントに暗示を与えるなりして、それが出るように配慮していただきたい。

なお、朝・昼など、時刻を指定したものについてもこれに従ってほしい。

d. 「あらすじ」

これは参考までに作ってみたものであり、これにとらわれる必要はない。

2. 場面の説明

- (5) a. 隣家の主人の所在をたずねる。
b. 老年層の男子Aと老年層の女子B。Bの夫とAは親しい友人。
c. 「どこに行ったのか」「～に行ったのだろう」「～には行かないだろう」「～咎だ」など疑問推量表現を得ることがねらい。
AはBの家に朝やって来て主人の所在を聞く。
d. ①朝、男Aが友人の家を訪ね、その妻Bに友人はいるかとたずねる。
②妻Bは大声で夫を呼ぶが返事がない。
③Bは夫がどこへ行ったのか自問自答しつつ、客にしばらく待ってくれるように言う。
④夫の所在について客と妻との間であれこれの推測をめぐらす。
⑤客は辞去する。妻はわびのことばを述べて送る。
- (6) a. 道で知人に会う。
b. 老年層の女子A, B。この2人は普段、ある程度のつき合いがあるが、親しすぎるほどではない。
c. ごく日常的な会話のスタイルを得るのがねらい。話題は家族のこと、物価のことなど何でもよい。AとBは日中に道でばったり顔を合わせる。
d. ①A, Bが道で出会って、あいさつをする。
②家族の近況についての会話がひとしきり続く。
③A, Bわかる。わかる時のあいさつ。

- (7) a. 道で目上の知人に会う。
b. 目上・目下の関係にある老年層の男子A,B(AがBより目上とする)。
c. 「どちらにいらっしゃるのですか」などの尊敬語や丁寧語を知るのがねらい。
d. ①道でA,Bが会う。まずあいさつ。
②BがAにどこへ行くのかを聞く。
③Aはそれに答え,更に今度はBの息子の様子をたずねる。
④Bの息子についての会話がひとしきり続く。
⑤A,Bはわかる。わかれのあいさつ。
- (8) a. (例えば宝くじに当たった)うわさ話をする。
b. 老年層の男子A,B。AとBは互いに親しい間柄。
c. 興奮した雰囲気の中での「～したそうだ」「あの～がねえ」「たいしたもんだ」などにあたる伝聞・詠嘆表現を得るのがねらい。
話題は宝くじでなくとも近所の人に関係している大ニュースなら何でもよい。例えば三つ子を生んだとか,交通事故とか,村長選挙の際の選挙違反で誰かがつかまったとかなど。
d. 宝くじを話題にしたときの例。
①Aが突然Bの家にかけてつける。
②Bはおどろいて何があったのかとAにたずねる。
③Aは近所の家に宝くじに当たったものがあることを知らせる。
④Bもおどろいて当選の真偽,当選額などについてAとやりとり。
⑤当選者の幸運をうらやんで2人で嘆息。

【収録内容について】

収録内容については、原則として次の事項を挙げることにする。

1. 地点名 [収録・文字化担当者 <同協力者>]
2. 録音年月日
3. 録音場所
4. 話し手の氏名・性・生年・職歴・居住歴・言語的特徴など
5. 録音環境(同席者・話の進行状況・場の雰囲気など)
6. その他

以下、各地点の収録内容について記す。

- 1 - 1. 青森県青森市大字牛館 [佐々木隆次]
 2. 昭和54年5月7日
 3. 青森市大字牛館字松枝 桜田敏光氏宅
 4. *桜田鉄弥(男) 明治36年生まれ 農業 この収録地点に生育し、まだ一度も他所に居住した事がない。ほんの少し耳が遠くなったらしく補聴器をつけているが、言語・動作共に常人と何ら変わらない。古いことば・発音を有している人はこの人が唯一である。
 - *八木沢千代三郎(男) 明治43年生まれ 農業のかたわら地元郵便局に大正14年～昭和37年まで勤務。昭和20年に約3か月間、横須賀市海兵団に勤務。この3か月間以外は他所に居住した事はない。
 - *棟方トミ(女) 大正2年生まれ 農業 18歳の時、この地点から5km西方の「細越(現在は青森市内)」から嫁入りし、以後この地に居住。
 - *坂本チヲ(女) 明治41年生まれ 農業 26歳の時、青森県南部浪岡町から嫁入り。文末部の表現が少しこの地と異なる点もあるようだ。
 5. 収録開始後に急に降雨があり、二階屋根に落ちる雨だれの音が部分的にかなり強く収録されている。同席者は佐々木隆次(司会者)、高山治氏(録音担当)。
 6. 収録地点の概観・収録した方言の特色などについては『方言談話資料(3),(7)』を参照。
- 2 - 1. 群馬県利根郡利根村大字追貝 [上野 勇 <杉村孝夫>]
 2. 昭和51年8月21日
 3. 利根村大字追貝 小林弥太郎氏宅
 4. *井上嘉十(男) 明治35年生まれ 東村(現利根村)役場勤務20年、追

貝土地改良委員10年。仕事の関係で新治村で3年,片品村根羽沢で8年,利根鉾山で2年ほど生活した。

*小林弥太郎(男) 明治40年生まれ 農業,神主 追貝以外の土地で居住した事はない。方言をよく保有している。

*小林よ志ゑ(女) 明治40年生まれ 農業 24歳のとき旧東村大字千鳥から追貝に嫁す(小林弥太郎氏の妻)。方言をよく保有している。

*井上トリ(女) 明治43年生まれ 農業 18歳のとき旧東村大字高戸谷から旧東村大字平川に嫁す。

5. なごやかなうちに収録が行われた。あらかじめ話題について打ち合わせを行った後,収録に入っている。
6. 収録地点の概観・収録した方言の特色などについては『方言談話資料(1)』を参照。

3-1. 千葉県館山市相浜 [加藤信昭]

2. 場面「隣家の主人の所在をたずねる」
「道で知人に会う」 } 昭和51年11月23日

場面「道で目上の知人に会う」 昭和52年1月12日

場面「うわさ話をする」 昭和51年11月28日

3. 館山市相浜 武田由蔵氏宅

- 4.*武田松雄(男) 大正6年生まれ 漁業 漁船にて各地をまわったが他所での定住はない。

*鈴木ぎん(女) 明治37年生まれ 無職 他所に居住した事はない。

*網仲きん(女) 明治30年生まれ

*西藤徳蔵(男) 明治37年生まれ 漁業 漁船にて各地をまわったが他所での定住はない。

*森 留吉(男) 大正11年生まれ 漁業 漁船にて各地をまわったが他所での定住はない。予定していた人が都合がわるくなり,そこに居合わせた森氏に急遽お願いした。多少アルコールが入っているらしく,そのため早口になってしまうところもあったが,大変な話好きで話題のあらましを話すと武田氏と共にただちに話し合いをされ,短時間で収録が完了した。

5. 初めての事なので多少のとまどいを感じられ,条件を理解しても,なお不安な表情の人達もいたが,次第に収録の雰囲気になれ,堅さもとれてきた。同席者は武田金市郎氏(昭和11年まれ,教職員)。
6. 収録地点の概観・収録した方言の特色などについては『方言談話資

料(5),(7)』を参照。

4-1. 新潟県柏崎市大字餅糰 [剣持準一郎]

2. 場面「隣家の主人の所在をたずねる」 昭和51年7月27日

場面「道で知人に会う」,「道で目上の知人に会う」 昭和51年8月17日

場面「うわさ話をする」 昭和51年7月26日

3. 場面「隣家の主人の所在をたずねる」,「うわさ話をする」 高橋真氏宅

場面「道で知人にあう」 高橋チユノ氏宅

場面「道で目上の知人に会う」 高橋武義氏宅

4.*高橋 真(男) 大正7年生まれ 農業 餅糰に生まれ現在までそこに居住。ただし昭和14年から6年間,兵役のため東京都および外国で過ごした。元気に大声で話す。頭の回転が早く,話のテンポも早く,ことばに飛躍があり,早口で聞きとりにくいこともあるが,俚語も保有し,また対話をリードしていく。

*高橋辰男(男) 大正9年生まれ 青年学校修了後農業のかたわら冬期間出稼ぎすること5年間,その後柏崎旧市内の養鶏場の労働に10年間従事し,その後現在まで柏崎旧市内の工務店に作業員として労働している。餅糰に生まれ育って現在に至るが,その間兵役のため中国等に5年,冬期のみ出稼ぎのため5年間関東方面に出かけた。齒もかけて居ず,元気に力強く話し,ことばは明瞭でとくに特徴はない。

*高橋初枝(女) 大正2年生まれ 農家の主婦 餅糰に生育し高等小学校1年修了後女工として出稼ぎし,前橋市に6年,京都市に4年居住の後帰郷し,農業に従事した。母は中頸城郡に最も近い市野新田生まれで,餅糰に嫁いで来た高橋サヨ氏で,昔話のよき伝承者であり,話者はその長女で家をついだ。高橋真氏の言によればこの家庭はことばづかいが丁寧であるという。敬語の使用が多いことを言っているようである。

*高橋チユノ(女) 明治34年生まれ 農家の主婦 隣の大字女谷(字)下野に生まれ,餅糰の母の生家に嫁いで来た。14歳の時東京に3箇月女中奉公した以外によその地での居住歴はない。話し好きで静かに情緒的に具体的に話す。古い方言を保有している。記憶も確かで,昔話のすぐれた伝承者である。父も教養のある人で田舎に珍しく漢籍を読んだ人であるという。

*高橋ミサノ(女) 明治39年生まれ 農家の主婦 生家は餅糰と同一大字の(字)北向。他の居住歴はない。上下の前歯が抜けていたが発

音はほとんど異常はない。この地方の代表的な昔話伝承者で、多数の話を保存しその語り調子は生き生きとして、内容も整っていると評されている。方言保有度も高い。

*高橋武義（男） 明治45年生まれ 会社員9年後農業を営みつつ村・市の議会議員等をつとめる。村会議員4年、柏崎市市会議員5年半、その他教育委員等の公職もつとめた。現在も市会議員である。現住地（録音場所に同じ）に生育し、柏崎農業学校に3年通学後、群馬県立蚕糸学校に入学し、群馬県に3年。その後京都市に1年、埼玉県に6年、四国地方に2年、計12年間32歳まで他県に居住した上帰郷し現在に及ぶ。学歴・経歴・教養・職業等の関係から、ことばは共通語化しているが、[kwa][gwa]オ列長音の開合の別を保有し、イとエの混同も時々あらわれる。元気よく明快地話し、話をリードする。剣道をたしなみ俳句も作り集落の中の旧家に属し、市の政界でも活動しているので調査地では高い階層に属し、尊敬されている。

*高橋森一（男） 明治38年生まれ こびき職 24年間冬季間だけ数か月間、群馬県などの関東地方に出稼ぎしたことはあるが、ずっと現住地に居住。老人で前下歯が3枚欠けているため間々発音が不明瞭となることもあるが、元気に話す。「ニガツ」(二月)「ホンガンジ」(本願寺)などの発音、理由をあらわす助詞「カラ」の使用など共通語化とみることもできる。

5. 柱時計の鳴る音が入ったところもあったが、いずれも同席者もなく静かな中で録音できた。
6. 収録地点の概観・収録した方言の特色などについては『方言談話資料(3)、(7)』を参照。

5-1. 長野県上伊那郡中川村南向 [馬瀬良雄]

2. 昭和51年12月11日
3. 中川村大草中川村福祉センター
4. *尾沢国蔵（男） 明治31年生まれ 農業 下平集落生育
*井沢賢一（男） 明治32年生まれ 農業 下平集落生育
*清水ちま（女） 明治37年生まれ 農業 下平集落生育
*寺沢直江（女） 大正3年生まれ 農業 鹿養集落生育
5. 録音中に、時に車のエンジンの音が入るなどのことはあったが、録音環境はほぼ良好であった。
6. 収録地点の概観・収録した方言の特色などについては『方言談話資

料(7)』を参照。

本調査には、信州大学人文学部学生徳本智恵美・細江厚子が同行し、録音操作にあたり、また、文字化作業で協力した。また、文字化作業と清書で馬瀬則子の協力を得た。

この調査では、話し手の紹介をはじめとして万端にわたって、中川村教育長(調査当時)湯沢俊氏の御協力を得た。また、中川村南向出身の清水悟郎氏(信州大学名誉教授)に録音テープを聞きつつ、原稿を見ていただき、最終的補訂を行った。

6-1. 静岡市南字中村 [日野資純]

2. 場面「隣家の主人の所在をたずねる」 } 昭和51年10月20日
「道で知人に会う」

場面「道で目上の知人に会う」、「うわさ話をする」 昭和51年8月16日

3. 静岡市字南中村 山本俊男氏宅

4. *佐藤吉平(男) 大正5年生まれ 農業 他所へ出ていない。
*山本俊男(男) 明治44年生まれ 農業 昭和6年(満20歳)~7年兵役(浜松航空隊)。昭和16年(満30歳)~17年南方方面出征(台湾・フィリピン・ミンダナオ島)。純度の高い方言の話し手。
*佐藤とし(女) 大正4年生まれ 農業 他所へ出ていない。おっとりした口のきき方である。
*後藤百々代(女) 大正2年生まれ 農業 他所へ出ていない。やや早口だが頭の回転はよい。
5. 話し手の方々以外に同席者はいない。
6. 収録地点の概観・収録した方言の特色などについては『方言談話資料(5)』を参照。

7-1. 愛知県北設楽郡富山村中の甲 [山口幸洋]

2. 昭和51年9月3日
3. 場面「隣家の主人の所在をたずねる」 } 小林ハルコ氏宅
「道で知人に会う」

場面「道で目上の知人に会う」、「うわさ話をする」 鈴木英雄氏宅

4. *鈴木清光(男) 明治27年生まれ 農林業 大正3年~5年まで兵役のため中の甲以外に居住した。
*鈴木英雄(男) 明治34年生まれ 農林業 他所へ出ていない。
*小林ハルコ(女) 明治41年生まれ 他所へ出ていない。

*堤ふじよ（女） 明治39年生まれ 農業 他所へ出ていない。

5. 話し手の方々は非常に協力的であった。
6. 収録地点の概観・収録した方言の特色などについては『方言談話資料(3)』を参照。

8-1. 福井県武生市下中津原町 [佐藤 茂 <加藤和夫>]

2. 昭和51年11月14日

3. 武生市下中津原町 加藤和夫氏宅の座敷

- 4.*谷口松樹（男） 明治32年生まれ 農林業 外住歴としてまとまったものはないが、若い頃から冬期間だけの杜氏(京都方面)の経験がある。方言はよく保有している。話し好きで話題も豊富。抜群の演技力の持ち主である。「ナンジャー」「アノ」「マー」「オメ」などの挿入句が口ぐせのようで頻りに用いられる。

*道端初江（女） 大正11年生まれ 農業 下中津原生まれの下中津原育ち。外住歴はない。独得の語末のゆすりイントネーションもよく残っている。

*下出寅義（男） 明治36年生まれ 農業 20年近い海軍現役兵としての外住歴をもつが、言語的には特にその影響は認められないようである。

*加藤よ志子（女） 大正10年生まれ 農業 外住歴はない。やゝ共通語化が目立つ。あるいは緊張していたせいかもしれない。

5. 担当者佐藤茂,協力者加藤和夫,そして女子学生3名が同席した。しかし,女子学生3名は話し手を緊張させないように,もっぱら隣室に控えている。話し手の方達は慣れるにしたがって会話も自然な調子で順調に進む。
6. 収録地点の概観・収録した方言の特色などについては『方言談話資料(4)』を参照。

9-1. 奈良県吉野郡十津川村那知合・谷垣内 [後藤和彦]

4.*東 正弘（男） 明治42年生まれ

*泉谷正彦（男） 明治35年生まれ 農業

*後木 弘（男） 大正11年生まれ 農業

*上垣セキ（女） 明治34年生まれ

*後木美智恵（女） 大正元年生まれ

6. 収録地点の概観・収録した方言の特色などについては『方言談話資料(2)』を参照。

10-1. 鳥取県八頭郡郡家町 [飯豊毅一・佐藤亮一 他3名]

2. 場面「隣家の主人の所在をたずねる」 } 昭和51年7月5日
「道で知人に会う」 }

場面「道で目上の知人に会う」,「うわさ話をする」 昭和51年7月7日

3. 場面「隣家の主人の所在をたずねる」 } 郡家町下津黒 郡家町農協
「道で知人に会う」 } 中私都支所の二階

場面「道で目上の知人に会う」,「うわさ話をする」 衣笠光寿氏宅

4. *衣笠光寿 (男) 明治38年生まれ 農業 上津黒集落生育
*土井頼重 (男) 明治30年生まれ 農業 別府集落生育
*衣笠トラ (女) 明治34年生まれ 農業 上津黒集落生育
*衣笠寿賀 (女) 明治33年生まれ 農業 上津黒集落生育

5. 郡家町農協中私都支所の二階は木造の建築で30畳敷き程度の和室。暑い日だったので窓を開けていたが,一方が道路に面しており,反対側が中私都小学校であったので,車の音や子供の遊び声が少し入ってしまった。同席者は郡家町教育委員会の衣笠日出男氏と丸山勉氏。衣笠光寿氏宅の応接間は新築の八畳ほどの洋間で,外からの騒音はあまりなかったが,比較的反響の多い空間だった。

6. 収録地点の概観・収録した方言の特色などについては『方言談話資料(6)』を参照。

ここに収録したものは,飯豊毅一,佐藤亮一,真田信治,沢木幹栄,白沢宏枝が録音作業を行い,文字化・注は,主として佐藤亮一と白沢宏枝が行った。なお,収録に当って,郡家町教育委員会次長(当時)衣笠日出男氏ほか,現地の方々のお世話になった。また,文字化に当って,上記衣笠氏,ならびに,鳥取県東京事務所主任佐々木明恵氏の御協力を得た。

11-1. 鳥根県仁多郡横田町大字大馬木 [広戸 惇]

2. 昭和51年8月6日

3. 横田町馬木幼稚園

4. *戸屋英明 (男) 明治36年生まれ 農業 高等小学校,農学校1年,同補習科1年卒業。2か年東京近衛兵として兵役を終える。そのためか,時折標準語が飛び出す。「モンダケン」というべきところを「モノダ

- カラ]、「ナッタドモ」というべきを「ナッタケレドモ」など。話し上手。
- *吉川幸吉（男） 明治35年生まれ 大工,副業に農業 高等小学校卒業。
 - *勝部定市（男） 明治37年生まれ 農業 高等小学校,農学校1年卒業。
 - *野原フジエ（女） 大正6年生まれ 農業 高等小学校,補習科2年卒業。
 - *戸屋マサヨ（女） 大正4年生まれ 主婦 高等小学校,補習科1年卒業。
5. 世話役の杉原清一氏(県文化財保護指導員=横田町担当)の協力を得た。蟬の音がしきりにするので,夏ではあったが蟬の声のする方の窓をしめ,他の側は水田に面して,時折鳥追いのガスで音を出す機械の音が聞こえるので止めてもらった。同席者は杉原清一,田中蛭一(島根大学助教授),小川昭男(馬木小学校教諭)。
 6. 収録地点の概観・収録した方言の特色などについては『方言談話資料(4),(8)』を参照。

1 2 - 1. 愛媛県越智郡伯方町木浦 [杉山正世 <江端義夫>]

2. 昭和52年11月1日
3. 伯方町立 老人の家
- 4.*村上寿一（男） 明治30年生まれ 無職 居住地の木浦以外に住んだ経験はない。旅行の目的で,しばしば島外へ出ることがある。生地方言の特色は失っていない。現在,伯方町の老人会連合会の会長をつとめる。
- *山岡寅夫（男） 明治42年生まれ 菊づくり農業 両親ともに木浦生まれである。木浦に生まれ木浦に育った。誠実で穏健な話し方である。土地ことばが,巧まずして流露する。
- *阿部ヒロミ（女） 明治38年生まれ 無職 木浦生まれ木浦育ち。純粹な土地ことばの話し手である。明朗で,親切心に富む。いま,木浦より1km北隣の瀬戸浜部落に住む。
- *阿部チヨエ（女） 明治37年生まれ 無職 木浦に生まれ木浦に育ち,木浦に嫁いだ人。父母も木浦の生まれ。ごく自然に,温かみのある木浦ことばが流露する。
- *馬越コクニ（女） 明治38年生まれ 農業 純粹の木浦っこだである。明確な発音で,自己の土地ことばを確かめるとく語る。時折,古態

の言い方があらわれる。

5. 場席は真剣さと信頼感とで貫かれて、収録時は静穏な雰囲気であった。話し手の発言がかさなって聞きとりの困難な部分もあるが、録音状況はおおむね良好。
6. 収録地点の概観・収録した方言の特色などについては『方言談話資料(6)』を参照。

1 3 - 1. 高知県南国市岡豊町滝本 [土居重俊]

2. 昭和51年10月27日
3. 南国市岡豊町滝本 田島正実氏宅
4. *山崎 貢 (男) 大正10年生まれ 農業 南国市常住。方言保有度やや大。
*山崎春井 (男) 明治35年生まれ 農業 南国市常住。方言保有度やや大。
*田島正実 (男) 明治29年生まれ 農業 南国市常住。方言保有度やや大。
*森田多賀恵 (女) 大正4年生まれ 22歳の時南国市久礼田より岡豊町へ移る。方言保有度やや大。
*窪添久子 (女) 明治34年生まれ 無職 高知市出身。20歳で結婚のため東京移転。約14年間居住後帰高。方言保有度小。
*窪添紺恵 (女) 明治43年生まれ 農業 南国市常住。方言保有度やや大。
5. 録音は良好。
6. 収録地点の概観・収録した方言の特色などについては『方言談話資料(2),(8)』を参照。

1 4 - 1. 長崎県西彼杵郡琴海町尾戸郷 [愛宕八郎康隆]

2. 昭和52年2月13日
3. 琴海町尾戸郷 平尾忠太郎氏宅
4. *平尾忠太郎 (男) 明治31年生まれ 農業 役職歴:小口実行組合長, 区長, 農業委員, P T A 会長, 寺総代。外住歴なし。方言保有度かなり高い。
*山崎キメ (女) 大正2年生まれ 農業 外住歴なし。方言保有度かなり高い。
*竹島マシ (女) 明治34年生まれ 農業 外住歴なし。方言保有度高

い。

*溝口誠治（男） 大正4年生まれ 農業 役職歴:町会議員。外住歴なし。方言保有度かなり高い。

*山崎政右衛門（男） 明治30年生まれ 農業 役職歴:教育委員。外住歴なし。方言保有度かなり高い。

5. 録音場所の平尾氏宅は、落ち着いた雰囲気です。静かな環境、良好な環境と言える。同席者は司会者の平尾美和子(学生)と愛宕の2名。
6. 収録地点の概観・収録した方言の特色などについては『方言談話資料(2)』を参照。

凡 例

1. 場面、文脈、特徴的音声、方言形の意味・用法などについての注は各章の末尾にまとめて記し、該当箇所を本文のそれぞれの位置に番号（かっこつき）で示した。
2. 発音や録音が不明瞭なため聴き取りが困難な箇所には~~~~線をつけた。
例 D アエ ドースベネス <31ページ13段>
3. 最終的に聴き取り不能の箇所には~~~~線のみを記した。
4. 言いよどみは、その末尾に-----線をつけた。
5. 複数の発言が重複した場合には、重複部分に_____線をつけた。
例 D ツカゴロ テンキ (Bアー) ツズガネンデネスア <29ページ5段>
6. 言いかけて、それを言いなおした場合には、言いかけた部分にxxxxxをつけた。
例 T ダンワ ダンナワ イマ イネンカイ <37ページ5段>
xxxxxx
7. 笑い声、咳ばらいなどは、(笑)、(咳)のように示した。
8. 同席者の短い発言や突然の訪問者のことばなどは文字化していない場合がある。その際や、録音テープを編集して談話内容の一部を削除した際には、該当箇所に*の符号をつけた。

場面(5)

隣家の主人の所在をたずねる

1. 青森市大字牛館

話し手

(略号)	(氏名)	(性)	(生年)
B	八木沢千代三郎	男	明治43年生まれ
D	坂本 千ヲ	女	明治41年生まれ

B オハヨー ゴザエマス。
おはよう ございます。

D ハエ オハヨー ゴザエマス。
はい おはよう ございます。

B ユーンベ アメ フテー ナガナガ キョーモ テンキ オモワスグ
昨夜(は)雨(が)降って なかなか 今日も 天気(が)思わしく
ネーネスア。
ないねえ。

D ンダキャ。ツカゴロ テンキ (B アー) ツンズガネンデネスア。
そうだよね。近頃 天気(が) (ああ) 続かないのでねえ。

B オンズチャ エネベナー。
お爺ちゃん(は) いないだろうなあ。

D アレ オンズチャー オンズチャー オンズチャー⁽¹⁾。ナンダテ
あれ。お爺ちゃん お爺ちゃん お爺ちゃん。 なんといても
ミンミ トーエドゴデ ソレァー。
耳(が) 遠いから ほら。

- B ヤッパリ トス エゲア⁽²⁾バ ミンナ オンナスダケンドモヨー。
 やっぱり 年(を) とると 皆 同じだけれどもよう。
 エンベナ マンダ アンナ フツタドゴデ。 ウー。 ナースロサ
 昨夜(は) また 雨(が) 降ったから。 えーと。 苗代に
 ミンズ ハエテ ミンズ アマテー ドゴモ アラハデ。 ナースロ
 水(が) 入って 水(が) 余っている 所も あるから。 苗代
 サ エタガモ スラネナー。
 に いたかも 知らないなあ。
- D ナースロサ エッタガサ タンボサ エッタガサスー。(B ウーン)
 苗代へ 行ったかしら 田んぼへ 行ったかしらさ。(うん)
 ウン。 ナンデモ キョー マンゴ⁽³⁾オ ミニ エグテスー。 ソー
 うん。 なんでも 今日(は) 孫を 見に行くとさ。 そいうぐあい
 ステ シャベテランデサネー。(B アーアーアーアー)
 にして シャベっていたんですよ。(ああああああああ)
- スタケンドモ マンダ ハイヤーハンデノー (B ウー) エガネ
 だけれども まだ 早いからのう (うん) 行かない
 ガド モッテラ ケンドモ (B ウーン) タスカ マ ナース
 かと 思っている けれども (うん) 確か 苗代
 ロサ エッタビョン。
 に 行ったたろう。
- B ウーン。 オバチャダラ モー ハー エー エー ゴンボダアンテ
 うーん。 お婆ちゃんは もう はあ えーと えーと 牛蒡なんか(の
 マエデ マッタベスー。
 種を)まいてしまったらうね。
- D アー ンナ ゴンボダラ マガネ。 ホルニ タエヘンダモノ。
 ああ いや 牛蒡は まかない。 掘るのは 大変なもの。

- B アーアーア、 (D ハー) ヘア⁽⁴⁾ ナッパエッポ⁽⁵⁾ンダナー。
 ああ ああ ああ (はあ) じゃ 菜、葉 一方 だなあ。
- D ンダ ナッパダバ カンタンダハンデノー。
 そうだ 菜、葉 なら 簡単 だからのう。
- B アーアーアーアー ワダ⁽⁶⁾キャ ナンモ ナッパモ マガネンデヨー。
 ああ ああ ああ ああ 吾は 全然 菜、葉も まかないでよう。
 ン。ヘバ ワー アドデ モ エッカエ キテ ミラハンデ。
 じゃ 吾(は) 後で もう 一回 来て みるから。
 モス マゴノ ドゴサ エッテ ネバ ワ マンダ チョット
 もし 孫の 所へ 行って いないなら吾(は)また ちょっと
 キキテャ ゴト アルンダハンデ (D ハー) アー モ エカエ
 聞きたい こと(が) あるんだから (はあ) ああ もう 一回
 エー キテ ミラハンデ。
 えーと 来て みるから。
- D アノ ホエ カエテカラ オズチャバ ヤッテモ エゴセア。
 あの 帰ってから お爺ちゃんを(あなたの家へ)やってもようございますよ。
- B エヤエヤ ワー キグ フトダハンデ。エー、オラホガラ キラハ
 いやいや 吾(は) 聞く 人 だから。えーと 俺の方から 来るか
 ンデ。
 ら。
- D ア ソンデスガ。
 ああ そうですか。
- B ア。ドーモ スミマセンデスタ。
 ああ。 どうも すみませんでした。
- D アエ ドースベネス。カラモ⁽⁷⁾ンドリサセデー。
 あれ どうしましょうね。 から戻りさせて。

B イヤイヤ。
いやいや。

注

- (1) 話者Dの夫への呼びかけ。
- (2) 当地は「年をとる」ことを「トス エグ」と表現することも多い。
- (3) 孫は他所に住んでいる。
- (4) 「そうすれば」—「そせば〔soseba〕」—〔seba〕—〔heba〕—〔hea〕。
- (5) あるいは「菜っ葉一本」の意かもしれないが、いずれにしても「菜っ葉のみ」である。
- (6) 漢字は「何も」。
- (7) 用を足さないで戻ること。

2. 群馬県利根郡利根村大字追貝

話し手

(略号) (氏名)(性) (生年)

A 小林 弥太郎 男 明治40年生まれ

B 井上 トリ 女 明治43年生まれ

A ハイ オハヨーゴザイマス。

はい、おはようございます。

B ハイ ハヤカッタムシ⁽¹⁾。

はい、早かったねえ。

A ゴクローサン ハヤカッタムシ。ドーシタイ カジューサン イル
ご苦労さん、早かったねえ。どうしたね 嘉十さんは 居る

カイ。

かね。

B アー イマ ソコニ イ イタダケド。ヨンデ クベーカ。

ああ、今 ここに 居たけど。呼んで 来ようか。

A ソーダムシ チットッペ⁽²⁾ ヨーガ アルカラ (アー ソーカイ。)

そうだね、少しばかり 用が 有るから (ああ、そうかね。)

ヨンデ モラウカナー。

呼んで 貰うかなあ。

B ジーサマ ダイカ キタヨー。 イッコ ヘンジガ ネ。ドー
爺様、誰か 来たよ。一向 返事が 無い。どう

シタッペ マー。ジャー マ シトッキリ マタサン⁽³⁾ マッテ ク
したろう まあ。では ま 一時 弥太さん 待って く

ンネーカイ マー。

れないかね まあ。

A ハイ ハイ ヨーゴザンス。

はい はい ようござんす。

B オイガ⁽⁴⁾ サガシテ クライ⁽⁵⁾。

私が 捜して くるよ。

A イーヨ ダイシタ ヨーデモ ナイカラ イナケリヤ マダ …。

いいよ たいした 用でも 無いから 居なければ また …。

B ソーカイ マ ソイデモ マー ソコニ イタダモノ。ヨンデ ク
そうがね、ま ⁽⁶⁾ それでも まあ そこに 居たのだから。呼んで 来
ラームシ。

るよ

A ソーカイ⁽⁷⁾。
そうがね。

B ソイジャー マー イッテ。ジーサマ ナニュー⁽⁸⁾ シティウダイ⁽⁹⁾
それでは まあ 行って。爺様、何を 為ているのだね
キラッシャイ⁽¹⁰⁾。マー イックラ ヨンデモ イッコー イネーヨ→
おいでなさい。まあ いくら 呼んでも 一向 居ないよ、
オラガ ジーサマー。キョーワ⁽¹¹⁾ ドウケー⁽¹¹⁾ イッタダッペ マー。
私の 爺様は。今日は 何処へ 行ったのだろう まあ。
キンジョエデモ イッタカナー マー。

近所へでも 行ったかなあ まあ。

A ヤマイデモ イッタカイ。
山へでも 行ったがね。

B アー→サガシテ ミテ クライ オイガ。デ マ キンジョー シ
ああ、捜して みて くるよ 私が。で、ま 近所を 一。
トッキリ マー アルッテ⁽¹²⁾ ミタケド マー ソダケド⁽¹³⁾ マタサン
時 まあ 歩いて みたけど まあ それだけど 弥太さん
イッコー イネーヤ マー キョー マー ドーシタダガナ⁽¹⁴⁾ ジャ
一向 居ないよ まあ、今日 まあ どうしたのだが。では
キョーワ テンキガ イーデ マ オウケーノ⁽¹⁵⁾ ホーイデモ テカ
今日は 天気が いいので 追貝の方へでも 出か
ケタダン ナンダガナ マー。シトッキリ マッテ クダイ。ジキ
けたのだが 何だか まあ。一時 待って ください。すぐに

クライ⁽⁵⁾。

来るよ。

A イーヨ イーヨ タイシタ ヨージャ ネーカラ マタ クライ⁽⁵⁾。
いいよ いいよ たいした 用では ないから また 来るよ。

B デモ クルヨー マー マッテラッシ⁽¹⁶⁾イ。マー オキ⁽¹⁷⁾デモ ダ
でも (おに)来るよ, まあ 待っていらっしい。まあ お茶でも 出
サイ。
すよ。

A ハイ ソー ソイジ⁽¹⁸⁾ャー ヨバレテクカナー。
はい, それでは ぞ馬也走になっていくかなあ。

B アー。
ああ。

注

- (1) 文末詞の「ムシ」は、利根郡の他、吾妻・甘楽・多野郡の所々で老年層によって用いられる。
- (2) 「チットッペ」は、「ばがり」の薙の「ベー」と「チット」の間に撥音が入り、「チットンベー」となったものが、促音化・無声化により生じた形。
- (3) 「マタサン」は、話し手B弥太郎の呼称の略称。
- (4) 「オイ」は、「オレ」の弱まり形。
- (5) 「クライ」は、「クラー」（くるよ）に文末詞「イ」が後接し、長音が脱落した形。
- (6) 「クラームシ」は、「クラー」（くるよ）に文末詞「ムシ」が後接したもの。
- (7) 小声で。

- (8) 「ナニュー」は、「ナニオ」の融合形。
- (9) 「シテ^ウダイ」の発音は、[ʃiti^udai] と二重母音的で融合してはいない。「シテルくシテイル」の「テ」の母音が狭まり、「ル」の子音が脱落した結果生じた形。ラ行の子音は、「ダイカくダレカ」、「オイかくオレガ」、「ソイジャーくソレジャー」のようによく脱落する。ここでも、まずラ行子音の脱落が起こり(シテウダイ)、ついで「テ」の母音の狭まりが起こったと思われる。
- (10) 「キラッシャイ」は、「来る」の未然形「キ」に、丁寧の意を表す助動詞(ただし、この形(命令形)のみ)「ラッシャイ」が後接したもの。他に、「モッテガッシャイ」(五段活用の後接形)、「マッテラッシャイ」などの用例がある。
- (11) 「キョーワ」は、半長音の[kjo·wa]。「ドークー」は、[do·ke:]。
- (12) 「アルッテ」は、「アルク」の音便形。「アルッタ(歩いた)」とも。「あちこち行って捜して」の意。
- (13) 「ソダケド」は、「ソレダケレド」の弱まり形。
- (14) 「ガナ」は、自問を表す文末詞。
- (15) 話者Bの家は、平川にあるので「追貝の方へ出かけた」という発話が生ずる。収録地(追貝)ではなく、自宅にいる立場の発話。
- (16) 注(10)参照。
- (17) 「ダサイ」は、「ダサー」(出すよ)に文末詞「イ」が後接し、長音が脱落した形。注(5)参照。
- (18) 「ご馳走する」の意で「ヨブ」という。「ヨバレテク」は、「ヨバレテイグ」の弱まり形「ヨバレテグ」の「テ」の母音が無声化したために「グ」は、無声音にはさまれ、子音・母音共に無声化した形。

3. 千葉県館山市相浜

話し手

(略号)	(氏名)	(性)	(生年)
T	西藤 徳蔵	男	明治37年生まれ
G	鈴木 ぎん	女	明治37年生まれ

T オハヨー イルカノー。
おはよう いるかねえ。

G アイ イマスヨー。 アンダカイ。
あい いますよ。 なんですか。

T アー キョーワ イー テンキダノー。
ああ きょうは 良い 天気だねえ。

G アイヨ イー テンキダノー。
あいよ 良い 天気だねえ。

T ダンワ ダンナワ イマ イネンカイ。
旦那は いま いないのかい。

G エー イマスヨー。 オトツツァン オトツツァン。 エ イマ
ええ いますよ。 お父さん お父さん。 え いま

ホニ イタッケン ドイ イッタダオカヤー チョット マッテ
そこに いたけど どこへ 行ったのだろうか ちょっと 待って

クダッ クラッシュェーヤ ミテ クルカラ。 ホントニ ドイ
くたさいよ 見て くるから。 本当に どこに

イッタダオカヤ。

行ったのたろうか。

- T アー イソギン ヨージャ ネーカラ マタ キベヨー。
ああ 急の 用事で ないから また 来ましようよ。
- G エエ ショガネーノー サッキマデ マエノ ナヤニ イタッケン
ええ しょうがないねえ さっきまで 前の 納屋に いたのだけど
ヤー キット ハマエワ イガネッペヨー シヤクショイ イグ
ねえ きっと 浜へは 行かないでしようよ 市役所へ 行く
ヨーガ アルカラッチッテ ユッテタカラヨ クミアイデモ イッ
用事が あるからって いったからね 組合でも 行っ
タンデネダオカヤー。スグ カエッテ キベカラ オチャデモ
たんでないたろうかね。すぐ 帰って 来るたろうから お茶でも
ノンデ マッテデテ クラッシェサヨー。
飲んで 待っていて くださいよ。
- T エー オレ マダ チョット ヨーガ アルカラノー マタ アト
ええ 俺 まだ ちょっと 用事が あるからね また 後
デ キベヨー。
で 来ましようよ。
- G アイー ホーカイー (T アー) ワリーノー。 カエッテ
あれえ しょうかねえ 悪いねえ。 帰って
キタラ ハナスベーカーラノー スイマセンヨー。
来たら 話ましようからね すみませんねえ。

4. 新潟県柏崎市大字折居字餅粮

話し手

(略号)	(氏名)	(性)	(生年)
A	高橋 真	男	大正7年生まれ
B	高橋 初枝	女	大正2年生まれ

A オハヨァー ゴザエマスワ。
おはよう ございます。

B ハエ オハヨァー ゴザエマス。
はい おはよう ございます。

A キョァーワ アサカラ ムシアツツエヨァーナ テンキデスネー。
今日は 朝から むし暑いような 天気ですnee。

B ソァーデスネー。
そうですねえ。

A オトツツァン⁽¹⁾ エラレマスカネ⁽²⁾。
ご主人 いらっしゃいますかね。

B サー タッタ エマ エサシタンダガ⁽³⁾。 オトツツァン。 タッタ
さあ たった 今 居られたのだが。「おとつあん。」 たった

エマ ココネ エサシタンダガ (時計の鳴る音) ドコエ
今 ここに 居られたのだが どこへ

エカシタデショァーネー⁽⁴⁾。
行かれたでしょうnee。

A ソッカネー。
そうかねえ。

B ハー タッタ エマ ココラネ エサシタノダガ。
はあ、たった 今 ここらに 居られたのだが、
(5)

A テンキガ エースケァ タンボァ コァーコァー ミズミーニ
天気が いいから たんぼへでも 水を見に
エカレマシタヤラネー。
(6)
行かれましたやらねえ。

B エヤ タンボワ エカンネアート オモエマスイデスエネ。
いや たんぼには 行かれないと 思いますのですよ。

キョアーワ ノアーキョアーエ チート ハナシガ アルテ ユー
今日は 農協へ すこし 話があると 言っ
テ エナスタノデススケァー。
て 居られたのですから。

A アー ソァーッカネー。
ああ そうかね。

B ハエ タッタ エマ ココラネ エサシタノデスガネー。
はい、たった 今 そこらに 居られたのですがねえ。

A ソァッカネー。 ドコエ エカッタカナー。
そうかねえ。 どこへ 行かれたかなあ。

B ソァーデスネー。 マダ チット ハヤエースケナント モテ
そうですねえ。 まだ ちょっと 早いかなどと 思っ
タンボエデモ デカケ ナスツタデショァーカネー。
(7)
たんぼへでも 出かけられたでしょうかねえ。

A ソァーデスネー ドコエ エカッタカナー。 エヤ アンマリ
そうですねえ どこへ 行かれたかなあ。 いや あまり

エソグ ヨージデモ ネースカラ⁽⁸⁾ マタ キマサネー⁽⁹⁾。
急ぐ 用事でも ないですから また 来ますわねえ。

B ソーデスカエネー カ^x カエッテ ゴザシタラ⁽¹⁰⁾ オト シマシヨアー
そうですねえ 帰って 来られたら 連絡 しましょう
カエネー。
かねえ。

A エヤ ワザワザー オト シテ モラワンデモネー アノ マタ
いや、わざわざ 連絡 して もらわなくてもね あの また
ワタシ キマサネ アスビナガラネー。
わたしが 来ますわね 遊びがてらにねえ。

B ソーデスカエネー。
そうですねえ。

A ハエ。
はい。

B ソー セヤ マー アッデスドモ オレガ⁽¹¹⁾ ゴザシャレヤ ソア
それでは まあ なんですけれども、わたしが 来られれば そう
エテ⁽¹²⁾ ハナシテ オキマステスエネ⁽¹³⁾。
言って 話して おきますですよ。

A ア ソアッカネ。
ああ そうですねえ。

B ハエ。
はい。

A マ ソアー シテテ クダサエ。
まあ そう しておいて 下さい。

B ハエ。
はい。

- A ジャ マー オジャマ シマシタ。
では まあ お邪魔 しました。
- B マー ソラ マー ゴクローサーサマデ ゴザエマシタ。
まあ それは まあ 御苦勞さまで ごさいました。
- A ゴメン ナスツテ クダサエ。
ごめん なさって 下さい。
- B ゴメン ナスツテ クンナサエ。
ごめん なさって 下さい。

注

- (1) オトツツァン 壮年以上の男主人をその家族や附近の人が呼ぶ時に用いる語。方言的。最近は共通語化して「オトーサン」が増加している。
- (2) エラレマス いらっしゃいます。ラレルは全年層に用いられるこの方言の古い尊敬の助動詞である。話し手Aは尊敬表現はこの「レル・ラレル」で一貫している。昔話にも多用されている。
- (3) エサシツタ 居られたの意。「サシツ」は「サシャル」の連用形。「サシャル」は動詞「する」の尊敬語「サシャル」が補助動詞となったもの。「サツシャル」（基本形）は老年層用語で「レル・ラレル」（軽い尊敬）より新しく、「ナサル」より古いものと思われる。刈羽郡・柏崎市地方の一般の尊敬表現の地方共通語的なものは「ナサル」である。「サツシャル」はそれより使用頻度は低いが敬意はそれと同等であろう。「エサシツタ」は最も敬意の高いやや古い表現であり、それを自己の夫について他の人に語る時に用いているのである。こうした敬語の使い方は中越北部方言の一つの特徴である。
- (4) エカシタ 四段活用の未然形に「シャル」という尊敬の助動詞の連用形。前期江戸語の「エカシツタ」と関係があろう。(3)の「サツシャル」と意義は同じ。

- (5) タンボア コアーコアー 話し手は「タンボヤナンカ」(たんぼなど)と言ったと主張するが早口で発音がゆがんでそのようにはききとれない。
- (6) タヤラ 発音をはっきりしない。話し手にきいて分った。
- (7) ナスツタ 補助動詞尊敬のナサルの連用形。前述のシャル・サッシェル類より新しいものらしい。
- (8) ネースカラ デスのデがたまたま落ちたもので、一般的なことではない。
- (9) キマサネ 「来ますわね」の変化。「サネ」は丁寧呼びかける。老年男性語か。
- (10) ゴザシ 「ゴザッシャル」(来られる)の連用形。老年層用語。
- (11) オレ 男女全年層の自称代名詞。親しい人に対する時用いる。
- (12) エテ 促音も長音もない。言って。
- (13) マスデス 改まって、二重に丁寧語を使っている。

5. 長野県上伊那郡中川村南向

話し手

(略号)	(氏名)	(性)	(生年)
A	尾沢 国蔵	男	明治31年生まれ
B	寺沢 直江	女	大正3年生まれ

A ゴメンナンショ
ごめんください。

B アー オオヨリトクンナイショ⁽¹⁾
お寄りください。

A ハールカ アメア フットッタケード キョーワ テンキガ ヨク
長いあいだ雨が降っていたけれど、きょうは天気が
ヨク ナツテ キモチガ イーナオン
良くなって気持が良いいね。

B ソーエナ イー オテンキン ナツター (A アー)
そうですね、良いお天気に なって……。

A オジサマ オルカナー
おじさま いるかね。
(= 御主人)

B ハー アノ オルニ オヨリトクンナイショ
いるから お寄りになってください。

A ソーカナ チョット イキアイテート (B アー) オモッテ
そうですね。ちょっと 会いたいと 思っ……。

B オトーサン アー イマ オッタ ワケダガ⁽²⁾ ドー シツラ アー
お父さん、 今 いた わけだが どう したろう
マー チョット オヨリトクンナイショ ミテ クルニ
ちょっと お寄りになってください、見て 来ますから。

A ハイ アリカトー ゴザイマス
ありがとう ございます。

B ドコ イッタカー (A アー) ドコイモ イク (A オイ)
どこへ 行ったか。 どこへも 行く

フキヤー ネーガ
わけは ないが……。

A アー オイデンヨーダカナー
いらっやらないようですかね。

B チョット ミアタランケード⁽¹⁾モ一
ちょっと 見当らないけれども……。

A ホホー ソイジャー オテンキガ イーデー ハタイデモ イッタ
それでは お天気が いいから、火田へでも 行った
カ シランナウン
か しれないね。

B サー タバコ カイ⁽³⁾デーモ イッタ⁽⁴⁾ンダカモ シラン⁽⁴⁾ナー(A ア一) マ一
火煙草を 買いにでも 行ったのだかも しれないね。
ジキ カエルラ⁽⁵⁾ニ マ一 カケトクンナイショ
じき 帰るだろうから お掛けください。

A ア一 ソーカナ アリカト一 ゴザイマス マ一 タイシタ ヨ一
そうですか。ありがとう ございます。 大した 用で
ジャー ネ一 チョット一ノ ヨーダガ ア一 イソカシー ヨ一
は ない、ちょっとの 用だが……。 忙しい 用で
ジャー ネ一デ マタ デムイテ⁽⁶⁾ コズヨ
は ないので、また 出向いて 来ようよ。

B ア一 ソーカナ
そうですか。

A ア一

B ソリヤ マ一 モーシワケナカッタナウン
それは 申しわけなかったですね。

A ア一 ドーモ オジヤマ イタシマシタ
どうも。お邪魔 いたしました。

B ソイジャー マ一 カエツタラー アノ イクヨ一ニ イワズ⁽⁷⁾カナ
それでは 帰ったら 行くように 言いましょう

ナウシ
かね。

A ヤ ソンネン シテ クレナンデモ⁽⁸⁾ オレ マタ デカケテ クル
そんなに して くれなくても, 俺 また 出掛けて 来る

デー
から……。

B アー ソーカナ (A ハー) ソイジャー マー マタ オイデ
そうですか。 それでは また いらっや

テ オクンナイショ
って くださいませ。

A キタッチュ コトダケ チョット ユットイテ オクンナンヤレ
来たという ことだけ ちょっと 言っておいて 下さいよ。

B ハイハイ

A オネガイシマス
お願いします。

B ソリヤ マー アリカトー ゴザイマシタ
それは ありがとう ございました。

A アー ドーモ オジヤマシマシタ
どうも お邪魔しました。

B マー アリカトー ゴザイマシタ
ありがとう ございました。

A アー

注

- (1) -ナンショは少し年代が新しくなると、このようにナイショとも言われる。
- (2) [wakedaː̃]。
- (3) 在来の方言ならばカウエー。
- (4) -ナーは少し年代の下の人ではナウンと同じように軽い敬意と親愛の気持をこめて用いられる。
- (5) カエルラニのルの子音は顫動音的。
- (6) デムイテの前に僅かな言いよごみがある。
- (7) -ズは「意志」を表わす。
- (8) モは、[mo]の子音[m]のように、完全に両唇は閉じていないと見られる。

6. 静岡市南字中村

話し手

(略号)	(氏名)	(性)	(生年)
C	山本 俊男	男	明治44年生まれ
D	佐藤 とし	女	大正4年生まれ

- C オハヨー。キョー カゼ フク ヒダケガ トーサン イタカヤー。
おはよう。今日は 風が 強い 日だけと 御主人は いたかね。
- D ウラノ ハタケニ イルラ。
裏の 畑に いるだろう。
- C ンー。
うん。
- D アノー ヨンデミルカ。
呼んでみるか。
- C ンー。
うん。
- D トーサン トーサン。ドケー イッタノカナー。
父さん 父さん。〔返事がない。〕どこへ 行ったのかなあ。
- C ンー。
うん。
- D チット マッテテクレ。ミテクルデ……。
ちょっと 待っていてくれ。見てくるから……。
- C ンー。
うん。
- D ドッコニモ イナエーヤー。〔時計の音〕ドケー イッタダカナー。
どこにも いないや。 どこへ 行ったんだかなあ。
- C ンー ヤマニデモ イッタンデーレ。ソイカ タンボデモ……。
うん 山にでも 行ったんだろう。 それとも 田んぼにでも……。
- D ヤマニャー イカネーツケガナー。
山には 行かなかったんだがなあ。
- C ンー。
うん。

- D ナンダカ ヤクバニ ヨーガ アルツテケン ソッチーデモ イッ
 何だか 役場に 用があるということだったから そっちへでも 行っ
 タジャ ナエーカ。
 たんじゃ ないか。
- C ソーカ。
 そうか
- D ンー。 タバコデモ カエー イッタジャ ナエーカナー。
 うん。(それとも) タバコでも買いに行ったんじゃ ないかなあ。
- C ソエジャーナー……。
 それじゃなあ……。
- D ンー。
 うん。
- C アノー イナエーヨージャサー……。
 いないようならなあ……。
- D ンー。
 うん。
- C オレモ イソガシーモンダンデサ……。
 私も 忙しいものだからさ……。
- D ンー。
 うん。
- C マタ アトデ クルンデー (D ンー) アノー トーサンニ
 また あとで 来るから (うん) 御主人に
 ユツテテクリョーヤー。 オレ カエールカラ……。
 言っておいてくれよ。 私 帰るから……。
- D セツカク キテクレタニ ワリーツケナー。 ンジャー……。
 せっかく 来てくれたのに わるかったねえ。 それじゃ……。

- C ナニ マタ クルヨ。
 なに、また 来るよ。
- D ナニジャツタラ マタ ワリーッケガ マタ キテミテ……。
 なんだったら また わるかったけれどまた 来てみて(下さい)。
- C シー。 ソー ソーシテ……。 タノムヨ。
 うん。 ××× そうして(みるよ)。 たのむよ。

7. 愛知県北設楽郡富山村中の甲

話し手

(略号)	(氏名)	(性)	(生年)
S	鈴木 清光	男	明治27年生まれ
K	小林ハルコ	女	明治41年生まれ

- S 「イヤ (K ハッ) ゴンチワ ドーモ。
 いや 今日 はどうも。
- K アー ゴンニチワ ゴマッタ オテンキデ ゴザイマス。
 今日は 困った お天気で ございます。
- S 「ケッコーナ オテンキデ ゴザイマス ドーモ アノ コーヘー
 けっこうな お天気で ございます どうも あの 幸平

サワ¹ ド¹チカイ オイデタカ¹ナ.

さんは どこかへ おいでかな.

K アレー¹ オト¹ーサン¹ アー¹ ヘンジガ¹ ナイガ¹ (S ンー)

あれ? 「お父さん」 ああ 返事が ないが

「チョ¹ット ヨ¹ソイ デカケタラ¹シーガ¹ (S アー) マ¹ー

ちょっと よそへ 出かけたらしいが まあ

オジサン ワルカ¹ッタ¹ネ¹ー.

おじさん わるかったね

S ア¹ー ソ¹ーカ (K エー) ジャ マ¹タ¹ デ¹テ (K エー)

ああ そうか では また 出て

オメニ カカル¹デ.

お目に かかるから.

K マ¹ー ソ¹ーシテ オク¹ンナサイ ド¹ーモ ~~~~~ デシタ¹ アッ.

まあ そうして 下さい どうも

S ソ¹イジャー ゴ¹メンナンショ¹ー ド¹ーモ アッ.

それでは ごめん下さい どうも.

8. 福井県武生市下中津原町

話し手

(略号) (氏名) (性) (生年)

S 下出寅義 男 明治36年生まれ

K 加藤よ志子 女 大正10年生まれ

S オハヨーゴ⁽¹⁾エス。 オインナルケ⁽²⁾ノー。
おはようございます。 いらっしゃいますかね。

K アラ ヨー オインナ⁽³⁾リマシタ。
あら よく おいでになりました。

S キョーワ テンキ⁽⁴⁾ャ イーシノー。
今日は 天気は いいしねえ。

K ホントニ キョーワ オテンキ⁽⁵⁾ャ イーテ⁽⁵⁾スネー。 サッキ⁽⁵⁾ャー
本当に 今日は お天気は いいですねえ。 さっきは

チョット オテンキ⁽⁶⁾ャ ワルソーデシタケド⁽⁶⁾ イー テンキニ ナ
ちょっと お天気は 悪そうでしたけど いい 天気にな
リンシタ⁽⁶⁾ネー。
りましたねえ。

S アンサン⁽⁷⁾ イナハルカ⁽⁸⁾。
ご主人 いらっしゃるか。

K ハイー イルト オモウンテ⁽⁹⁾スケド。 トーチャン トーチャン。
はい いると 思うんですけど。 父ちゃん 父ちゃん。

アラ ドコ イッタンジャロ。 チョット ミテクルテ⁽⁹⁾ チョッ
あら どこへ 行ったんだろう。 ちょっと 見てくるから ちょっと

ト マットクンナセ。
待って下さい。

S ベツニー イソイダ⁽¹⁰⁾ ヨージッテ⁽¹⁰⁾ャ ネンジャケドカノー。 マター
別に 急いだ 用事というのは ないんだけどもねえ。 また

キテモ イーケドノ⁽¹¹⁾。
来ても いいけれどね。

K ホントニ ドコ イッタンジャロ。 サッキマデ⁽¹¹⁾ ココニ イタト
本当に どこへ 行ったんだろう。 さっきまで ここに いたと

(12)
オマウンジャケド。

思うんだけれど。

S ^{xxx}エ テンキガ エー⁽¹³⁾ンデノ ヤマニデモ イッタンカノー。
天気が いいからね 山にでも 行ったのかねえ。

K サー キョーフ タブン ヤマエワ ^{xxxxxxx}イカン イカント オモウン
さあ 今日は たぶん 山へは 行かない 行かないと 思うんだ
デスケド。 サー タバコデモ カイニ イッタンジャネンジャロ
けれど。 さあ たばこでも 買いに 行ったのではないだろうか。
カ。

S ^{xxxxxx}イナ イヤー マタ ⁽¹⁴⁾ジブンモ マタ ヨシテモロテモ イー。
いや また 自分も また 寄せてもらっても いい。

K ホーデスカ。 スンマシェン。 カエッタラ スグ シラシエルサ
そうですね。 すみません。 帰ったら すぐ 知らせるから
ケノー。
ね

S ン イヤー イーヨ。 タイシタコッテァ ネンジャデエ マタ ^{xxx}ヨ
うん いや いいよ。 たいした事では ないんだから また
ヨシテモラウー。 (K 笑) サイナラ。
寄せてもらう。 さよなら。

注

- (1) 朝の挨拶。オハヨゴジェンスがよく用いられる。ohajo:godzensw
→ ohajo:godzeⁿsw → ohajo:goeⁿsw
- (2) 「居る」の尊敬語オインナルの連体形。
- (3) 「来る」の尊敬語オインナルの連用形。もちろん「行く」の尊敬語としてもオインナルは用いられる。
- (4) [teŋkiã]
- (5) [sakkiwa]
- (6) 「なる」「なった」の丁寧表現としてそれぞれナレンス、ナレンシタという形式がある。
- (7) 他家の主人をさしていう時の言い方。さらに丁寧な呼称としてオア
ンサン、さらにダンナンがある。
- (8) [inaharuka]。[h]の聞こえが弱くイナルカに近く聞こえる。
- (9) 主に中年層で妻が夫を呼ぶ時に用いられる。
- (10) [jo:dʒittɛə]
- (11) イーンニャケド……と言いかけてイーケドノと言っている。[i:ⁿke-
donoⁿ]
- (12) オモウに対して終止形・連体形にかぎりオマウという形があらわれ
ることがある。
- (13) [e:ndenoⁿ]
- (14) 一人称代名詞としてのジブン。軍隊用語の名残かと思われるが、当
地方言では現在でもわりに聞かれ、若年層でも稀に聞かれることがあ
る。
- (15) [ʃifaʃelʷsakeno:]

9. 奈良県吉野郡十津川村那知合・谷垣内

話し手

(略号)	(氏名)	(性)	(生年)
A	泉谷 正彦	男	明治35年生まれ
B	上垣 セキ	女	明治34年生まれ

A ア オハヨー.

あ おはよう.

B オハヨーサン.

おはようさん.

A キンノーノ ユー ユーダチン ドージャッタ. キビシカッツロー
 昨日の ~~xxx~~ 夕立の どうだった. 厳しかったろう
 が.
 が.

B キビシカッタヨ. (笑)

厳しかったよ.

A キビシカッタロー. オートン ドクソ イタカ.
 厳しかったろう. お父さんは 何処(へ) 行ったか.

B オトロシーヨーナ ナッツラ ダ. (笑)

恐ろしいような 鳴ったろう ね.

A ンー ノーラー. オトーワ ドクソ イタカ. オトーワ
 ねえ. お父さんは 何処(へ) 行ったか. お父さんは

ドクソ イタカ。 シランカ。
何処(へ) 行ったか。 分からないか。

B ンー。 ヒラダニ^一ー イッタンジャ ナーカシラン。 (A サー)
平谷に 行ったのでは ないかしら。 (さあ)

ダマッテ イッテ ワカランヨ。
黙って 行って 分からないよ。

A ンー。 アノ シモ オトナシーヨッテノーラ。 (B 笑)
あの 衆も おとなしいからね。

ハナシ~~~~~ ダマッテ イクンジャロ。 サー ヒ^{xx} ヒラダニ^三
黙って 行くのだろう。 さあ 平谷に

イッタンカイヨ。 カマ カターテ ヤマイカンゾ⁽¹⁾ イタンジャ
行ったのかいね。 鎌(を) 担いで 山へでも 行ったのでは
ナーカ。
ないか。

B イッタハズジャヨ。
行ったはずだよ。

A イヤ ヤマエ イテ アノー キノ エダカンゾ ツキヨールン
いや 山へ 行って あの 木の 枝なぞ

ジャ~~~~~ナーカ~~~~~ト~~~~~ツ~~~~~ト~~~~~ チガウカ。 ジャ~~~~~ゼス。
違うか。 だぜ。

B ヒラダニ^三 イッタト モウンジャケンド。
平谷に 行ったと 思うのだけれど。

A ウン ウン ウン。 ソリャ イッタンカイノー。
うん うん。 それは 行ったのかいね。

注

- (1) 「山へかなぞ」と直訳できる。すぐ後のキノエダカンゾも同様に「木の枝かなぞ」となる。

10. 鳥取県八頭郡郡家町

話し手

(略号)	(氏名)	(性)	(生年)
A	衣笠 光寿	男	明治38年生まれ
B	衣笠 トラ	女	明治34年生まれ

A オハヨーゴザンス。
おはようございます。

B エー ハヨーゴザンスナー。
はい おはようございます。

A アノ コノ オジーサンワ オ⁽¹⁾レレルカエ。
あの、この(家のおじいさんは 居られるかね。

B サー オジーサンワ イママデ ココラーニ オッダダケド イマ
さあ おじいさんは 今まで ここらに 居たのだけれど。今

チョット…。 オジーサン オジーサン オランダカー。 ミツサン
ちょっと…。 (大声で) おじいさん! おじいさん! 居ないのか。 みつさん
ガナー ヨーガ アッテ キテオ⁽²⁾レーダガ オジーサン。 ナンボ
がなあ 用が あって 来ておられるが おじいさん。 いくら
オメ⁽³⁾ー ヨンダッテ コリヤー オリヤーセンダガ。 デモ…
お前 呼んだって これは 居りは しないが、 でも…

A マ チョット サガエーテ ミテエーナ⁽⁴⁾ ソ^{xx} ソトノ マーリュウ。
ま ちょっと 探して 見てください 外の あたりを。

B マー ンナラ ウラノ マワリニ イキテ ミューカ。
まあ それなら 裏の あたりに 行って みようか。

A スマンナー。
すまないなあ。

B ダケド ウラニモ オルサーニャ アリヤセンシヨ。 ナニヨーダ
だけど 裏にも 居りそうには ないしね。 何の用だ?
ーア。

A サーナー ショードクー ワカイ モン スルツチュオルケド
さあなあ 消毒を 若い 者が すると言っているけれど
ナシノ^oオ。 チョット タランケー アンネーニ イキテ ミー
梨のを。 少し(消毒薬が)足りないのので あの家に行き見なさい
アンネーニ アリヤーセンカッテ ユーケーニ ソレデ^o キタダケ
あの家に行き ありはしないかと 言うから それで 来たんだ
ドナ。
けどね。

B ソーカー。 ウチゲーニャナー アノモンダガ⁽⁵⁾ ワカイ モンガ
そうかあ。 私の家ではなあ あのう 若い 者が

ナンデモ サクマウダケー⁽⁶⁾ ショードクグスリガ ドンナンガ
 何でも とりしきっているから 消毒薬が どんなのが
 アルダー ナイダー オジーサンワ チョットモ シットリャー
 あるのか ないのか おじいさんは 少しも 知っては
 センダケー オジーサンダエー イケメーア アノ ワカイ コガ
 いないのだから おじいさんでは ためだろう 若い 子が
 モドッタラ ワカルダケド---.
 戻ったら 分かるのだけれど。

A ンナ マ (B ~~~~) ヒルー ナエート ナンダワ (B ン)
 それではま 昼で ないと なんだね

ハジ⁽⁷⁾ モドッテカラ (B エー) マタ クルヤーニ スルケーナ.
 はじが 戻ってから (ええ) また 来るように するからな。

B サー. オジーサンダエー ワカルマエーヤ アノー ワカイ
 さあ. おじいさんでは 分かるまいよ 若い

モンデ ナキャーナー. アルワー. ダ ダンダンニ ⁽⁸⁾ サー
 者で なければねえ.(あるには)あるよ. ^{xx}あれこれ何人もの人が

ソイッテ コラレルケナー.
 そう言って(借してくれと言って)来られるからね。

A マ マタ (B ソッ---) ンナ クルケーナー.
 また それでは 来るからね。

B エー. ンナ マー モドッタラ アノ コガ ソシタラ (A
 ええ. では まあ 戻ったら あの子が そうしたら (

エー) トーテ ミトクヤーニ ショーカ.
 ええ) 問うて(聞いて)みておくように しようか。

A エー ハジニ ⁽⁹⁾ ンナ ソノコト タノンデーテナ.
 ええ はじに では そのことを 頼んでおいてね。

B エー。 ゴクローサンデシタ。
ええ。 御苦労さんでした。

A ドーモ (B ~~~~~) オジャマシマシタナー。
どうも お邪魔しましたねえ。

B エー ナニガ。 スンマセン。
ええ どういたしまして。 すみません。

注

- (1) 「オリョルカエ」とも聞こえるが、話者によれば「オラレルカエ」と言っているつもり。
の由。
- (2) 「キテオレーダガ」と聞こえるが、話者によれば「キテオラレルダガ」と言っているつもり。
の由。
- (3) あまり意味のないつけたし(間投詞的)。
- (4) 用例「コノ本読ンデューナ」=この本を読んでください。
- (5) アノモンダガ 言いさしのことば。「あのう」
- (6) さくまえる ①整理する。整頓する。広島・愛媛。②指図する。
山口県大島。(『全国方言辞典』)
- (7) Bさんの息子の「はじめ」氏のこと。
- (8) ダンダンニ いろいろ。たくさん。「あれこれ何人もの人が」は意訳。
だんだん ①いろいろ。いつもいつも。「ダンダンお世話になります」島根・壱岐。②略(『全国方言辞典』)
- (9) 注(7)参照。

11. 島根県仁多郡横田町大字大馬木

話し手

(略号)	(氏名)	(性)	(生年)
A	戸屋 英明	男	明治36年生まれ
B	戸屋マサヨ	女	大正4年生まれ

A ヤー オハヨー コンツィワ。
やあ おはよう 今日は。

B ハイ マー オハヨーゴザイマスィ。 オエデマスィタ。
はい まあ おはようございます。 いらっしゃいました。

A ナント キョーワ エー テンキニ ゴザイマスィネ。
なんと 今日は よい 天気にございますね。

B ハイ マー キョーワ テンキニ ナリマスィタネ。 キューニ
はい まあ 今日は 天気になりましたね。 急に
アツィー ナリマスィタネヤ。
暑く なりましたねえ。

A オズィズワ オツィン オーカネ。
お爺さんは 家に 居るかね。

B アー サッキマデ オーマスィタガ。 オトーサン アラー ドコ
ああ さっきまで 居りましたが。 お父さん あらあ どこ

エ エッタデショーカー。 チョット マー デテミマスィケン
へ 行ったのでしょうか。 ちょっと まあ 出て見ますから

マッチョックテクダサエンシエヤ。⁽¹⁾

待っていて下さいませ。

A エヤー ベツィニ イソイダ ヨーズィ ジャーナイケン ソイジャー
いやあ 別に 急いだ 用事ではないから それでは

マー マタ コート キマショーカ。
まあ また ^{xxxx} 来ましょうか。

B マー ソゲデスィカ。 ドコ エッタデスィヤラネ。 サッキマデ
まあ そうですね。 どこへ 行ったですやらね。 さっきまで

モ ニワニ オーマスィタドモネヤー。
^{xxx} 庭に 居りましたけれどもね。

A ヤー テンキガ エーダケンネ。 ヤマエデモ イカレタジャーナ
やあ 天気が よいのだからね。 山へでも 行かれたではない
イカネ。

かね。

B サー エンヤ オーカタ ヤマーエワ キョーワ エカンダラート
さあ いいや おおかた 山へは 今日 行かないだろうと

オモイマスィガ。 ヤクバノホーエ ヨーガ アッテ デルヨーニ
と思いますが。 役場の方へ 用が あって 出るように

イッテオーマスィタケン マー オーカタ タバコ カエニドモ
言っておりましたから まあ 多分 たばこ(を) 買いにでも

イッタジャニヤイカト オモーデスィガネー。 マー カケチョツテ
行ったのではないかと 思うのですがねえ。 まあ(腰を)かけていて

クダサエンシエ。

下さいませ。

A イヤー ワスィモ ホカニ ヨーズィガ アーケン ジャー マタ
いやあ 私も 外に 用事が あるから では また

キマスイワ。

来ますわ。

B ソゲーデスイカ。 マー スィンマシェン。 マタ カエツタラ
そうですか。 まあ すみません。 また 帰ったら

ホンナラ ヨースイ スィマスイワ。⁽²⁾

それなら お知らせしますわ。

A イヤイヤ ヨーゴザンスイヨ。 ベツィニ ヨースイ スィテモラエ
いやいや よろしいですよ。 別に 知らせて貰わなく

デモ⁽³⁾ ジャー ア タイスイタ ヨーズィ ジャーナイデスイケン。
ても では あ たいした 用事ではないですから。

ジャ サエナラ。

では さよなら。

注

(1) 「クダサンセ」がこの人のは「クダザエンセ」に聞こえる。

(2) 様子のこと、ここでは「知らせる」の意。

(3) 中国地方は、否定に「イデ」を用いる。「モラワンデモ」と同じ。

12. 愛媛県越智郡伯方町木浦

話1并

(田号)	(氏名)	(性)	(生 年)
A	<u>ヤマオカトラオ</u> 山岡寅夫	男	明治42年生まれ
B	<u>シマコシコクニ</u> 馬越コクニ	女	明治38年生まれ

A オハヨ一。コクニサーン。
お早う。 コクニさん。

B ハ一。 オハヨ一。 トラサン ハヤイジャ (A ア一。) ナイ カ一。
はあ。 お早う。 寅さん。 早いでは。 ああ。 ない かね。

A イヤ一。 ガイニ ハヤモ ナインジャ ガ オイサンワー ナン カ
いや。 たいへん 早くも ないのだが、 主人さんは、 何 かね。
↑
1. オッテ カナ。
おられる かね。

B サ一 イマ ソコニ オッタンジャ ガ チョット一 ヨンテ ミヨ
さあ、 今、 そこに いたのだが、 ちょっと 呼んで みよう
一 ワイ。 (A シ一。) オイサン。(1) ウ テモ オラン ヨーナケニ
わい。 (くん、 あなた!) ~~xxx~~ ~~xxxxxxxx~~ いない ようだから。(2)

(A シ一。) ドツカエ (A ア一。) イッタ ンカシラン。
くん。 どこかへ (ああ。) (行った) のかしら。

A ソ一 カナ。 イヤ一 ソリャ マー タイシタ ヨージモ ナイン
そう かね。 いや、 それは まあ、 たいした 用事も ないの

ジャケンド ナ。 (Bソー。) オッタラー チョット ハナシ シ
 だけけれどね。 (ん。 いたら。 ちっと 話(を) し

トラト オモイヨッタ ンヨ。
 ちと 思っていた のよ。

B アー ホー カ。 (Aソー。) ソリャ チョード カ ワルイガ
 ああ。 そう ね。 (うん。 それは。 ちうど。 悪いけれど、

エンドー ⁽³⁾ ハマジョ / ⁽⁴⁾ ホーイ ヨージガ アリソーニ イオッタ
 浜の 方へ 用事が あるように、 言っていた

ガー ソノ ホー イツタンジャロー カノー。
 ね その 方へ 行ったのだから かね。

A ハーハー。ソー カナー。 (Bソー。) イヤー ソリャー ナン
 はあはあ。 じい かね。 (ん。 じゃ、 それは 何

ヨー。 カマン ノヨー。 タイシタ ヨージモ ナインジャケンド
 よ。 かまわない のよ。 たいした 用事も、 ないのだけれど

ナ。 (Bアー。) ンジャツタラー マタ キマス ワイ。
 ね。 (ああ。 だったら、 また 来ても よ。

B ツテ キノドクナガイナラ ⁽⁵⁾ ソーシテ モラオ カノー。
 気の毒だけれど、 そうして もらおう かね。

コッチカラモ マタ イツテモ カマンケンド。
 こちからでも また、 行っても かまわないけれど。

A イヤー。 イヤー。 ソガン シテ ⁽⁶⁾ モラワイデモ ナ。 (Bアー。) [↑]
 いえ。 いえ。 そんなに して もらわなくても ね。 (ああ。

ワシガ マタ コッチー ナン ヨー。 フルトキニ アンタ ト
 私が また、 こちへ 何 よ。 来る 時に、 あなた(の) 所

コエ ヨツテ ミマス ワイ。
 へ 喜んで みます よ。

B ア ソ カ (A エ エ) ソ レ ヒ ナ ラ ソ シ テ モ
 ああ、 そう、 かわ。 (ええええ。) それなら、 そうして も

ライ マ シ ョ。

らいましゅう。

A エ ッ エ ー ヤ ー ド ー モ オ ジ ャ マ シ マ シ タ ー。

えっ ええ。 やあ。 どうい お邪魔しました。

B ソ リ ャ ソ リ ャ (A シ ン シ ン) ゴ ク ロ ー テ ゴ ザ イ マ シ タ。
 それほ、 それほ、 (ほん。) ご苦労で、 ございました。

- (1) オイサン……妻が夫を、他人の面前で、大声で呼ぶ時のことば。
訪問者Aも、「オイサン」と呼称している。
- (2) ケニ……広島県では、「ケー」と言うことが多いが、当地では、
明確に、[keni]と発音するのが注目される。
- (3) ワルイガエンドー……前後の文意から推して、「悪いけれど」の
意と解される。
- (4) ハマジョ……漁所の意か。山の手の人が、海岸辺をさして言う。
- (5) キノドクナガイナラ……気の毒だけれど、と意訳した。
- (6) モラワイデモ……仲四国で広く、このような否定形式が、見られ
る。
- (7) ソレ ヒナラ……前後の文意から推して、「それなら」の意と解さ
れる。後の確認調査で、「ヒナラ」は「ホナラ」とも変形するこ
とが判った。「ヒ」「ホ」は、「ソレ」に由来するものであろ

13. 高知県南国市岡豊町滝本

話し手

(略号) (氏名) (性) (生 年)

A 田島正実 男 明治29年生まれ

B 森田多賀忠 女 大正4年生まれ

A コンニチワ。 オハヨーサン。
今日は お早うさん。

B ハイ オハヨーサン。 マー ハイッ トーゼ。 ハイッ テ クレ
はい お早うさん。 まあ はいって下され。 はいって くれと
ユータマ キタナイ トコロノガ。 ココニデモ カケト
言たつて きたない ところだ。 ここに でも かけて
ーぜ。
下され。

A オーキニ。 オーキニ。 トキニ キョーワ アジャー マサニ
ありがとう。 ありがとう。 時に 今日は あしは 正に
ちッコリ ヨージンガ アッテ キタンガー ハヤ ミエンガ
とつと 用事 が あつて 来たが はや 見えな
ドコゾ シゴトニデモ デテ イタカヨ。
どこか 仕事 に でも 出て 行つたかね。

B デタ - イカン。 イカン。 キョーワノー アサノ ウチ ウ
出ては いかない。 いかない。 今日はねえ 朝の うち う
チノ ウエキノ テイレデモ シタ コーカ イーヨッ タキニ
その 種木の 手入れでも しておこうかと言つていたから

ソコニ オルト オモウ^ンガ ち ット ヨンデ ミル。オン⁽¹⁾ヂ
 そこに いると 思う^ンが ち ッと 呼んで みる。おじ
 ー^ン。オン⁽²⁾ヂー^ン。マサミサンガ ヨー^ンジ^ンガ アッ
 ー^ン。おじい^ン。正^ニ実^ニさんが 用^ニ事^ニがあ
 テ キテ クレ^ニチュ^ニー^ニキ^ニニ ち ッコリ モ^ニド^ニッ^ニテ キテ ミー
 テ 来て くれてる から ち ッと もど^ニッ^ニテ 来て^ニみ^ニな^ニさ
 ヤ。オン⁽³⁾ヂー^ン。オン⁽⁴⁾ヂー^ン。アッ^ニ イ^ニン^ニマ^ニマ
 い^ニ。おじい^ン。おじい^ン。おれ 今^ニま
 ン^ニデ アコ^ニデ ミエ^ニヨ^ニッ^ニタ^ニニ オ^ニラ^ニン^ニガ ン^ニド^ニコ イ^ニタ^ニロ^ニー^ニ
 ン^ニデ お^ニそ^ニこ^ニで 見^ニて^ニい^ニた^ニめ^ニに い^ニない^ニが ど^ニこ^ニに 行^ニた^ニら^ニう^ニ。
 ア^ニテ^ニン^ニガ ち ッコリ イ^ニテ ミ^ニテ ク^ニル^ニキ^ニニ ち ッ^ニク^ニト マ^ニチ^ニヨ
 わ^ニた^ニし^ニが ち ッと 行^ニッ^ニて 見^ニて 来^ニる^ニから ち ッと 待^ニッ^ニて
 ッ^ニト^ニー^ニゼ^ニ。
 テ^ニ下^ニされ^ニ。

A ナン^ニチ^ニー ナン^ニチ^ニー。ソ^ニン^ニナ^ニニ ワ^ニザ^ニワ^ニザ ヨ^ニビ^ニニ イ^ニテ
 い^ニヤ い^ニヤ。そ^ニん^ニな^ニに わ^ニで^ニわ^ニで 呼^ニび^ニに 行^ニッ^ニて
 モ^ニラ^ニイ^ニン^ニチ^ニ ⁽⁵⁾チ^ニ ソ^ニー カ^ニク^ニベ^ニト^ニ イ^ニソ^ニイ^ニン^ニダ ヨ^ニー^ニジ^ニン^ニデ^ニモ
 も^ニら^ニは^ニな^ニく^ニた^ニッ^ニて そ^ニう^ニ 格^ニ別^ニ 急^ニい^ニだ 用^ニ事^ニでも
 ナ^ニイ^ニン^ニガ^ニン^ニチ^ニキ^ニニ マ^ニタ バ^ニン^ニカ^ニタ^ニニ^ニン^ニデ^ニモ ン^ニデ^ニナ^ニオ^ニシ^ニテ ク
 な^ニい^ニめ^ニだ^ニから ま^ニた 夕^ニ方^ニに^ニでも 出^ニ道^ニして 来
 ラ^ニー^ニヨ^ニ。
 ち^ニあ^ニし^ニ。

B ソ^ニー^ニカ^ニヨ^ニ。キ^ニー^ニワ ヒ^ニル^ニカ^ニラ コ^ニク^ニブ^ニノ ⁽⁶⁾ユ^ニキ^ニコ^ニン^ニク^ニノ^ニノ^ニー
 そ^ニう^ニか^ニね。今^ニ日^ニは 昼^ニか^ニら 団^ニ分^ニの 雪^ニ子^ニの 家^ニの^ニね^ニえ
 コ^ニン^ニレイ^ニエ イ^ニカ^ニナ イ^ニカ^ニン^ニヨ^ニー^ニニ ナ^ニッ^ニチュ^ニー^ニキ^ニニ メ^ニッ^ニソ^ニー
 婚^ニ礼^ニへ 行^ニか^ニな^ニい^ニけ^ニな^ニい^ニよう^ニに な^ニッ^ニて^ニる^ニから ち^ニあ^ニまり

エンポーエヤ イキヤ センロート オモウケンド ヒョットヤ
遠方へは 行きは しないだらうと 思うけれど ひょっと 山
マナカノ ミセエ タバコソデモ カイニ イタカモ ワカラ
海 の 店 へ たばこでも 買いに 行ってるかも わかる
ン。 チョット マチヨッテ ミトセヤ。
はい。 すこし 待っていて みて下され。

A ソー マチヨッテモ エーケンドノー。 ワシャー チョーンド
うん 待っていて も いいけれどねえ。 わしは とうとう
ケサ ヨー ジノ アル ヒトソガ キテ クレル ユトニ ナッチ
今朝 用事のある 人が 来て くれる ことになつて
ヨルキニ マタ ヒートイソデナオシテ クラヨ。
るから また 一日 出直して 来らあ。

B ソーカヨ。 ソリヤ ショー スマンノー。 ホンナラ モンドリ
そうかぬ。 それは たいへん すまないねえ。 そんなら もどり
シゲダイ オマシクエ ヤルヨーニ スラヨ。
次第 あんたとへ 行かせようにするあ。

A ソーカヨ。 ソリョーソドマシテニ シテ モライシテ チカマ
そうかぬ。 それほどまでに して もらわなくても かま
ソガンガ ケンドノー。 ホンナラ ハヨー モドッテ キタラ
わらないのだけれどねえ。 それなら 早く 帰って 来たら
おッコリ アシクエ オコシテ クレルカヨ。
ひょっと わしとへ 戻して くれるかぬ。

B ハイ ショーチシマシタ。
はい 承知しました。

A ソドモ ソドモ オテオ トメマシタ。
どうも どうもお手ととめました。

B ノドモ アリゲトー ヲゴザイマシタ。
どうも有りがとう ございました。

A オーキニ。 オーキニ。
有り難う 有り難う。

注記

(1)(2)(3)(4) これらのチは [di] にやや近い。

(5) このチは [ti] にやや近い。

(6) 地名

14. 長崎県西彼杵郡琴海町尾戸郷

話し手

(略号) (氏名) (性) (生年)

A 平尾忠太郎 男 明治31年生まれ

B 山崎 キメ 女 大正2年生まれ

A オハヨー。 ココン ⁽¹⁾ジードナ オラルッジャロ カー。
おはよう。 この じいさんは おられるだろうか。

B オハヨーゴザイ マース。 オジーサーン。 ア ⁽²⁾オラーンゴタル
おはようございます。 おじいさん。 あ おらないようだ
バーイ。

ねえ。
A アー ⁽³⁾マメナカ モンジャッケン ネー アリヤ。 ドコンカシコ
ああ こまめな 者だから ねえ あれは。 どののかしこ
ンノテ チヨロチヨロ チヨロチヨロシテ サルイター ⁽⁴⁾ウリヤ
のと ちよろちよろ ちよろちよろして 歩き回って いくら
キテモ ⁽⁵⁾ヤーワ エン ター。
来ても 会うことはできないよ。

B ドコニ イキマシタトデシヨ カヤー。
どこへ 行きましたのでしょう かね。

A シラン。
知らない。

B ハタケニ イタッデシヨ カネー。 ドコニ イタッデシヨ カネ
畑に 行ったのでしょう かね。 どこに 行ったのでしょう かね。
ー。

A サ ⁽⁶⁾ミゾグチエデモ ⁽⁷⁾イタツジャ ナカロ カネー。 マター デ
さあ 溝口(人名)へでも 行ったのでは なかろう かね。 また 出
ナエテ コズバー。
直して 来なければ。

B ドーモ ワザワザ キテ モラッテ スイマシェンデシタ ネー。
どうも わざわざ 来て 貰って すみませんでした ねえ。
アリガト ゴザイマシター。
ありがとうございます。

注記

- (1) 「ジードナ」は、「ジードンナ」の連声形からのもの。
- (2) 「オラーンゴタル」の「ゴタル」は、「ゴトアル」から存立を
みた、比況の助動詞。
- (3) 「マメナカ」は、ふつうは「マメカ」。
- (4) 「ウリャ」と聞こえるが、話者は、「イクラ」と言っているつ
もり。
- (5) 「ヤーワ」は「アイワ」（会いは）の音変化。
- (6) 「ミゾグケエデモ」の「エ」は、ふつう、「ニ」、「サニャ(ン)」
である。
- (7) 「イタツジャ」は、「イタトジャ」の音変化。

場面(6)

道で知人に会う

1. 青森市大字牛館

話し手

(略号)	(氏名)	(性)	(生年)
C	棟方 トミ	女	大正2年生まれ
D	坂本 チヲ	女	明治41年生まれ

D アレ ムナガタサンテ ネガー。
あれ(詰) 棟方さんで ないか。

C アエ。
はい。

D ワエ スンバラグダジャー。
わあ しばらくだね。

C アエ サガモンドサンテ ネガー。
あれ(詰) 坂本さんで ないか。

D アエ ソンダエーヤ。 (C アエー) ワガッテルー。
はい そうだよ。 わかっている？

C ワガッテル ワガッテル。 (D ~~~~~) スンバラグダノー。
わかっている わかっている。 しばらくなのう。

D スンバラグダノー。
しばらくなのう。

C ンー。 アンダノ マンゴダキヤーワ オキグ ナタベスーア。
あなたの 孫 は 大きく なったろうね。

- D ウーン. モー スタテス ヨメコ モラネ エンダモノー.
うん. もう だってさ 嫁(を) もらう(の)に いいんだもの.
(C ウーン ホダエノー) タッテノー⁽¹⁾ ナガナガ オモーヨニ
(うん そうだよのう) だってのう. なかなか 思うように
エガネッキャー. (C ンー) オラ モラルンデ ネァスサー.
いかないよね. 私(が) もらうんで ないしき
(C アー) ホンニン モラウンダハンデノー. (C アー)
(ああ) 本人(が) もらうんだからのう. (ああ)
アンダダッテ アエダベサ⁽²⁾. マンゴ タエスタ オッキグ ナッタ
あんただって あれだろうさ. 孫(が) たいへん 大きく なった
ベサ.
ろうさ.
- C ホンダー. オエノ. レー. マンゴ. ハー. マズネ エル ヤズ.
そうた. 私(の)家の. ほれ 孫(は) はあ. 町に(住んで)いる 奴(は).
ハー アエダオ⁽³⁾. キョネンノ アギ. ハー. ヨメコネ ナッテ
はあ あれだよ. 去年の 秋. はあ. 嫁に なって
エッテサー. (D ウン. 咳) シテ エンマ ハー マンダ
行ってさ. (うん.) そして 今 はあ また
ウナム ドゴダオ. ホレー. (笑) マエル ドゴダオン.
生む ところだよ. ほれ. 生まれる ところだよ.
- D ダノ. トコサンノガー. (C アー) アーレアー (C ウン)
誰の(こと)か. トシさんの(こと)か. (ああ) あれ(まあ) (うん)
ウン. ユキエ コ マンダ.
うん. ユキエ(は)子(は)まだ(生まないか)?
- C ウン ユキエアズ⁽⁴⁾サ マンズ アエダ. フタリ アッテァ (D ウン)
うん ユキエ(は)さ ます あれだ. 二人(の子)が(あ)って (うん)

ソステ. ハー. オッキ アズ コーダオン. (D ウーン)
そして. はあ. 大きい 奴(は) 高校だよ. (うん)

ウーン. (D ホンダエノー) (咳) ユーコちゃん. アンダノ
うん. (そうだよのう.) 雄子ちゃん. あんたの(家の)

ユーコちゃん ドゴニ エルベア.

雄子ちゃん(は) どこに いるだろう.

D アサヘカワニ エルノ (C ウーン) トーエハンデス ナガナ
旭川(市)に いるの (うん) 遠いからさ なかな

ガ アソブニ コレァネス ホレァー.

か 遊びに 来れないし ほれ.

C アー. ンー ステ. タエコチャ ドーステルベァー.

ああ. そして. 妙子ちゃん(は) どうしてるだろう.

D タエコ アキタ. (C ウーン) コナエダ アソブニ キテ
妙子(は) 秋田(だ). (うん) この間 遊びに 来て

アッタバタテスア. コンドワ ユックリ アソブニ コヘヤ.
いたけれどさ. こんどは ゆっくり 遊びに 来て下さい.

(C アー) ノー.
(ああ) のう.

C アー アンダモ コンド (D アエ) ユックリ キテノー.
ああ あんたも こんど (はい) ゆっくり(遊びに)来てのう.

D オラモ エガハンデノー (C アー) ユックリ コンダ ハナ
私も 行くからのう (ああ) ゆっくり こんど 話

スコ スビスサ.

(を) しようさ.

C ホンダエノー.

そうだよのう.

- D アー。 ノ 上 オダガエニ マー ワルグ ナネンデ ナガエギ
 ああ。 のう お互いに まあ(体が)悪く ならないで 長生き
スビスサー。
 しようさ。
- C マ。 ナガグ エギルエニ ステノー。
 まあ。 長く 生きるように してのう。
- D ノー。 ウンダ。 ナガグ エギテ …… (笑)
 のう。 そうだ。 長く 生きて…
- C ウン エズネンデモ ナガグ エギレバ マンダ トグダッキャ。
 うん 一年でも 長く 生きれば また 徳だよね。
- (D ウンダイノ) ア エンマノ ヨノナガノー。
 そうなの 今の 世の中(は)のう。
- D ウン (C アー) ダンダン エグ ナラハンデノー。
 うん (ああ) たんだん よく なるからのう。
- C アー。 マ。
 ああ。 ま。
- D ジャ。
 じゃ。
- C ウン コンド マ ユックリノー。
 うん こんど まあ ゆっくり(話そう)のう。

注

- (1) 「スタッテノー」の「ス」が聞こえない。
- (2) 「アエ」の指示内容は以下の「孫が大きくなったろう」ということ。
- (3) 「アエ」の指示内容は以下の「去年の秋、嫁になった」とこと。
- (4) 「アズ」は「奴」。

2. 群馬県利根郡利根村大字追貝

話し手

(略号) (氏名)(性) (生年)

A 小林 与志^と女 明治40年生まれ

B 井上 トリ女 明治43年生まれ

A シバラクダッ タネー オトリサン。

しばらくだったねえ、おトリさん。

B アー シバラクダッ タムシー。

ああ、しばらくだったねえ。

A マー ヒサシブリダネーカ。

ああ、久し振りじゃないか。

B アー ヒサシブリダッ タムシ。

ああ、久し振りだったねえ。

A ベツニ ビョーキモ (Bア) シナカッ タカマー。

別に 病 気も (Bああ) しなかったかね。

B アー オイモ マー ソイデモ ヨワラズニ マー カセーデタ⁽²⁾

ああ、私も まあ それでも 弱らずに まあ 精出して働いていた

トコダ。

ところだ。

A アー ヨカッ タゲ ダイ。(B アー。) オトリ サン⁽³⁾ ...
ああ 良かったようだね。(B ああ。) おとりさん

B コン ター⁽⁴⁾ タッ シマ ダイ ノ。
あなたは 達者 かね。

A アー。
ああ。

B ヨカ ッ タ ...
良かった ...

A ケ コ⁽⁵⁾ シナ カ ッ タカ ヤ ノ。
養蚕 しなかったかね。

B ケ コ シネ ダ サー。(A アー ソ カイ。) タカ ター⁽⁶⁾ チ ッ ター
養蚕 しないのだよ。(A ああ。そう かね。) だから 少しは
ラク ター シ タ ト コ サー。
楽を した ところさ。

A ヘ ノ。 オ ラー ケ コ シ タ ワ ケ ダ ケ ド サー。(B シ ノ。)
へえ。私は 養蚕 したわけだけどもさあ。(B うん。)

B ジ ャ ツ カ レ タ チ ノ。
では 疲れたなあ。

A ア ー ソ イ デ モ サー オ ラー ク ワ ク レ ル ッ キ リ デ (B シ ノ ノ)
ああ。 それでもさあ、私は 桑を やる だけで (B うん。)
ア ノ コ ガ ト ッ テ キ チ ャ ー ク レ ル カ ー。⁽⁷⁾⁽⁸⁾
あもう 子供が とって きては くれるから。

B ソ ノ イ ジ ャ チ ッ ター ラ ク ガ デ キ ライ チ ノ。
ふうん それでは 少しは 楽が できるよなあ。

A イツコー セワーネーサ。
一向 世話がないさ。

B ムカシノ ヨージヤ ネー。(A アー。) ショ ワット⁽⁹⁾ イーモノー。
昔の 様では ない。(A ああ。) (桑を)背負わなくても いいもの。

A アー。マー アレダケド オメーラガチジャ ワケーシガ アサ
ああ。まあ あれだけど あなた達の家では 若い人達が 朝
イチ ネーンジュー イグデ (B ア。) イーゲダイ。
市に 年中 行くので (B ああ。) いいようだね。

B リイダッテ ケコー シネーダモノー (A ンソー) アサイチ
それでも 養蚕を しないのだから 朝市
グレー チッター シナケリヤ ヤッテゲネーヤイ ダッテ⁽¹⁰⁾
ぐらい 少しは しなければ やっていけないよ、だって。

A ソナ コター ネーサー。(B 笑) オメーラガチジャ マーズ ア
そんな ことは ないさ。 あなた達の家では まあず あ
レダッ チュグレー コンニャク ガ オメー (B ア。) ナンチョーブ
れだというぐらい 蒟蒻が、 あなた (B ああ。) 何町歩
モ アルダッ チューモノー。
も 有るのだというもの。

B コンニャク コンニャク センモンダッ チューフーダー。(A ン
ソ。) ケド インキョ サマダカラサー (A オラガチナンザ サー)
うん。) だけど 隠居様だからさあ、 (A 私の家などはさあ)
イツコー セワーネー。
一向 世話がない。

A オラガ ウチナンザ⁽¹¹⁾ アレダデ オメーラガチノ キゴト アレ
私の 家などは あれだよ、 あなた達の家のも 木ごと あれ

ダオ⁽¹²⁾ セリアウグレーシカ ウチノデ ネーダテ⁽¹³⁾。

だよ、 競争り合う位しか 家ので 無いのだよ。

B アー ソレカイ。(A アー。) ソイデモ マー イロイロ スルカ
ああ そうかね。(A ああ。) それでも まあ 色々 するが
ら。(イロイロッ、タッ、テ) オラガチワ ソレツキリダモノー。

ら。(A 色々といっても) 私の家は それきりなもの。

A ダメサー オ_{xx} オッカーガ⁽¹⁴⁾ オラガチジヤ ホラ オツトメ_{xx}タッペ
駄目さあ、 おっ母が 私の家では ほら、お勤めだろう。

二。

B ンー ソレダカラ イーヤイ。

それだから いいよ。

A アー。ソレダカラ イッコー アイサー オレガ ウチュー マ_{xx}マゴマ
ああ。それだから 一向 あれさあ、私が 家を、 まごま
ゴ シテルダカラ ソージモ(B アー) シナケリヤ ヒデー モンガ。
ごしているものだから 掃除も(B ああ) しなければ ひどい ものさ。

B ソイダッ、テ イーヤ(A 笑) イロイロ スレバ ホンナ⁽¹⁵⁾ デキネー
それだって いいよ、 色々 すれば そんな できない
モノ。ウチュー キレーニ スレバ シゴトガ デキネー。
もの。家を きれいに すれば 仕事が できない。

A マー ハヤク イエバ オーチャクナ ホーサナー。ソージ シネ
まあ 一言で 言えば 横着な 方さなあ。掃除をしな
ーナンチュー(B ンー)ナー。(笑)
いなどという のは。

B オーチャクデモ ネーヤ。ソイダケ ヤレバ オーデキダ。オラガチ
横着でも ないよ。それだけ やれば 大出来だ。私の家

ナン⁽¹⁶⁾ ナーニモ シネーッ^ッッテ イッ^コ (A ヤー^ダ)^ニモ
などは 何も しなくても 一向, 何も

シネー。
しない。

A ダメダイナー。オタガイニ ホラ トシー トルト。
駄目だよなあ。お互いに ほら, 年を とると。

B デモ ヨメゴガサー アサイチニ イッチャー ソイデ マー ク
でも 嫁がさあ 朝市に 行っては それで まあ く
ルカー (A シー) カセグ ワケジヤ ネンカヤ
るから 嫁ぐ わけでは ないの。

A ソーダイネー。
そうだよねえ。

B デ ココノチノ⁽¹⁷⁾ ヨーニ イロイロ シネーダカラ (A シー)
この家の 様に 色々 しないのだから
ソレッキリダカー。(笑)
それきりだから。

A ダッテ オタガイニ タチバガ アルカラサー (B アー)
だって お互いに 立場が あるからさ (B ああ)
ショーガネーダイナー。デ コドモガ ...
仕方がないよなあ。 子供が ...

B タダ^ラ タダ ラケー シテモ オラガ スル 下キノ ヨー^ジ
ただ ただ(嫁)楽を しても 私が する 時の 様では
ネーサー。(A シー) ケーコモ シナキヤー ナニモ シネーダカー。
ないさ。 養蚕も しなければ 何も しないのだから。
アサイチダケダ。
朝市だけだ。

A ダッテ オラー ケーザイガ ソレデ ヤッテゲレバ (B ハー。)
だって ほら 経済が それで やっていければ (B はあ。)
イーダイ。

いいよ。

B マー イート スルダイナー。

まあ、いいと するのだよなあ。

A ンー。 ッテ ホネー オルバーガ (B ナー) アージャ アンマー。
骨を 折るばかりが 能では あるまい。

(B 咳払) オレガ ウチニ イル ジブン⁽¹⁸⁾ナンザー ホーントニナ
私か 家に いる 時分などは 本当になあ

ー (B 笑) アサハンマーニ オマー ウチジューデ アサ アレダ
朝飯前に、あなた、家中で あれだ

PPER (B 笑) サクキリ イッテ キテ。 (B ソーダ。ソ 笑)
ろう、 さく切りに 行って きて。 (B そうだ。)

オメラガ ウエノ キリドーシ ノボッテグト ゴーット スルホド
あなた達の家の 上の 切り通しを 登っていくと ぞっと するほど

サブカッタデー。(B 笑)

寒かったよ。

B ソンナ トキダッテ (A ンー) アサズクリ⁽¹⁹⁾ シタダモンナー。

そんな 時だって 朝づくりを したのだものなあ。

A アンナ オマー シタッテ イッコー □ □クニナー チニモ
あんな 思いを しても 一向 ^{xx} るくになあ、何も

トリャー サレネンダ⁽²⁰⁾。(B 笑) イマナンザ オーチャクー シー
取れは しないのだ。 今などは 横着 した

シー トレルダモノ テーテー⁽²¹⁾ イーヤイ。

がら 取れるのだもの たいそう いいよ。

B ジドーシャエ ノリハッテ。(笑) (A アー。) ムカシノ コトー
 自動車に 乗り回って。 (A ああ。) 昔の 事を
イエバサー オラガキ ワケーシノ ワローケド⁽²²⁾ マー ショーガ
 言えばさあ、私の家の若い人達が笑うけど、まあ、仕方が
ネーマイ。
 ないよ。

A アー。 (B 咳払)
 ああ。

⁽²³⁾
 間



B ソイジャー マー。
 それでは まあ。

A ソイジャー マー マター (B アー。) イキオーベー。
 それでは まあ また (B ああ。) 会おう。

B マター イキオーベー。ネ。
 また 会おう。 ねえ。

A マー オタガイニ タッシャデ。
 ああ、お互いに 達者で。

B アー カラドー キオ ツイテ (A キオ ツイテ クラスベー。)
 ああ、身体を 気をつけて (A 気を つけて くらそう。)
マー (A アー。) カセガッシャイ。
 まあ (A ああ。) 精出してお働きなさい。

A ジャー ゴメンナサイ。
 では 御免なさい。

B アイ。

はい。

注

- (1) 「ダネーカ」の「ダ」は、断定の意を表す助動詞ではなく、「デフ」の融合した、「ジヤ」の変異形と考えられる。
- (2) 「カセグ」は、金銭的収入を得るという意ではなく、精を出して働く、という意味である。
- (3) 「オトリサン」は、呼びかけ表現。続けて何かを言おうとしたが、次のBの発話によってさえぎられた。
- (4) 「コンタ」は、「こなた」の変化した形。群馬県では、利根郡・吾妻郡で用いられる。敬意はない。
- (5) 「ケーコ」は、「カイコ(蚕)」の融合形。
- (6) 「ダカー」は、「ダカラ」の弱まり形。
- (7) 「トッテ キチマ」は、[totte kɪtʃi:mɑ:]のように発音される。「キ」は、気音が激しく、「ジ」のようにも聞こえる。
- (8) 「クレル」の「ル」の母音はあいまい。「カー」は、「カラ」の弱まり形。
- (9) 「ショワット」は、「ショワズトモ」の変化した形。
- (10) 「ダッテ」は、逆接の持続助詞の反復。その後同席の小林弥太郎の笑いが聞こえる。
- (11) 反復になっているが、はじめの発話は、Bの発話と重なってしまったので、二度目には、はっきり言おうとして、「オラガ ウチ」と基本形式を用い、弱まり形「オラガチ」を用いていない。
- (12) 「アレダオ」は、「アレダヨ」の弱まり形。
- (13) 「うちで作っている分全体であなたの家で作っている一本のこんにゃくの木と競り合う位しかないから」の意。相手がたくさん栽培していることのオーバーな表現。
- (14) 「オッカー」は、家の主婦。息子の嫁をさしている。

- (15) 「ホンナ」は、ひとまとまりに早口で発話。「ソンナ」の弱まり形。
- (16) 「オラガチナン」は、「オラガチナンザー」の弱まり形。
- (17) 「ココノチ」は、相手の家を指している。
- (18) 結婚前の時。
- (19) 朝仕事。
- (20) 「トリャー サレネンダ」は、「トリャー サレネーノダ」の弱まり形で、「サレネー」は、サ変動詞に可能の助動詞、打消の助動詞が後接したもの。
- (21) 「テーテー」は、「大抵」の融合形で、「たいていでない」の意を込めて、「たいそう」という意味で用いられている。
- (22) 7行五段活用動詞で終止形が「アマウ」となるもの（笑う・洗うなど）は、融合して「アオー」となる。
- (23) Bの咳払いの後の間の部分に、収録担当者上野勇の発話が入っている。

3. 千葉県館山市相浜

話し手

(略号)	(氏名)	(性)	(生年)
S	鈴木 ぎん	女	明治37年生まれ
A	網仲 きん	女	明治30年生まれ

A バーサン ドイ イグダカ。

ばあさん どこへ 行くのかい。

S アイヨ イマノー (A ンー) フネガ ヘッテ クンダッペト
あいよ 今ね 船が 入って くるだろうと

オモッテノー ハマー ミー インベト オモッテ。
思ってねえ 浜を 見に行こうと 思って。

A アンノ イマ リョーガ アルカヤ。
何の 今 漁が あるかい。

S エ タイシタ リョーガ ネッケンサーア。
え たいした 漁が ないけど。

A ハー。デ コノアイダワ ⁽¹⁾ムラガ マタ ゴツ ツォサマデシタ
はあ。で、 この間は むらが また 御馳走さまでした
オサカナ モラッテ。
お魚 貰って。

S ヨー ツマラネ モンデーヤー。
よう つまらない 物で。

A ウン ウン デ マダ (S ダ) コンダサ (S アイヨ)
うん うん で、 また 今度さ (あいよ)

アッタラ アンデン メッケトイテ クラッシュェーヨー。
あったら 何でも 見つけておいて くださいよ。

S エー マタノー (A ウン) イマ イッテサ。 ハ ジキ
またねえ (うん) 今 行ってさ。 もう じき

フネガ ヘッテ クンダッペカラ マタ ツマラネ (A ンー)
船が 入って 来るだろうから また つまらない

モンデン アッタラ モッテ トドケベヤー。
ものでも あったら 持って 届けましょうよ。

- A ハハー。 オメ タッシャデ イーノー。 (S 笑) オンデ ---
ええ。 あんたは 健康で いいねえ。
- S マ イマン ブンデワノー。 (A シー) ベツニ イテー トイ
ま 今の ところはねえ。 別に 痛い ところ
- モ (A ホーカ) ナシサ アンダカラ コーシテ ハタライテ
も (そうか) ないしさ あれだから こうして 働いて
イラデヤ。
いるんですよ。
- A ホンデ トシコサン⁽²⁾ ノ ホーワ アノー アジョ ダカヨ コノゴロワ。
それで とし子さんの 方は どうですかね このごろは。
- S ハイヨ コノアイダ チョットノー (A シー) デンワ ヨゴ
はいよ この間 ちょっとね 電話 よこ
シタッケンサ ハ フタンノ コドモガ ヒトリワ ショーガッコ
したけどさ。 もう 二人の 子どもが、 一人は 小学校
ニネンセー。 (A シー) コトシヤ コノ ニガツデモッテノー
二年生。 ことしは この 二月でもってねえ
フタタンジョーニ ナッダヨ⁽³⁾ー。
ニ 誕生に なるんですよ。
- A ハー ホッテ イッタノー オメモ マゴワ アルシ ジョートダー
はあ それで よかったねえ あんたも 孫は あるし 上等だ
デー。
ねえ。
- S アイ アリガト (A シー) ゴザンスヤ。 ダッケンノ ホラ
あい ありがとう ございますよ。 だけどね。 ほら
ハ ヒトッテ ネット オモッテタラノー (A シー)
もう 一人で ないだろうと 思っていたらね

イマン ナッテ ホラ コトシデ ニガツデ フタタンジョ タ
今に なって ほら ことして 二月で ニ誕生だ
デキタカラノ⁽⁴⁾ ヨロコンデルヨー。
できたからね よろこんでいるよ。

A アー オメラ ジーサンモ タッシャダシサ (S 笑) ミンナ
ああ お宅の じいさんも 元気だしさ みんな
ヨーテ イーヤデ。
よくて いいですね。

S アリガトー ゴザンスヤ。 イマノ ブンデワ マー (A エー)
ありがとう ございますよ。 今の ぶんでは まあ
ノー オメモ イヤデーヤー。 コラー オメダッテ ヤッパリ
ねえ あんたも いいですねえ。 これは あんただって やっぱり
タッシャデ ハー コドモワ ミンナ マゴワ オッキュー ナッ
元気で 子どもは みんな 孫は 大きく なっ
チマッテサー オメホソ ハー ホット シタッペヤー
てしまってさあ あんたこそ もう ほっと したでしようよ。

A タダ オラー マー ノー コッデヤ コドモガ スクネッタカラ
ただ わたしは まあ ねえ これで 子どもが 少なかったから
サ マー マゴデモッテ (笑いながら) マ タノシンデルカラ
さ まあ 孫によって ま 楽しんでいるから
ヨ。
よ。

S ジョトーダヨ オメーワヨー。
上等だよ あんたはさあ。

A マ オタゲニサ (S アイヨマーヨ) ジョブデ イベヤー (笑)
ま お互いにさ (あいよ まあ) 丈夫で いいでしよう

- S イヨー ホンデマ。 イッテクイカンノ サヨナラ。
 じゃあ それでは。 行ってくるからね さよなら。
- A アー じゃ イッテ (S ン) キッセーヨ。
 ああ じゃ 行って きなさいよ。
- S アイ サヨナラ。 イッテキマスヨ。
 あい。 さようなら。 行ってきますよ。

注

- (1) むらが — むらは家族の名前か。
- (2) とし子 — 鈴木ぎんさんの末っ子。
- (3) ことしは ～ 二誕生になるんですよ — 「二番目の子どもは」が省略されているため、二年生の子が二誕生を迎えるようにとれる。
- (4) 今になって ～ できたからね — 「今になって、ほらことしの二月で二誕生の子どもができたからね」の意で、＝の部分が省略されている。

4. 新潟県柏崎市大字折居字餅糰

話し手

(略号)	(氏名)	(性)	(生年)
A	高橋 チユノ	女	明治34年生まれ
B	高橋 ミサノ	女	明治39年生まれ

B アー コンチワ。
ああ こんにちは。

A ハエ。 マー... (笑)
はい。

B ダッダト モータラ オマエサンダネー。
誰かと 思ったら あんただねえ。

A ダースケァ マー オマエサン アノ アッデスカ アノ ドコエ
だから まあ あんた あの なんですか あの どこへ
エッテ ゴザシタネー。 エヤ ドコエ エキナサルネ。
行って 来られましたね。 いや どこへ おいでですか。

B オレカネ (A ハエ。) オラ ナカシマノ ホァーデモ チョッコリ
わたしかね。 (はい。) わたし 中島の 方へでも ちょっと
エッテ コァート モーテ エタンダドモ。
行って 来ようと 思って いたのだけれども。

A ア ソァーカ。 オレモネ チョエト アコラマデ エッテ
ああ そうか。 わたしもね ちょっと あの辺まで 行って
キタンダガ モドリニャ ヨッテ マー オチャノ エッペァモ
来たのだが。 帰りには 寄って まあ お茶の 一杯も
ノンデッテ クラサエネ。
飲んで行って 下さいよ。

B アリガトァー ゴザエマス。
ありがとう ございます。

A ンー。
うん。

B アーン コトシノ ボンワ フッテバーッカ エテ コマッタ
ああ 今年のお盆は 降ってばかり いて 困ったじゃ

ネーカネ。

ないかね。

A ソーデスネー。 マー タビ⁽³⁾カラ オキャクモ キマシタドモ
そうですねえ。 まあ よそから お客も 来ましたけれども
カエスイヨクネモ エカンネァシ ウチデモッテ ニヤクヤ⁽⁴⁾ シテ
海水浴にも 行けないし 家で のりくらりとして
マシタガ (B ソーデスネー。) アッデスエネ マー マー コレ
いましたが、 (そうですねえ。) なんですね。 まあまあ これ
カラ チッター ハレテ モラワンケラー オーゴトダネー。
から 少しは 晴れて もらわなければ 大変だねえ。

B ホンネ コマッタ トシデシタンガ。⁽⁵⁾
ほんとうに 困った 年でしたから。

A ソーダネー。
そうだねえ。

B マー ニンゲンモ カゼ ヒクヨァーダシ (A 笑) エネモ
まあ 人間も 風邪を 引くようだし 稲も
カゼ ヒクヨァーダシネー。⁽⁶⁾
風邪を 引くようだしねえ。

A マー ホンネ アキガ アンジラレルヨァーダエネ。
まあ ほんとに 秋が 案じられるようですよ。

B ソーデスネー。 (A ンー) オマエサン ソッデ ボンウチ
そうですねえ。 (うん) あんたは それで 盆中
ナントモ ノァーテ……
なんとも 無くて……

A アー マー (B アンデシタカ。) オカゲサンテ ミンナ
ああ まあ (なんでしたか。) お陰さんで みんな

ソァー カーチャンヤ コドモガ ハタラエテ クツテ エマシタ
それ 嫁や 子供が 働いて くれて いました
ドモ ナカナカ アメバツカ フツテマスエネ⁽⁸⁾ ソトエモ デラン
けれども なかなか 雨ばかり 降っていますから 外にも 出られ
ネァシ アッデスエネ コマッタ モンデスエネ。
ないし なんですよ 困った もんですよ。

B ホーンネ コトシワネー オキヤクガ エッペアー アッテソァー。⁽⁹⁾
ほんとうに 今年はねえ お客が たくさん あってさ。

A アー ソァーカ ソァーカ。
ああ そうか そうか。

B ホァーシテ コトシヤ ホレ ヤサエガ ネァー トシダローネー。
そうして 今年 は それ 野菜が 無い 年だろうね。

A ーンー。
うん うん。

B ハナシ キータラ ホァーボァージュエー マー フソクダナンテ
話を 聞けば あちらでもこちらでも まあ 不足だなどという
ハナシ キキマシタガソァー。
話を 聞きましたかさ。

A ソァーソァー コトシワ エッパンネネー マー カタデリ カタ
そうそう 今年 は 一般にねえ まあ 片照り 片
ブリノヨァーナ⁽¹⁰⁾ ワケデ ヤサエモンガ デキガ ワーリテ⁽¹¹⁾ ミンナ
降りのような わけで 野菜が 出来が 悪くて みんなが
フジュー シマシトァーネ。
不自由 しましたよね。

B ソァーデスネ。 オメァサン コレカラ ドコエ エカッシャルネ。⁽¹²⁾
そうですね。 あんた これから どこへ 行かれるね。

- A コレカラネー オラー (笑) オワ アッデスエネ ヨージネ
 これからねえ わたしは (わたしは) なんですよ 用事に、
 ヘアー アサシゴト⁽¹³⁾ エッテ キタンデスエネ。 (B ア ソッカ
 朝飯前の仕事に 行って 来たのですよ。 (あ そうか
 ソッカ。) ハー。 マー コレカラ ウチネ エルスケーサー⁽¹⁴⁾
 どうか。) はあ。 まあ これからは 家に 居るからさ
 (B ハエ。) アー ヨッテ アノー モドリニャ (B ハエ。)
 はい。) ああ 寄って、 あの 帰りには (はい。)
 ヨッテ マー オチャデモ ノンデ (B アリガトエニ ゴザエ
 寄って まあ お茶でも 飲んで (ありがとう ごさい
マス。) マタ セケンバナシデモ シテ ケーッテ クダサエ。
 ます。) また 世間話でも して 帰って 下さい。
 B ソアーデスネー マタ ヨシテモ⁽¹⁵⁾ ードモ キョアーワ マタ
 そうですねえ また 寄せてもらうけれども 今日は また
 オレ エソガシースケア (A アーアー。) アトデ マタ
 わたし 忙しいから (ああ ああ。) あとで また
 ヨシテ モラワエ。
 寄せて もらいますよ。
 A ンー ソアーダネ。 (B ハー) イヤ マタ エネカリガ ハジ
 うん そうだね。 (はあ) やあ、 また 稲刈りが 始
 マルマデモ モー チット アエモ アルシー…… マー オボン
 まるまでには もう 少し 間も あるし まあ お盆
メーウチャー サンザ アレシテ⁽¹⁶⁾ ツカレテモ エルスケー
 前の間は さんざん なにして 疲れても いるから
チッター アッデスコテ ユルヤカニ シマショアーサネー。
 少しは なんですよ ゆっくりと やりましようよねえ。

B ソーデスネ。
そうですね。

A ハー。
はあ。

B マー マー コッデ ワカレヨァーサネ。
まあまあ。これで 別れようね。

A (笑) ソーダネー。(笑)
そうだねえ。

B マタ ソノ ウチニ ウチン ナカデモッテ ユックリト マタ
また その うちに 家の 中で ゆっくりと また
(A 笑 ソーダネー。) オチャデモ ノンデ アレ
うん そうだねえ。 お茶でも 飲んで なにを

スルガンニ。

するのは(して)。

A マー マタ アキガ クルト (B 咳払い) チャント シテモ
まあ また 秋が 来ると じっと しても
エラレマセンスケァー マー エマノ ドコ チョエト シトエキ⁽¹⁷⁾
居られませんから まあ 今の ところ ちょっと 一息
シテ マタ マー ハタラキマスコテ。
して。 また まあ 働きますよ。

B ジャ サエナラー。
では さようなら。

A アエ ジャ マー エッテ ゴザシッテ クダサエ。
あい。では まあ 行って おいでになって 下さい。

B ハエ。
はい。

注

- (1) ナカシマ 地名。小字の名。
- (2) エタンダドモ 発音がは、きりせず。話し手にきいて分った。
- (3) タビ 他郷、県外の土地。
- (4) ニヤクヤ 副詞。ぶらぶら。なにをすることもなくすごすさま。
「にやくや」「にやふや」(あいまいでは、きりしないさま)の意で辞書にも載っている。茨城県・滋賀県方言に「ニヤクヤ」(あいまいなさま)がある。
- (5) ンガ 「モンガ」の変化。理由原因を表わす接続助詞だが、ここでは終助詞となり余韻を残しておわる。全年層用語。
- (6) エネモカゼヒク 稲が冷雨のために病害を受けることを「風邪を引く」とおもしろく表現した。「フケガハイル」又は「アケガハイル」と言、て葉や穂首に赤茶色の斑点が出来る、いもち病の発生をさすらしい。
- (7) は、きりしない。話し手にたずねて「アンデシタカ」(あれでしたか)であることが分った。
- (8) エネ 接続助詞。理由原因を表わす。老年層用語。「エニ」の変化。語原は「故に」であろうか。
- (9) ソァー [SO:] 間投助詞。又、終助詞。確認・強調の気持をこめて訴え話しかけたり、口調をととのえたりする。「サ」より古くそれよりも多用されるように思われる。主として老人層語である。名詞「こと」助動詞「う・よう」に下接して文末に来、また連体詞「あの・この」格助詞「が」「から」接続助詞「で・て・たら」に下接して文節末に来る。この中「て」に下接する間投助詞の例が最も多い。間投助詞「サ」「ネ」に最もよく似ている。馬瀬良雄氏は長野県の「ソァー」を「候」に由来するとされた。中越南部方言に多く用いられ長野県奥信濃地方にまで及んでいる。この対話では話し手Bが「ソァー」を、Aが「サ」を多く使用している。その差の意味は未詳。
- (10) カタデリ・カタブリ 共通語「偏照り・偏降り」。
- (11) ワーリテ 「わるくて」の変化。形容詞は語頭音を固定的に長音化

する傾向がある。

- (12) ッシャル 四段活用動詞に下接する尊敬の助動詞。
- (13) アサシゴト 朝飯前にする作業。
- (14) サ 間投助詞。Aはここを「ソァー」とは言わないという。
- (15) モァー 「貰う」の終止形。モロァー>モァー [r]の脱落。この方言では終止形はモラウと連母音であることが多いようである。
- (16) アレシテ 忙しく働いてということと言いたかったのであろう。
- (17) シトエキ [ʃi]か[ʃi]か微妙である。

5. 長野県上伊那郡中川村南向

話し手

(略号)

(性)

(生 年)

A	清水 ちま	女	明治37年生まれ
B	寺沢 直江	女	大正3年生まれ

A コンニチワ
今日は。

B アー コンニチワ
今日は。

A ヨ ヨー⁽¹⁾ オネーサン⁽²⁾ ドチラエ オイ デルノー
良く お姉さん どちらへ いらっしやるの。

B ウン チョット⁽³⁾ カイモノイ イッテ コット⁽⁴⁾ オモッテナー
ちよっと 買物に 行って 来ようと思ってね。

A フントー ソー イエバ マー コナイダ^ワ マー オイシー オ
そうですか。そう 言えば この間は おいしい お
カシオ タクサン イタダ^イテ スイマセナンダ^ワ (B ハー)
菓子を 沢山 いただいて 済みませんでした。

アリガトー ゴザイマシタ
ありがとう ございました。

B ホーンノ スコーシバカリデ^ワ アノ トーキョーニ オル ムスコ
ほんの 少しばかりで 東京に いる 息子が
か オクッテ クレタモンデナー チョットバカデ^ワ オカシカッタ
送って くれたものだからね。ちよっとばかりで おかしかった
ナウン
ね。

A イーエ イーエ ソンナ ドコカナー ソエデモー オウチノ ム
いいえ、いいえ、とんでもありません。それでも お宅の 息
スコサンワ ホントニ オヤコーコーデー オアリテ⁽⁵⁾ イマ ド
子さんは 本当に 親孝行で いらっ(や)って…。今
ーコニ オツトメテ オイデルノエナーシー
ここに お勤めて いらっ(や)るんです？

B デンキカイシャニ イットルンダ^ケードナー
電気会社に 行っているんだけどね。

A アレ ソーカナー マダー ソイジャー シトリデー⁽⁶⁾ オイデルノ
あれ、そうですか。まだ それでは 一人で いらっ(や)るの？

B フン ハエ ハチン ナッタデ^ワ “ボツボツ” ヨメサマーデ^モ ムラ
もう 八に なったから、ぼつぼつ お嫁さんでも 貰わ

ワニヤート モ ケード ダレカ イー ヒタ ナイラカナー オ
なければ"と 思うけれど", 誰か 良い 人は ないでしょうかね,
バサマー
おばさま。

A アルツテヤー アルクライジヤ ナイテ" マター ヨリアツテ ミ
ありますよ。 あるところでは ないから, また 一緒に手伝って
ツケズナーシー
見つけましょうね。

B オネカイ⁽⁷⁾ モーシマス
お願い いたします。

A ソイジヤ マー マタ アノー オヨ_xメ_xヨメ_x サマワ キンジョノ
それでは また, お嫁さんは 近所の
シトカ^o イーツテ ユーデー (B エー) アノー キゴコロカ^o
人が 良いと 言うから, 気心が

シレトツテー イーデ" マタ ヨリアツテ ミツケズナーシー
知れていて 良いから, また 一緒に手伝って 見つけましょうね。

B アノー イマン トコジヤー ウチノ ムスコモー イー シトモ
今の ところでは, うちの 息子も 良い 人も
ナイラシーデ" ドーカ マー アノ ココロガケトイテ オネカイ
ないらしいので, どうか 心掛けておいて お願い
モーシマスー
いたします。

A ソエジヤ マー オダイジニ (B アー) イットイデナンショ
それでは お気をつけて 行っていっちゃい。

B アリカトー ゴザイマス ソレジヤー マー ゴメンナイショ
ありがとう ございます それでは ごめんください。

注

- (1) ヨーはヨク（良く）のイ音便形。
- (2) オネーサンは自分より年の若い女性を親しんで呼ぶ語。「お上さん」と訳してもよい。
- (3) チョットの前に言いよどみがある。
- (4) コズト（来ようと）の音韻変化。
- (5) オア Ril（「ある」の敬語）の連用形に -テが下接したもの。
- (6) シトリデーのあとに言いよどみがある。
- (7) オネカイの前に言いよどみがある。

6. 静岡市南字中村

話し手

(略号)	(氏名)	(性)	(生年)
D	佐藤とし	女	大正4年生まれ
E	後藤百々代	女	大正2年生まれ

E アー コンチワ。

ああ 今日は。

D ア コンチワ。 キョーワ エー テンキダヨ。

あ 今日は。 きょうは いい お天気だよ。

- E オメー ドッカエ イクダカ イマッカラ……。
お前 どこかへ 行くのか 今から……。
- D ンー イマッカラナ ヤギサンエ チョックラ カイモンニ イク
うん 今からな 八木さんへ ちょっと 買物に 行く
ダヨ。
んだよ。
- E アー センコラー ワリーツケヤー アンナ アノー エー オカ
ああ 先日は わるかったねえ。 あんなに。 いい お菓
ショー タクサン モラッテ……。
子を たくさん もらって……。
- D ンー トーキョーノ ムスコガナ オクツクレタモンデサ。
うん 東京の 息子がな。 送ってくれたものでさ。
チーットバカダケーガ……。
少しばかりだけれど……。
- E アンタ^{xxxx}チヨ^{xx} オマッチノ ワケーシワ マダ ド^{xx} ドケー ツトメ
あなたの家ね お前の家の 若い衆は まだ どこへ 勤め
テル。
ている？
- D デンキガイシャエ ツトメテルダヨ。
電気会社へ 勤めているんだよ。
- E マ^{xx} マダ^{xxx} マダ ヒ^{xx} アノー ヒ^{xx} ヒトリデ イル。
まだ 独身で いる？
- D マー ニジューハチン ナツタダケーガナ アノー コマルダヨ
まあ 二十八に なったんだがな (まだ独身で) 困るんだよ。
ダレカ イー ヒト ナエーカナ。
だれか いい 人 ないかなあ。

- E ジブンデ ハェー エー ヒト ミツケテ アルダカモ シレネーフ。
 自分で もう いい 人を見つけて あるのかも しれない。
- D ダレモ イナイラシーヨ。 ハタラキガ ワルクテ。 ドッカニ
 だれも いないらしいよ。 働きが わるくて。 どこかに
 イー ヒト アッタラ オセーテヤー。
 いい 人が いたら 教えてよ。
- E ソーダナー イナカノ ヒトガ イーダカー マチノ ヒトガ
 そうだなあ 田舎の 人が いいのか 町の 人が
 イーダカー。
 いいのかなあ。
- D ドコノ ヒトデモ イーヨ。 アノー キテクレシャーシリヤー
 どの 人でも いいよ。 来てくれさえすれば
 イーダンテ……。
 いいんだから……。
- E ソーダナー。 マタ ヘージャー エー ムスメ アッタラ キオツ
 そうだなあ。 また それじゃ いい 娘が いたら 気をつ
 ケテ アノ ミテテミルヨ。
 けて 注意してしてみるよ。
- D ンー タノムヤー。
 うん 頼むよ。
- E ヘージャー イッテクリヤーエー。
 それじゃ 行ってあげればいい。

7. 愛知県北設楽郡富山村中の甲

話し手

(略号)	(氏名)	(性)	(生年)
K	小林ハルコ	女	明治41年生まれ
T	堤 ふじよ	女	明治39年生まれ

K 「ホイ 「ア³ン³タ³ワ ナ³ン³ アノ オ³メ³ー³ワ ナ³ン³ダ³ ヒ³ラ³オ³カ³ノ
 おい あんたは ^x_x あ の お前は 何? 平岡の
 ナニ³ー セ³ッ³コ³ツ³イ 「イ³ッ³テ³キ³タ³.
 何へ 接骨院へ いつ 行ってきた?

T ホー オ³ト³ト³イ イ³ッ³テ³キ³タ³ヨ (K オ³ト³ツ³イ イ³ッ³テ³キ³タ³ー)
 うん おととい 行ってきたよ (おととい 行ってきた?!)
オ³ト³ト³イ イ³ッ³テ³キ³タ³.
 おととい 行ってきた.

K オ³リ³ャ³ー キョ³ー イ³ッ³テ³キ³タ³.
 私は 今日 行ってきた.

T 「キョ³ー イ³ッ³テ³キ³タ³ー.
 今日 行ってきた?!

K 「キョ³ー イ³ッ³テ³キ³タ³.
 今日 行ってきた.

T フ³ン³ト³ー.
 本当 (そうですね).

K 「ケサ ニ「バン」 アノー ハチジー イカットモッタガ。
けさ 二番列車 あの 八時に 行こうと思ったが。

T 「エー。
ええ。

K ハチジマートモッテ ノ「リオクレタデ」 ソレカラ 「グジヨ~~ン~~
八時前と思って 乗り遅れたので それから 九時四...
ゴ「ジューイップンデ」 イッ「テキ」タ。
五十一分で 行ってきた。

T ホント「オリャー (K エー) ナンダ「ニ」 シート オトツイ「ニ」
本当に 私は 何ですよ おとといに
ナ ナナ ヒチジ イッタ。
×× ××××
セ、七時に 行った。

K ホー (T エー) ソイデ イッ「テミ」タラ「ネー」 (T エー)
ほう それで 行って見たらね
アレ「アノー」 ハヤシサンノ「ミヤコサン」 オッテ。
あれ あの 林さんの みや子さんが いて。

T 「エー。
ええ。

K ソレカラ シ「シヤツ」 シテモラ「ット」タワイネ (T アー ホント)
それから 指圧 してもらっていたよ (ああ 本当)
ソレカラ マー ワシモ ソノウチニ ヘーカラ シ「アツ」 ヤッテ
それから まあ 私も そのうちに それから 指圧 やって
クレテ「ネー」。
くれてね。

T へー。
はい。

K ソレカラ マー ニ_{xx} イチジヨンジュー イチジヨンジューナンプン
それから まあ 一時四十 一時四十何分

カノ デンシャデネー キタヨー.
かの 電車でね 来たんですよ.

T カエッター.
帰ったの.

K ウン キテタ キタヨー.
うん きて. 来たよ.

T ンニ フント オレモ ヒチ_{xxxxxxx}ジュー ヒチジ ヒチジ ゴ_{xxxx}ジュー
私も 七十 いや、七時 七時 五十

ナンプンダ_{xxxx}ヨー ムコー_{xxxx}オネー (K ホッホー) ウン ソーシテ
何分だよ むこうをね うん そうして

ウチデ アノ ボーカージュオ カッテゴイチューモンダデヨー
家で あの 買ってこいというのでね

(K ホー) エー (K ホー) チャッ⁽¹⁾ アノ 「ハヤク
早く(のいいし)あの 早く

イカニャー ノリオクレル_{xxxx}ニ_{xxxx}ツテ (K エー) ユーモンダデヨー
行かねば 乗り遅れるよって いうのでね

(K ホー) ソイデ 「トンデ」 (K ホー) アノ クミアイマデ_{xxxx}
それで 駈けて あの 組合まで

「ノーキョーマデ」 トンデツテヨ.
農協まで 駈けてってね.

K エ_{xxxx}ライ ハ_{xxxx}レ (T エー) エ_{xxxx}ラカッ_{xxxx}ツラ.
たいへんだったでしょ.

T ソイデ カッテ ソイカラ イヌノ ナニガ ナイモンダデ_{xxxx}
それで 買って それから 犬の 何が ないので

アノー ミツ^ツノ イヌオ カ^ツトルモンテ^{ネー}。
あのう 三匹の 犬を 飼っているのね。

K ハー。
はあ。

T ソイダ^{モンテ} ナンダ^{ムギガ} ナクナ^{ッタ}モンテ (K ホー)
だから 何だ 麦が なくなったので
タ^ノマ^レリヤ セナンダ^ガネー ソイデ^モ ソレオ マタ^カッテ
頼まれは しなかったがね それでも それを 又 買って
ヨ イソイデ (K ニー ホー) ^サテ ソレオ カ^ツイデヨ
ね 急いで さて それを かついでね
(K ホー) ア ヒルヒナカ ア^ツイニ (K ホー) アノー
日中 暑いのに あの

キ^タネー (K ホー) ウチノ ヨ^メガ^{ホント} オバーサン
来たね 家の 嫁が 本当に おばあさん

エラカ^ツツラ (K ホー) ワシャ^ー ^ケサ タ^ノミ^タカ^ツタン
たいへんだったでしょう 私は 今朝 頼みたかったけど
タ^ノミ^ャーシ^ナンド^イッテ アノー ユ^ツツガ^{ネー} (K ~~~~~)
頼みはしなかったよって あのう 言ったけどね

エー ユ^ツツガ ^ソーヤ^ッテ キ^タガ^{ネー}。
ええ 言ったけど そうやって 来たけどね。

K ソイデ エ^ッカラ アルイ^タカ^エ。
それで 駅から 歩いたのかね。

T ^{×××××××}ヨ^リカラ ^エキ^カラ アルイ^タ アルイ^タ。
(「駅から」のいいし) 駅から 歩いた 歩いた。

K ホー。
ほう。

T アルイタガネー ニカイグライ ヤスマニャ アルキヤー シナン
歩いたがね 二回ぐらい 休まなくちゃ 歩きは しなかつ

ドヨ.

たよ.

K 「アー ソーカ ソーカ.
ああ そうか そうか.

T エー エラスキテ.
たいへんすぎて.

K オレ キョーワ オレ キョーワ 「ミヤコト イッショ ダツタモン
~~私~~ ~~今日は~~ 私 今日は みや子と 一緒だったの
で
ダデ ソレカラ マー エキー オリテ ソレカラ マー クルマ
それから まあ 駅に おりて それから まあ 車
モ ネーシ (T エー) 「カサー カブッテ 「ゴツゴツト アル
も ないし 笠を かぶって こつこつと 歩
イテ キタ.
いて 来た.

T ブントー (K エー) ワシモ アルイテ バッカヨ. (K ンー)
そうですね 私も 歩いて ばっかりだ.

エー アルイタ ホーガ 「マー アノ 「イー ツカッタ ホーガ
歩いた 方が まあ あの いい。(体は)使った 方が

イーチューモンダデ ケッコー ツカッテ ソイダモンダイネー
いいっていうので けっこう 使って だからね

(K アー) 「エー アルイチャー クルガヨ.
ええ 歩いては 来るがね.

K 「アー ソーカ ソーカ.
ああ そうですね.

T エー ウンドーン ナッテ イーモンダデネ.
ええ 運動に なって いいのでね.

K ウンドーン ナッテ イー「デ」ネー 「ソーダ」 ソーダ.
運動に なって いいからね. そうだ. そうだ.

注

(1) 「早く」をチャットというのがこの地方の方言である。

8. 福井県武生市下中津原町

話し手

(略号)	(氏名)	(性)	(生年)
M	道端初江	女	大正11年生まれ
K	加藤よ志子	女	大正10年生まれ

- M アラ ジョリサン⁽¹⁾ ドッカエ イキナハルノ。
 あら 興さん どこかへ いらしゃるの。
- K ハイ チョット カイモンニ イクンニャア。
 はい ちょっと 買い物に 行くんです。
- M アー ホーデスカ。 アラ コナイダ⁽²⁾ キノドクナ ドーモ オ
 ああ そうですね。 あら このあいだ(は)申し訳ありません どうも お
 イシイ オカシオ ヨーケ イタダイテ (K ナーニ アンナ。)
 いい お菓子を たくさん いただいて (なに あんな)
- オイシカッタワネ。
 おいしかったわよ。
- K (笑) アンナモ ホンノ スコシイ。(笑) コドモガ
 あんなもの (ほんの) 少し。 子供が
⁽³⁾
 トーキョーニ イルンデエ アノー オクッテキテ クレンタンデス。
 東京に いるので あの 送ってきて くれたのです。
- M アー ホーデスカ。 イマ ドッチーノ ホーエ ツトメテ イナ
 ああ そうですね。 今 どちらの ほうへ 勤めて いら
⁽⁴⁾
 サルンデスカ[→] ムスコサン。
 っしゃるのですか 息子さん。
- K デンキカイシャニ イッテルンニャゲノ。
 電気会社に いるんですよ。
- M アー ホーデスカ。 マダ⁽⁵⁾ オヨメサン モライナハラン。
 ああ そうですね。 まだ お嫁さん(は) おもらいにならない。
- K ハイ。 マダ⁽⁶⁾ マダヤゲノ。 モーオ ハチニ ナルンジャケドノ。
 はい。 まだ までですよ。 もう 8に なるんだけどねえ。
- ⁽⁷⁾
 ソロソロオ アノー イー シトガ アノ ナイカト オモテルン
 そろそろ あの いい 人が あの ないかと思っているん

ジャア。

だよ。

M ホヤア。⁽⁸⁾ ホヤケド イマドキノ ヒトア⁽⁹⁾ ミーンナ ジブンデ イ
そうです。 だけど いま時の 人は みんな 自分で い
ー シトオ⁽¹⁰⁾ ミツケテエ (笑) イナハルデネーエ。
い 人を みつけて おいでだからねえ。

K シマー ウチノ ムスコワー (笑) ダレモ エーンノヤロト
まあ うちの 息子は だれも いはいんだろうと
オモウンジャ。 イー^{xxxxxx} イー シトガ アルトオ オヤニ シラシェ
思うんだ。 いい いい 人が あったら 親に 知らせる
ルッテ ユーテ イルンニヤケドオ。
と 言って いるんだけどね。

M ホーヤア ~~ホイ~~^{xxxxxx} ヤッパ ホーユート コッチノ シトノ ホ
そうだ やはり そういと こちらの 人の 方
ーカ⁽¹¹⁾ トチノ シトノ ホーガ イーノワ イーワネ。 キノココ
が 土地の 人の 方が いいのは いいわね。 気心が
ロガ⁽¹²⁾ ナンカ ワカッテ イー。 イーイ。
なにか わかって いい。 いい。

K ソーデス。 モーオ ドナタカ エー シトガア アッタラ シェ
そうです。 もう どなたか いい 人が あったら 世話
ワ シトクンナシェーノ。(笑)
してくださいよ。

M ホーヤネ。 ドッカ ココロガケテ ドッカ (笑) ヒトリ⁽¹³⁾ ド
そうだね。 どこか 心かけて どこか ひとり ど
ーデモ オシェワサシテ モラワンナランネ。(笑) ホンデア⁽¹⁴⁾。
うでも お世話させて もらわなくてはいいけないね。 それでは。

K ジャ オネガイ シマス。
それではお願い します。

M シ ホンデァ マタ キマスデ⁽¹⁵⁾ (K 笑) イッテラッシ
うん それでは また いったらっしゃい。
ヤイ。(笑)

K (笑) ハイ。
はい。

注

- (1) 階層でいえば上位に属する家の奥さんに対する呼称。さらに敬った呼称としてオジョリサンがある。福井県嶺北地方のかなり広い地域にジョリサンあるいはジョルサンという語の分布することが方言集などで確認できる。
- (2) 当地方言では「気の毒な」本来の意味とは別に、感謝の意を表わす場合によく用いられる。
- (3) [iʌundẽ'e] 独得のゆすりイントネーション。
- (4) 尊敬の助動詞ナサル。
- (5) 尊敬の助動詞ナハル。
- (6) 年齢の28を言うつもりで省略している。
- (7) [sofo.solo'o] 語末にあらわれる独得のイントネーション。
- (8) [hoʃa'a]
- (9) [ɕi:toə]
- (10) [ʃi:too] 注(9)では[ɕi]と聞こえたが、その他は概ね後続子音[ʃ]にひかれて舌が前寄りとなり[ʃi]に聞こえる。加藤氏も[ʃi:to]である。
- (11) お嫁さんをもらうのならば近くの方がいいと言っている。
- (12) 気心が知れての意。

(13) [ɕi tofi]

(14) [hondeæ]

(15) おそらくココロカケトキマスデとでも言っているのだろう。

9. 奈良県吉野郡十津川村那知合・谷垣内

話し手

(略号)	(氏名)	(性)	(生年)
A	上垣 セキ	女	明治34年生まれ
B	後木美智恵	女	大正元年生まれ

A コンニチワ。
今日は。

B コンニチワ。
今日は。

A アツテ エライノー。
暑くて 大変ね。

B マイニチ アツイノーラ。
毎日 暑いね。

- A ンー。 ミンナ ゲンキカイ。
皆 元気かい。
- B ウン。 イマン トコ ゲンキナケンド。
うん。 今の 所 元気だけれど。
- A ジャー ホリャ イーノー。 モー ボンモ クルシノー イツガ
では それは 良いね。 もう 盆も 来るしね 忙しい
シーワ。
わ。
- B ホンマニ。
本当に。
- A ナニモカモ タコーテ エライノー。
何もかも 高くて 大変ね。
- B エライノーラ。 ナニモカモ カワンナランケンド (A ンー)
大変ね。 何もかも 買わなければならないけれど
タカースカ (A ノー) エライワ。
高いから 大変よ。
- A マー エロテモ ボンワ シテ アスボーライ
まあ 大変でも 盆は して 遊ぼうよ。
- B ホンマニ。
本当に。
- A (笑) サヨナラ。 マタ デアオーラヨ。
さようなら。 また 出逢おうよ。
- B サヨナラ。
さようなら。

10. 鳥取県八頭郡郡家町

話し手

(略号)	(氏名)	(性)	(生年)
A	衣笠 トラ	女	明治34年生まれ
B	衣笠 寿賀	女	明治33年生まれ

A スガサン キョーワ アツイナー。

寿賀さん 今日は 暑いなあ

B ツァー⁽¹⁾ キョーワ エー テンキデ エーナー。

そう 今日は 良い 天気で 良いなあ。

A ツァー⁽²⁾ ソイッテナー アノ トッショリガ ココノカノ ヒニナー
そう それでなあ 年寄りが 九日の 日になあ

A ミンナガ デヨッテ⁽³⁾ イッテ イーヨッタ コトー イットラ
皆が 出かけようと 言って 言い合わせたことを言っておられる

レルカ ソレオ (B エー) ツレノ シューニ。

か(伝えておられるか)それを (ええ) 仲間の 人達に。

B アノヨー (A エー) ニサンニンニ イットルケド マンダ
あのねえ (ええ) ニ三人に 言ってるけれどまだ(全部の人には)

イットランケドヨ (A シー) タエーガエー デラリョーヤー。
言っていないけれどね (うん) 大概(の人は) 出られるだろうよ。

A ホンニャ ソースリャーナー⁽⁴⁾ (B シー) ソノ コナイダ
それではなあ (うん) この間

アノ キメタヤーニナー (B ンー) ソイッテ⁽⁵⁾ アノ コメ
決めたようになあ (うん) それで 米を

マー チート モッテ デタリ (B エー) ソレカラ (B マー
まあ 少し 持って 出たり (ええ) (まあ

イッショーデ エーウェーナ.) サー ソノ コトー イッテナー
一升で 良いわな.) とうそのことを(話したことを)(仲間に)言ってなあ

(B ンー) ソイッテ ソノ デラレサーナ ヒトニ ソイッテ
(うん) それで 出られそうな 人に それで

イットクガ エー イジョー⁽⁶⁾ ソガエー オモイヨルトコダー。
言うておくのが 良い(と) いつも そのように 思っているところだ。

B サー (A) ヨスジノ オバーサンニモ イワート
そう () 四筋の おばあさんにも 言おうと

オモイヨルケド イジョー モリユ⁽⁸⁾ シテ アガエーシテ シト
思っているけれど" いつも 子守りをして あのようにして して

ラレルケーナー (A フン) ドゲニャー ワカランシ (A
おられるからなあ (ふん) どうであるか 分からないし (

フーン) スルケド マー ハネーテ⁽⁹⁾ ミュート (A サー)
ふうん) するけれど まあ 話して 見ようと (そう)

オモイヨルケドナ, (ブザーの音)
思っているけれどね。

A ソレデ ソノ タイガイナラ アノ フターツ トマラーツチュコトー
それで 大概なら(=たぶん) 二晩 泊ろうということ

イットクガ エージェ ソナナラ。
言うておくのが 良いよ それなら。

B エー アノ サイショニ イットカニャーナ (A エー エー)
ええ あの 最初に 言うておかねば (ええ ええ)

イケンケガ (A サー) ソノ ソガイ ムキン ショーカ。
いけないから (そう) では ぞんな ふうに しょうか。

A エーエー。
ええええ。

B ソノ ソガイ ⁽¹⁰⁾ エー エーエー ヨスジノ オバー
では そういうわけ (ええ。ええええ。) 四筋の おばあ

サンヤ (A フーン) アノー ナニ フデサンニ イッタラヨ
さんや (ふうん) ふでさんに 言ったらね

(A フーン) フデサンモ ツト ナカマニ シテ エー エー エー
(ふうん) ふでさんも 仲間に して 良いと言って

ラレタ。(A ~~~~~) エー。(A フーン) ダケー ナ
おられた。 ええ。(ふうん) だから それでは

マ ソノ ムキニ ショーカ。
その ように しょうか。

A ドロオトシノ ⁽¹¹⁾ ブンダケナー (B サー マー) マー タノシン
泥落としの 分だけなあ (そう まあ) まあ 楽しんで

ドルダケー ミンナ デ ネ。
でいるのだから 皆でねえ。

B ダケー ソース リャー ヨー ウチノ ⁽¹²⁾ ソラノ アノ タケオサン
だから それでねえ 家の 上の たけおさん

ノ エナ フタツデモ ミツツデモ ツト (A フーン) エー
の家では ニ泊でも 三泊でも (ふうん) 良いと

チョ ラレタ ケド ナ (A フーン アレモ ッカ) エー アレ モ
言っておられたけれどね (ふうん あれもか) ええ あれも

(A フン フーン) サー ヨーニ キ ワカ ラン ケド ヨー
(ふうん。ふうん) さあ 良く ~~キ~~ 分からないけれど

アレモダラーヤー。⁽¹³⁾ (A フーン フーン フーン ~~~~~.)
あれもだろうねえ。 (ふうん ふうん ふうん)

ン。

A ンナ マー ソレオ ヨーニ キメテナー (B エーエーエー)
それでは まあ それを 良く 決めてなあ (ええ ええ ええ)

エー ソイッテ アノ……
ええ それで あの

B ツァ. ダケド マ アンネーワ ナンニンダッテ ナントモ アリヤ
たけど まあ あの家は 何人だって 何とも ありは

シェンダケーナー.

しないのだからなあ。

A エー ソーソー. マー ヤドヤテァー ナシナー.
ええ そうそう。 まあ 宿屋では ないしなあ。

B ヤドヤテァー ナシ. (A フーン) ンナ ソガィ ムキニ
宿屋では なし。 (ふうん) それでは そんな ふう

(A エー. ンナ...) ハナイテミル.
(ええ. それじゃ) 話してみる。

A エー. ンナ ソノ コトオ キミョーゼ. (B エー)
ええ. それでは その ことを 決めようね。 (ええ)

注

(1) ツァー 相づちのことば。「サー」と言うこともある。

(2) ソイッテナー 直訳すれば「そう言ってなあ」。「ソイッテ」は接
続詞的にも良く使われる。「それで」「そういうわけで」。

- (3) デヨッテ 「出よう」(意志)は「デョー」がぶつう。ここは「デョーッテ」が変化した形。なお、「見よう」は「ミュー」がぶつう。
- (4) ソースリャーナー 直訳すれば「そうすればなあ」
- (5) 注(2)参照。
- (6) イジョー いつも、常に。用例「〇〇サンワ イジョーニ ワルイコト シテルワ」
いじょー **副** ①まるで、全く。岩手県上閉伊郡・高知。②必ず。群馬県吾妻郡。③しじゅう。常に。鳥取。(『全国方言辞典』)
- (7) ヨスジ 十字路にある家の屋号。
- (8) モリュー モリ(守=子守り)を
- (9) ハネーテ ハナシテ>ハナイテ>ハネーテ
- (10) ソガエイッテ 「ソイッテ」(注2参照)に同じ。
- (11) 5月すぎに行く骨休めの行事を「泥落とし」と言う。用例「ドロオトシニ 出ル」
どろおとし 田植終りの休日。淡路島・広島県安芸郡・石見・山口・高知・大分・宮崎。(『全国方言辞典』)
- (12) そら ①上。「机のソラにある」石川県江沼郡・岐阜・滋賀県愛知郡・三重・京都府加悦谷・兵庫県養父郡・岡山県阿哲郡・広島県双三郡・出雲・大分県北海部郡。(②以下は略)(『全国方言辞典』)
ただし、当地では「机ノソラニ」とは言わない由。
- (13) このあたり、会話の真意不明。

11. 島根県仁多郡横田町大字大馬木

話し手

(略号)	(氏名)	(性)	(生年)
A	戸屋 マサヨ	女	大正4年生まれ
B	野原 フジエ	女	大正6年生まれ

A マー オバサン デナハツタネ⁽¹⁾ャー。
まあ おばさん 出なさったね。

B ハイ チョッコ カエモノニネャー。
はい ちょっと 買い物にね。

A ハー マー ソゲデスイカー。 コナエダワ スィンマシエン
はあ まあ そうですか。 先日は すみません
オミヤゲオ モラッテャー。
お土産を 貰って。

B マー ホンネ スィコスィバカーダドモ トーキョーニ オー
まあ ほんとに 少しばかりだけれども 東京に 居る
ワケー モンガ オクッテゴエタモンダケン スィソワケデスイワ。
若い 者が 送ってくれたものだから すそわけですわ。

A マー ホンネ オマエサン トコノ ワカイ スィーワ ホンネ
まあ ほんとに あなたの 所の 若い 人は ほんとに
イマンドキナイ エー ワカイ スィーデスィネ。 エマ ドコエ
今時はない よい 若い 人ですわ。 今 どこへ

ツィトメチョーナハーデスィカ。

勤めていなさるのですか。

B アリャー デンキグワイシャニ エツチョーマスィガネャ。

あれは 電気会社に 行っていますか。

A ハー ハー マンダ ヒトリデショーンネャ。

はあ はあ また 独りでしょうね。

B ハー モー ハツィニモ ナーダドモネー。 ソロソロ ヨメ
はあ もう ハにも なるけれどもね。 そろそろ 嫁(を)

モラーアゴサニャー エケンダドモネーヤ。

貰ってくれねば いけないのだけれどもね。

A ハー マー ソーデモ イマンゴロノ ワカイ ヒトワ ワーワー⁽²⁾

はあ まあ それでも 今頃の 若い 人は 自分達

が スィブンデ エー ヒトオ サガスィナハーダケンネャ。

が 自分で よい 人を 探しなさるのだからね。

B ウツィノ ムスィコニャー ダレンモ オランラスィーガ ナンズィ

私の 息子には 誰も 居ないらしいが 何か

エー スィーノ オラッシャッタラ オヤニ イエ イーチョーニ

よい 人が 居られたら 親に 言え(と) 言っているのに

マンダ ナンダリ イーテコンガ。

また 何も 言っていないが。

A ホンニネ ソーデモ ヤッパリ ヨメサンワ トコロノ ヒトガー

ほんとに それでも やっぱり 嫁さんは 土地の 人が

エーダケンネ。 ナントナク キガ スィレチョッター。

よいのだからね。 なんとなく 気が 知れている。

B ソゲーカモ スィレンケン マー エー スィーノ オラッシャッタラ

そうかも 知れないから まあ よい 人の 居られたら

タノケン シェワスイチャッテ ゴサッシャエヤ。

頼むから 世話してやって 下さいや。

A ハイ ハイ ホンナラ マー マタ ココロニ カケチョキマスィ
はい はい それなら まあ また 心に かけておきます
ケンネアー。
からね。

B ワレワレ オネガイスイマスィワ。
お願いしますわ。

A ハイ ハイ。
はい はい。

B ジャー ホンナラ。
では それなら。

A マー マタ デテゴスィナハイ。
まあ また 出て下さい。

注

- (1) この人はよくナハルの敬語動詞を言う。
- (2) ワレワレ → ワーワーは出雲の一般的な言い方。

12. 愛媛県越智郡伯方町木浦

話し手

(略号)	(氏名)	(性)	(生年)
A	阿部ヒロミ	女	明治38年生まれ
B	阿部チヨエ	女	明治37年生まれ

A アリャ。チーヤン。
あら。チヨエさん。

B ハイ。ハイ。
はい。はい。

A オータノ。ココデ。(笑)(B笑)ドコイキョーシ。
会ったね。ここで。() () どこへ 行こうとしているの?

B セトハマイ⁽¹⁾イキョーシノヨ。
瀬戸浜へ 行こうとしている のよ。

A シー。ホカー。ホリャエーワ。キニョーワオーケニ。
ふん。そう か。それは いわ。昨日は。ありがとう。

Aノエーモンヨークモイテ⁽²⁾ー。
あ。い もの(を) たくさん もらって。

B イーエノ。マーオイシナイケド⁽³⁾ノ。セツカクムスコカ
いえね。まあ おいしく ないけれど ねえ。せうかく、息子が

オクツテキタモンジャケン(Aエー、エー、アン……)マ
送って 来たものだから。(ええ、ええ、あの……) まあ。

一 チート スソワケ ショー オモーター……。
ちと ずわけ しょう(と) 思って……。

A アリヤ リヤー、マー オーケニ、アンタ ムスコ ドコー イキ。
あらら。 まあ、 ありがとう。 あなた、 息子(は)、 とこ(へ) 行って
ーンノ。
いる の？

B アレワ ネヨー。(4) (アンニ、) トーキョーノ ニホンムセン ユー
あれは ねえ。(うん、) 東京の 日本線(と) いう
トコエ デオラー。
所へ 出てくるわ。

A アリヤ エー コト ヨナー、エー トコジヤ ノ、モー
あら、 いう こと ねえ、 いう 所が ねえ、 ちう。
ホデ ヨメサン モイタン カノ。
それで、 嫁さん(は)、 もらったの かね。

B イエ、マダ モラワン ノヨ。
いえ、 まだ もらわない のよ。

A アリヤ、ホリヤ マー モー ハイ モラワニヤ イカン ナー。
あら、 それは まあ、 ちう けや、 もらねば" いけない ねえ。

B モラワニヤ オモーター (アンニ、) モー オヤワ シンバ
もらねば(と) 思って、 ちう 親は 心配

イ ショー ンノ ジャケド ナー、(アンニ、) コドモガ ナカナカ
(ているのだけれど) ねえ。(うん、) 子どもが、 なかなか
ソノ キン ナラン ワイノ。
その 気に ならない ねえ。

A (笑) ドッコ モ ナー、ソー ナッ テカラー、ン。
どんも ねえ、 そう ちうて、 ちう。

B ドコゾニ エー ヨナ オラン カノ。

どこかに、 名さうな(嬉)は、 いない、 かね。

A ンーッ テ マー ノー。 ソリャー キノ…… ソノ トコロカラ モ

ええと、 まあ、 ねえ……。 それは、 木の(浦)、 その、 所から も

ラワダッ トラ イカン ワー。

らわなかつたら、 いけない、 わ。

B ソー カアー。

そう、 かねえ。

A アー。 モー サイ サイ モンテ クレンケー (B ンー ンー。)

ああ、 ほう、 再び、 聞いて、 くないから、 (んん、)

マー ソイデー ドコゾデ マー エー コー モラワ ノ ヨノー。

まあ、 それで、 どこかで、 まあ、 …… (棺)を、 もらう、 のよね。

B マー サガシテ ミトー クレー。

まあ、 探して、 みておくれ。

A マー キー ツケ トラ ニャー イカン ワー。

まあ、 気を、 つけておねえは、 いけない、 わ。

注

- (1) 瀬戸浜……木浦の北東に隣接する小集落
- (2) モイデー……「もらって」の簡略形式。過去形は「モイタ」である。未然形は、「モラワ」となっている。
- (3) オイシ ナイ……「オイシ ュー ナイ」と拗音化して「いな」のが、注目される。
- (4) ネョー……文末詞「ネョー」は、親しい間柄で使用される。
- (5) キノ……「木浦」と言おうとしたが、途中で言いさして、「トコロカラ」という言葉に変えた。
- (6) モンテ……「モドッテ」の簡略表現形式。

13. 高知県南国市岡豊町滝本

話し手

(略号) (氏名) (性) (生 年)

A 窪添久子 女 明治34年生まれ

B 窪添紺恵 女 明治43年生まれ

A アラ マー コンエサン シバラク。ズイブン オトンドシカク
あくら まら 紺恵さん しばらく。ずいぶん 久しぶりだ
タネー。アイカーラズ オゲンキ。オハナノ ホーワ ンド
たねえ。相変らず 御 元気。お花の方 け ど
ー。ウレマスカ。
う。売れますわ。

B アリンガトー。ミナサンノ オカン ゲンデネマ。ミナ ヒーキ
ありがとう。皆さんの おかげでねえ。みな ひいき
ニ シテ モローテ マ ヨー ウレヨリマス。
に して もらっ て ま しく 売れています。

A マー コノ ハナワ ナント ユー オハナ。キレイネー。ア
まあ この 花は 何と いう お花。きれいなねえ。あ
タシ ^{xxxx} イケテ ミタイト オモウワ。
にし ^{xxxx} 活けて みたいと 思うわ。

B アノネー アノー ハナニ マー イケルノゾガワネー ヤッパリ
あのねえ あのう 花に まあ 活けるのねえ ちよほり
アノー ヒノ モツ モンガ ヨー アノー ウレ ^{xxxx} ウレマスンガ
あのう 日の 持つ ものが よく あのう ^{xxxx} 売れますが

ネー。
ねえ。

A ソー。 マー アンタワ エー ショーバイオ シテ イルネー。
そう。 まあ あなたは よい 商 売 を して いるねえ。
コンナ ケレイナ オハナオ ナンガメテ オカネオ モーケテ
こんな きれいな お花を ながめて お金と もうけて
イイコト ウラヤマシイワ。
よいこと じつやよいわ。

B ソレモネー ミンナーノ オカンゲン デスラーネ。 ホントー ア
それもねえ みんなの おかげ ですよ。 ほんとい あ
ノー モー シバラク ジューネンモ イチョ ルキニネー。 オカ
めう もう しげらく 十 年 も 行ってるからねえ、 おか
ンゲンデ ミンナーニ ヒーキニ シテ モローテネー マー ア
げで みんなに ひいきい して もら っ てねえ まあ あ
ノー エンポーノ カタモネー ワザワザ キテ モラウキニ コ
めう 遠 方の 方もねえ わざわざ 来て もらうから こ
ンドラ ヤスミタイト オモーテモネー ヤッパリ アノ ミナニ
んどけ 休みたいと 思っ てもねえ やっぱり あの 皆に
キテ モラウト オモヤ ヒトニ アノ ウソニ ナルキニネー
来て もらうと 思えば (他)人に あの うそに なるからねえ
アノー ニチヨーモ イツモ イキマズンガネー。
あのう 日曜も いつも 行きますのよ。

A マー エー コト。 ソレニ ヒキカエテ⁽¹⁾ アタシワネー コノ
まあ よい こと。 それに ひきかえて あたしはねー この
トーリ アシガネー シンケイッーンデ ノーガ ワルクテネ⁽²⁾
通り 足 がねえ 神経痛 で 具合が 悪くてね

一。 ホント アンタン が ウラヤマシイワ。 ハヨ一 ケンコー
え、ほんといあんたが うらやましいわ。 早く 健康
ニ ナリタイト オモウ。
に なりたいと 思う、

B ネ一 ミンナーンガネ一 トシ トレバネ一。 ヤッ パリ イタイ
ねえ みんながねえ 年を取ればねえ。 や、ぱり 痛い
ところも できらあね。 できらけれど や、ぱり じと
シタ ッタラ ヤッ パリネ一 アノ一 ヨケ一 アノ一 アシモ
していたから や、ぱりねえ あのう 一層 あのう 足も
タタンヨ一 ナルキ アタシモ イッ シュ一 ケンメイ マ一 アノ
立たねように なつたあなしも 一 所 懸 命 まあ あの
一 セ一 オ一 ダシテ イキヨリマス。
う 精を 出して 行っています。

A ソ一 ソラ エ一 ワネ一。 ソラ ソートネ一 アタシノ ムスコ
そう それはよいわねえ。 それは そうとねえ あたしの 息子
ハヤ = 注一 シチ= ナッ タゲガネ一 ン ドッ カ エ一 エン
はや = 十 七に なつたがねえ どこかよい 縁
ダンワ ナイローカネ一⁽³⁾
談は 無いだらうかねえ。

B アリマストモ。 ネ一 アノ一 アタシモ | ボトウ | ボトウ | ヒト
ありますとも。 ねえ あのう あたしも ぼつ ぼつ 人
ノ オセワモ サシテ モローテネ一 マ一 アノ エングミモ
の 御世話して させて もらつたねえ まあ あの 縁 組も
シヨリマスンガネ一。 マタ アノ一 エ一 ヒトンガ アッ タラ
していますかねえ。 また あのう よい 人が あつたら

マ一 ミト ヲ ケテ オイナキ マス。
まあ 見つけて おいておきます。

A ンドーゾ ゼヒトモ セワシテ チョーノダイネー。 オネンガイ
どうぞ ぜひとも 世話して さいだいねえ。 お願い
シマスヨ。
しますよ。

B ハイ ヨロシク ノゴザイマス。
はい よろしく ございます。

A アー キョーワ ヨカッタ。 ヒサカタガリニ アンタニ オメニ
あら 今日ほど 良かった。 久方ぶりに あなたに お目に
かかって よかった。
かかって 良かった。

B マタシモ ホントニ ウレシカッタデス。
あなたも ほんとに うれしかったです。

A コンゴモ ヨロシク タノムゾネ。
今後とも よろしく 頼むよ。

B ハイ ヨロシク ノゴザイマス。 ソレナラ ノコキンゲンヨー
はい よろしく ございます。 それなら 浄機嫌よう
ニ。
に。

A ソレノデワ オンゲンキンデネー。 サヨーナラ。
それでは 御元気でねえ。 さようなら。

B サヨーナラ。
さようなら。

注記

- (1) キの母音が無声化しているようである。
 - (2) ノーゾガワルイ (具合が悪い) ノーゾガエー (具合がよい) この「ノー」は「能」か。
 - (3) このロ-は「ろん」の変化したもののか。
- (追記) 窪添久子さんは東京在住が長かった関係で、共通語が若干入っているが、方言才劇に忘れて下さり方がはかばかかったので、やむを得なかった。

14. 長崎県西彼杵郡琴海町尾戸郷

話し手

(略号)	(氏名)	(性)	(生年)
A	山崎 キメ	女	大正2年生まれ
B	竹島 マシ	女	明治34年生まれ

A コンニチワー。

今日は。

B コンニチワー。

今日は。

A (笑) ヨカ オテンキデゴザイマス。
良い お天気でございます。

B アー ヨカ オテンキ ナルマシター。 オジーチャンタチャ ド
ああ 良い お天気になりました。 おじいさん達は ど
ギャン シトラレマッシュェ カー。
う しておられますか。

A ヘイ。 オジーサンナデス ナー。 モー コノゴラ ゲンキニ
はい。 おじいさんはです ねえ。 もう この頃は 元気に
ナッテー モー クサー ハタケニ クサトリバカリ
なって もう 草を 畑に 草取りはばかり
イキオリナストデス ヨー。
行っておられるのです よか。

B ソーリャ ケッコナ コトデゴザイマース。
それは 結構な ことでございます。

A (笑) オタクノ オジサンナ ドガン シトリナッシュォ カー。
お宅の おじいさんは どんなに しておられますか。

B ウチノ オジサンナ カンガ ⁽¹⁾サワツタトデッシロ。 モー コンゴ
私方の おじいさんは 寒が 障ったのでしょう。 もう この頃
ラ ネコロンデバツカリ ⁽²⁾オリマストデス ヨー。
は 寝ころんでばかり おりますんですよ。

A ンー ソリャ ヒド アンナス ナー。 ンー。 (B笑) (笑)
うん それは 大変でございます ねえ。 うん。
⁽³⁾オウチナ ナロ ワッカ ヒトタチャ ナンバ シオンナッシュォ
あなたの家では だったら若い人達は 何を しておられるんで
カー。
しょうか。

B (笑) コノゴラ ミカンエンバツカリ シオラレマストデス。
この頃は 蜜柑園ばかり しておられますんです。

A (笑) ソリャ ヨー アンナス ナー。 (B笑) コトシャ モー
それは よう ございますねえ。 () 今年は もう

ミカンノー ヨカ ネーノ シマシテ。
蜜柑が 良い 値が しまして。

B ハー サクネンヨリカ ナー。 ヨカ ネノ シマシテ ヨー ゴ
はい 昨年よりか ねえ。 良い 値が しまして 良い じ
ザイマス トー。
ございますんよ。

A ホントー。 ヨー アンナシター。 ソツジャ ナー。 マー ⁽⁴⁾ ハッ
ほんとうに。 よう あられました。 それでは ねえ。 まあ

⁽⁵⁾
オキバンナツシェー。
精をお出しくたさい。

B ハー。 オキバンナツシェー モ。
はい。 精をお出しくたさい。

A サヨナラ。
さようなら。

B サヨナラ。
さようなら。

注記

- (1)「サワッタトデッシロ」は、「サワッタトデスジャロ」からのもの。
- (2)「オリマストデス」の「マストデス」は、改まった時に現われる形態。
- (3)「オウチナ」は、「オウチニワ」からのもの。
- (4)「ハッ」は、笑い気味での間投的音声。
- (5)「オキバンナッシュェー」の「ナッシュェ」は、「ナサイマセ」の縮形。

場面(7)

道で目上の知人に会う

1. 青森市大字牛館

話し手

(略号)	(氏名)	(性)	(生年)
A	桜田 鉄弥	男	明治36年生まれ
B	八木沢千代三郎	男	明治43年生まれ

B キョー ドッツノ ホーサ エッテ キスター。
今日(は) どちらの 方へ 行って 来ましたか？

A ウーン キョーワ、ホラー、ヤンマ ドンダベドモッテー ヤンマ
うん 今(は) は ほら、 山(が) どうだろうと思って 山(を)
ミニ エテ キタエナー。
見(に) 行って 来たよなあ。

B ウーン、ドッツノ ヤンマノ ホーサ エッテ キター。
うん、 どちらの 山の 方へ 行って 来た？

A ウーン アラー アコノ アッコノ ムゲァノ⁽¹⁾ ヤマチョーガラ
うん あれ ~~xxxxxx~~ あそこの 向いの、 山長(ちやう)から

キ_{xx} カッタ ヤマガラ (B ウンウン) ソエカラ コンダ
買った 山(か)ら (うんうん) それから こんど

ミンズギジャ⁽²⁾ ワサ エッテ ミンデヨー (B ウン) スタキャ
水木沢へ 行って みてよう (うん) そしたら

ズンブ ヤッパリ ユギデ (B ウン) ウーン キー コロンデ
ずいぶん やっぱり 雪で (うん) うん 木(が) (倒れ)転んで

ラネナー。

いたよなあ。

B ウンダガー、ワー マンダ^① コドス ユギ スグダハンデ^② マンダ
そうか、 吾(は) また 今年 雪(が) 少ないから また
ソー コロンデ^③ ネガドモテダエナー。
そう(木は倒れ)転んで いないかと思っていたよなあ。

A ヤー エテ ミレバ マンダ^④ ホンデモ ネッデバー。(B アー
やあ、 行って みると また そうでも ないぜ。(ああ
ウンダガ) ウン ソズ^⑤コズ^⑥ グット^⑦ キー タオエデ^⑧ マテヨ^⑨。
そうか) うん そちこち(に) どうにもこうにもならないほど木(が) 倒れてしまっよう。

B ウンウン、 ヤ、 キョネンモ タンゲ^⑩ コロンデ^⑪ アッタンダケンド^⑫
うんうん、 やあ、 去年も かなり (倒れ) 転んで いたんだけれど
モ タンゲ^⑬ァ ウー キタゲ^⑭ッタリ^⑮ ナンタリステ^⑯ マンダ^⑰ コド^⑱
も かなり 切^⑲ったり なんかして また 今年
ス エッテ^⑳ ミネドゴデ^㉑ ワモ キニ カゲデラケンドモ^㉒ ナガナ
(は) 行って 見ないから 吾も 気に かけていたけれども なかなか
ガ マー コノ ウズニ マンダ^㉓ エッテ^㉔ ミネバ^㉕ マエンドモテ^㉖
(行けないで) まあ この うちに また 行って 見ないと だめだと思って
エダケンドモ、 デモ タンゲ^㉗ァ ゼンメ^㉘コ^㉙ タンゲ^㉚ァ トッテ^㉛
いたけれども、 でも かなり ぜんまい(を) かなり 採って
キタデバナ。
来たではないか。

A ウン アツコズ^㉜ コンダヨ^㉝ー (B ウン) ^㉞スマテカラ コー
うん あちこち こんどよう (うん) (仕事(が) 済んでから こう
ナンガ^㉟ ジェンメ^㊱ガ^㊲ ナンガ^㊳ ワランビガ^㊴ ヤー オエデ^㊵ ネベ^㊶
何か、 ぜんまいか 何か、 わらびか(が) やあ 生えていないだろう

ガドモッテ アルエテ ミンダ⁽⁹⁾キャ (B ウン) ヤー ヨー
かと思って 歩いて 見たら (うん) やあ

アツコツ マンダ ナンダエナ (B ウン) オエデ エダネナー。
あちこち(に) また なんだよな (うん) 生えて いたよなあ。

B アー アノ ⁽¹⁰⁾スラサ エッテ ミンダベ。
ああ あの 斜面へ 行って みたろう。

A ウーン スラノ ホー ズット マワッタクエヨー (B ウン)
うん 斜面の 方(を) ずっと 回ったらよう (うん)

ソエデモ マンダ ウーン ソー ヤマサ アリタ⁽¹¹⁾ ゴトモ ネバ
それでも また うーん そんなに 山へ 歩いて(行)たことも ない

タテ (B ウン) エー エヌモ アルゲバ ボーニ アダルテ
けれど (うん) えーと 犬も 歩けば 棒に 当たるといって

マンダ (B ウン) アダル モンダエナー。
また (うん) 当たる もんだよなあ。

B ヤヤ コノキン トレバ タエスタ モンダジャ。
やあやあ このくらい 探れば 大した もんだよ。

A ウーン ワンツカ (B ウーン) ダバタテヨー。
うん わずか (うん) だけれどよう。

B ウン、ヤー ツケァ ウズニヨー、フタリ マー スゴドノ スギ⁽¹²⁾
うん、やあ 近い うちによ、二人(で) まあ 仕事の 暇(を)

ミンデ モ エッカエ エテ ミンビスヨ、ヤンマ ミネ、オンメ
みて もう 一回 行って みようよ、山(を) みに、お前(は)

モー フトドゴ アンダベ、ヤマ⁽¹³⁾
もう 一 所(が) あるんだらう、山(が)。

A ウーン ホンダ、マンズ アズノ ホーノ ヤンマ ミネァハンデ
うん そうだ、まず あちの 方の 山(を)(今日は)見ないから

ナー。

なあ。

B ウン、ヤ、ワモ エグ キナッテラハンデヨ一。⁽¹⁴⁾ エー エッカエ
うん、やあ、吾も 行こうと思っているからよう。 えーと 一回

エッショニ エグベス。

一緒に 行こう。

A オヤ、エッタラ マンダ ナンダジャ、(B ウン) ソゴソ エー
おう(ぞうだ)、行ったら また 何だよ。(うん) それこそ えーと

スマッタラ ジェンメァダリ ワランビダリヨ一 (B オヤオヤオヤ)
済んだら ぜんまいなり わらびなりよ (おうおうおう)

フタリデ ズット ヤマ マワッテァ (B ウン) トッテ キベス
二人で ずっと 山(を) 回って (うん) 採って 来よう

ヨ一。

よ。

B オメァ ハー キョ一 エッテ コノグレア トッテ キレバ
お前 今日 行って このぐらい 採って 来れば

ハー コノツギ エゲバ ダエジョブダネ。⁽¹⁵⁾ ワ、カダテ エグジャ一。
はあ この次(に) 行けば 大丈夫だよ。 吾(は) について 行くよ。

A ヤ ソエサ マンダヨ、(B ア一) アラ アコノ ゴサ
やあ それに またよ。(ああ) あれ あそこの⁽¹⁶⁾

ゴースザワノ ホ一ノ (B ウン) ボグジョ一サ エゲバ
合子沢の 方の (うん) 牧場へ 行くと

(B ウン) アツツァ エゲバ ウッテ アルズデバー。⁽¹⁷⁾
(うん) あっちへ 行くと うんと あるというじゃないか。

B ア一ア一ア一ア一、アノ アレハ⁽¹⁸⁾ズノサワニナー (A ウ一ン)
ああああああああ、あの 有畑の沢になあ (うん)

ウンウン、ヤー キョー コノキン トレバ ダエジョーブダー。
うんうん、やあ 今日(は) このくらい 採れば 大丈夫だ。

A ウーン (B ウーン) マンダヨー (B ウーン) コンダ
うん (うん) またよ (うん) こんど

フタリ エッテヨー、(B ウーン) ヤンマ ミンダラヨ、(B
二人(で) 行ってよ、(うん) 山(を) 見たらよ、(

ウン) コンダ スマタラ コンダ ズット (B ウン) ボグ
うん) こんど 済んだら こんど ずっと (うん) 牧

ジョノ ホーガラヨー (B ウン) アノー ゴースザワノ ホー
場の 方からよ (うん) あのう 合子沢の 方

ノ ガグエン⁽¹⁹⁾ノ ホー アラー (B ウン) アド ズット コー
の 学園の 方(など)あれ (うん) あと ずっと こゝ

エッペァ ミンナガラヨ (B ウン) エッテ キベスヨー。
いっはい 見ながらよ (うん) 行って 来ようよ。

B エッテ キベス。(A アー) ヤ ドーモ キョー ゴグローサ
行って 来よう。(ああ) やあ どうも 今日(は) 御苦労様
マデスタ。

でした。

A ヤーヤ ホントネ コンダ アー エグ ドギ エッショニ エグ
やあやあ ほんとうに こんど ああ 行く 時 一緒に 行
べスー。

こゝ。

B ハエハエハエ、エッショニ ツ ツデ エッテ モラウガナ。
はいはいはい、一緒に ^{xx} つれて 行って もらうかな。

A オヤオヤ。
そうそう。

B アエ ジャ ドーモ。
はい じゃ どうも。(さようなら)

注

- (1) 以下の「ヤマガラ」へかかる。その「山」は牛館地区所有の山からみて向い側の山であり、それを山上長一(青森市大字新町野)から買ったという。
- (2) 収録地から4 Kmほど南方の山へ入ったあたりにある。「水木沢」という漢字名称にするのが良いかどうかは不明である。他に「ミンズクジャ、ミンズクザン」ともいう。「水木」というのは山野に自生する落葉喬木で、山の神の木として、以前は県内各地で小正月用のまゆ玉を飾る木に使ったもので、小正月にはこの沢へ村人がおのおのとりに行ったという。現在、共同管理している山だという。以上のことから「水木沢」という漢字名称を訳に掲げておく。
- (3) 程度の甚しい様をいう副詞。定まった訳はなく文脈により決めざるを得ないことばである。
- (4) 漢字は「大概」。
- (5) 「切る」を「キタゲル、キッタゲル」と言うことも多い。
- (6X8) 春の山菜「ぜんまい」「わらび」
- (7) 訳の「仕事が済んでから」の「仕事」は、春先に自分の所有する山へ入り、冬季中の倒木のあとしまつをしたり、木の下枝、下草を刈り払ったりすること、をいう。
- (9) 特に「ヨー」は無意味の発音に近い感じもある。
- (10) 「スラ」の語源は不明。
- (11) 単純に「山を歩いた」と訳すべきか。が、当地では「山サ歩いた」と表現することも多く、「山 歩いた」という表現との区別から、やはり「山へ歩いて行った」と訳するのが妥当だろう。
- (12) 漢字は「隙」。
- (13) ここの文の意は「山菜の採れる良い山、つまり、あな場をもう一か

所知っているんだろう」

- (14) 「エグ キナッテラ」は直訳すると「行く気になっている」
- (15) 「ネ」は「エ」とも聞こえる。
- (16) 当地では「合子沢」を「ゴサ」とも言うことが多い。青森市大字合子沢、収録地から2 km離れている。その後背の山の名をも合子沢という。
- (17) 合子沢の牧場をさす。
- (18) 収録地から4 kmほど南方の山へ入ったあたりにある。むしろ、「アレハダの沢」だという。「アレハズ」も「アレハダ」も現在の地図には載っていない。が、江戸時代末期の当地の地図に「有畑」とあるのによる。「有役畑(アラキハダゲ)」から出たことばだろうという。焼畑にして、火をつけたその年菜種を播き、翌年ソバを播く。その後、放置しておくとも荒畑になる。従って「荒畑」と書くのも妥当かもしれない。
- (19) 青森県立青森学園。

2. 群馬県利根郡利根村大字追貝

話し手

(略号) (氏名)(性) (生年)

A 井上 嘉十 男 明治35年生まれ

B 小林 弥太郎 男 明治40年生まれ

B アー↓ゲン カジューサンカイ。アー コンチワ。
ああ 嘉十さんがね。 ああ 今日は。

A ハイ ドーモ。
はい どうも。

B ヒサシブリダッ タネー。
久し振りだったねえ。

A イー アンバイデサー⁽¹⁾。
良い 按配でさあ。

B ドコイ デカケルイ。
どこへ 出かけるのがね。

A アー キョーワネー オーヨーノ⁽²⁾ ホー イッテ クベートモッテ⁽³⁾。
ああ、今日はねえ、大場の方へ行って こようと思って。

B アー ソーカイ。
ああ そうかね。

A アー。
ああ。

B ドーダイ ソノゴ カーリヤー ネーカイノ。
どうだね、その後 変わりは 無いかね。

A アー。ベツニ ドーモ カーリモ ネーケドネー。ドーモ ハー
ああ、別に どうも 変わりも 無いけどねえ。 どうも もう
トシュー⁽⁴⁾ トツタカラ アシコシガ ワルクッテ ドーモ
年を 取ったから 足 腰が 悪くて どうも

B ドーモ ソレモ ショーガネーマイナー。
どうも それも 仕方が無いよねえ。

A オモーヨー ज्या ネーマイ。
思う様では 無いよ。

B トシ トッテ トシノ セーダモンネー。
××× ×××× 年の せいだものねえ。

A ソーダヨ。(5) アンタン トコジヤ ドーデー。ワゲーシナンザー(6) キ
そうだよ。 あなたの どうだね。 若い衆などは
ヨーワ ナンシダイ。(7)
今日は 何をしているのだね。

B キョーワ テンキガ イーナンチュンデ コンニヤクノ ショード
今日は 天気が 良いなどと言うので、 麹 麴の 消毒
ク イッタヨー、
に 行ったよ。

A アー ソーカイ。(B アー) マー テンキツツギダカー(8) チョード
ああ そうかね。(ああ) まあ 天気続きだから ちょうど
イー アンバーダイネー↓。
良い 按配だよねえ。

B ソーダイネー。
そうだよねえ。

A アー。(9) ハー ソイジヤー イソグンデ オラー マー。
ああ。 では、 それでは 急ぐので 俺は まあ。

B アー ソーカイ。
ああ そうかね。

A ココネーデ ナンダガ。
このあたりで 何だが。

B ハイ ゴメソナサイ。
はい、 御免なさい。

A マタ イキオーバー。
また 会おう。

B マタ イキオーバー。
また 会おう。

A ハイ ゴメンナサイ。
はい、御免なさい。

B ゴメンナサイ。
御免なさい。

注

- (1) 「イー アンバイ」は、天候の挨拶。Aの発語は「サー」で言いさしになっている。次の、Bの発語にさえぎられたためである。
- (2) 地名。大字追貝の中の小字名。収録地の字追貝より二つしもになる。
- (3) 「イッテ クバー」の「テ」の母音は無声化している。任意（非義務的）の無声化である。「トモッテ」は、「ト オモッテ」の「オ」が脱落した弱まり形である。
- (4) 「トシュー」は、「トシオ」の融合形。
- (5) こゝに間あり。間を置くことにより、話題の転換をおこなっている。
- (6) 「ワケーシ」は、息子とその嫁をさしている。
- (7) 「ナンシ」は、「何為」、「何を為」。
- (8) 「カー」は、「カラ」の弱まり形。「ラ」の子音が脱落した。
- (9) 「アー」の後に間あり。間を置くことにより、話題を打ち切り、別れの挨拶へと進めている。

3. 千葉県館山市相浜

話し手

(略号)	(氏名)	(性)	(生年)
T	武田 松雄	男	大正6年生まれ
M	森 留吉	男	大正11年生まれ

- M エー オハヨーゴザイマス。 タケダサン ドチラエー。
ええ おはようございます。 武田さん どちらへ。
- T アー オハヨー。 エ イマノー クミアイカラ リジカイガ
ああ おはよう。 え 今ね 組合から 理事会が
アルカラッチュー デンワダモンダカラ イグトンドヨ。
あるからという 電話だものだから 行くところだよ。
- M オー ホラ タイヘンダネー。 マニアウカナー。(T 笑)
おお ぞら 大変だねえ。 間に合うかな。
- T エッ ソラ ソート オメラ ムスコサン ソロソロ アンダッペ
ええ それは そうと お宅の 息子さん そろそろ あれでしょう
シンガクノ ジキダッペ アジャダッナッタイ。
進学の 時期でしょう どうなるのかい。
- M アイヨ ヤロサマガヨー オー ~~チュウガク~~ アワコーノネ⁽¹⁾ エー
あいよ 野郎様がね おう 中学 安房高のね ええ
ニネンノ ケンドーブダケドネ マー イチネンガ アルケドサ
二年の 剣道部だけどね もう 一年が あるけどさ

(T シー) ヤッパリ センパイノ ヤッパリ シンガクホーシンオ
やはり 先輩の やはり 進学方針を

アノー カンゲテネー エー ヤッパイ ソレ キボー シテイル
あのう 考えてね ええ やはり それ(を) 希望 している

モンダカンネ オヤジト オヤトシテネ ホント アタマガ イテ
ものだからね ^{x x x x x x}親父と 親としてね 本当 頭が 痛い

トコナンデスヨー.

ところなんですよ。

T ウーン ホダナー. ホンデ オメラガ ム ムスメサンワ ケッ
うん そうだねあ. それで お宅の ^{xx}娘さんは 結

コン サセネバ オイネッチューシ ムスコワ シンガクダ² ナン
婚 させなければ いけないというし 息子は 進字だ² なん

カット ナカナカ コラ アタマガ イテノー.

かといって なかなか これは 頭が 痛いねえ.

M ソーダネー ムスメンナゴトネ (T シー) ジジョトヨー
そうだねえ 娘おなご⁽²⁾とね 次女とね

コイモ イッチャク ノッコミデノー (T ホ ホホー) フタリ
これも いっしょに 乗り込みでね (ほ ほほう) 二人

イッチャクンヨニ ナル カタチニ ナッチマウダヨ. (T ホー)
いっしょに なる かたちになっちゃうのだよ. (ほほう)

ソイセ アレダッペ ヤロサマガ コンダ ナオ ダイガク シン
それに あれでしょう 野郎様が. 今度 なお 大学 進

ガクン ナイトネー オヤトシテ ホラーネ ヤラザルオ エナイ
学になるとね 親として それはね やらざるを えない

ケドモネー イジョー シンコクダト オモウノー タケダサン¹ノー.
けれどもね 以上 深刻だ¹と 思うねえ 武田さんねえ.

T ~~~~~ ノー リョーワ ネシサ。 ダケン マ ワリゴトモ バッ
ねえ 漁は ないしさ。 だけど ま 悪いことも は
カリ ネカンノ マタ リョーガ モ デテクンダッペカラ マー
かり ないからね また 漁が もう 出てくるだろうから まあ
ガンバラッシェオー。

頑張りなさいよ。

M ダケンネー イマ^{x x x} イママデン ネー アンダネー チョーリュウ
だけどね 今 今までに ない あれだね 潮流

イヘンチュコト カンゲラレンネー。 タケダサンモ クミアイ
異変ということ(も) 考えられるね。 武田さんも 組合

チョーダッケン⁽⁴⁾ オレ カンジ ヤッテベー イママデン ネー
長 だけど 私 幹事 やってるでしょう 今までに ない

ヨ コトシノネー (T ン) アンダ ハマノネー コノ シオ
よ ことしのねえ あれた 浜のねえ この 潮

ノ アンダ イヘンチュートコワ コレー シンコクナ ハナシ
の あれた 異変ということは これは 深刻な 話

ジャ ネーカノー。

では ないかねえ。

T ンノー コリャ テンネンゲンショー ドーニモ ショーガネッケン
うん、ねえ これは 天然現象 どうにも しょうがないけど

マ ナキゴトバリ ユッタッテ ショーガネカラ マー ガンバル
ま 泣きごとばかり いったって しょうがないから まあ 頑張り

ベヨー。

ましようよ。

M ソーダヨ。 マ ガンバンベ ガンバラネバ イケネヤネー
そうだよ。 ま 頑張りましよう 頑張らなければいけないやねえ

(ア ア) アンシテン ワレワレモ グンタイデネー アーシテ
 (ああ) 何しても われわれも 軍隊でねえ ああして
 イジカンデ イシン カジリツクヨーナ ジョータイデモッテヨー
 頑張っ 石に かじりつくような 状態でもってさあ
 コンクケツボーニ タエテ ガンバッテ キタダカラサ (ア ア)
 困苦欠乏に 耐えて 頑張っ きたのだからさ (ああ)
 ホントン ダッケン コラー オーキナ モンダイジャ ネカネー。
 本当 だけど これは 大きな 問題 ではないかねえ。
 クミアイチョーネー。

組合長ねえ。

⁽⁵⁾
 アー ジャ マ。
 ああ じゃ ま。

注

- (1) 中学、安房高のね——安房高校二年生の息子を、つい中学と言いちがえてしまった。
- (2) 娘おなご——特に二語を合わせたことの意味はない。娘とおなごをもののはずみで連ねてしまったもの。
- (3) 乗っ込みで——結婚の時期が姉妹でほぼ同じ頃になることを、船員用語の同時に船に乗り込むという表現を用いたもの。
- (4) 組合長だけど——組合長は武田松雄氏の実兄で、松雄氏は理事だが内容に合わせて、組合長と仮定した。
- (5) じゃ ま——録音を意識して、別れの挨拶がスムーズに出ない。

4. 新潟県柏崎市大字折居字餅粮

話し手

(略号)	(氏名)	(性)	(生年)
A	高橋 武義	男	明治45年生まれ
B	高橋 森一	男	明治38年生まれ

- B ハエ⁽¹⁾ オハヨァーゴザエマス。
はい おはようございます。
- A ア⁽²⁾ ドァーモ オハヨァーシタ⁽³⁾。
ああ どうも おはようございました。
- B ハエ オメァサン ドチラエ エギナサル。
はい。あなた どちらへ お出かけですか。
- A アー キョァーフネー マチニ クワイギガ アリマシテサ
ああ。今日はねえ 市に 会議が ありましてさ。
(B ア ソァーデスカ。) コレカラ デカケマスター。
(あ そうですか。) これから 出かけますよ。
- B アー ソァーデスカ。(A ア.) ハエ ソァーデスカー。
ああ そうですか。(あ.) はい、そうですか。
- A ドァーシタエ ボンダガ アノ ヤマガタエ エッテル カズエサ
どうしたね お盆だが あの 山形へ 行っている 和枝さ
ン タチワ キマシタカ。
ん 達は 来ましたか。

B アー エマ マー クルテ ユンデ マー チョット ワタシッ
ああ 今 まあ 来ると いうので まあ ちょっと わたしが
マー チョット... トチューマデ デ^{xx}... デマシタンデステ.
まあ ちょっと... 途中まで 出ましたのですよ.

A ア ソァーカ. (B ハ) ソラ タイゴクロアードァー.
あ そうか. (はい) それは 大御苦勞だね.

B ハエ ハエッ.
はい はい.

A アー ゴクロアースン.
ああ 御苦勞さん.

B ハエ ドァーモ ハエー.
はい. どうも はい.

A マー ナカナカ コトシノ オボンモー マイニチ アメア フッテ
まあ なかなか 今年の お盆も 毎日 雨が 降って
タイヘンダネー.
大變だねえ.

B ソァーエンデステ. マー コマリマシタエネ アー. アノー
そうなんですよ. まあ 困りましたよ. ああ. あのう
マ ツイタチカラー エチンチ エーバッカデ エー オテンキガ
まあ 一日から 一日 いいばかりで いい お天気が
ナクテ コマリマスワ. アー. (A ヤー) アンタ ドチラエ
無くて 困りますわ. ああ. (やあ) あなた どちらへ
オデカケエス.
お出かけです.

A ヤー ジツワ マイニチ クウイギノ レンゾクデー アンマリ
やあ 実は 毎日 会議の 連続で. あまり

イー ハナシバッカ ヨノナカ⁽⁵⁾ ナイモンデ アー シャバ⁽⁶⁾ジュー
いい 話ばかりは 世の中には 無いもので、 ああ 娑婆中
ガ サワギ⁽⁷⁾デ コマッタノァー コレー。
ガ 騒ぎ⁽⁷⁾で 困ったねえ これは。

B ソァーデスカ。 ソ オボンメァーダテノン ナカナカ エソガシー
そうですね。 そう お盆前だというのに なかなか 忙しい
ンデスネー。 ハエ。
のですねえ。 はい。

A イヤー オヤカタガ イロイロノ モンダイガ オキタリ シテル
やあ 親方が いろいろ 問題が 起きたり している
モンダカラ (B ンマ マー ソァーデショァー.) シモノ
状態だから。 (うんまあ まあ そうでしょう。) 下部の⁽⁸⁾
ホァーマデ ナカナカ ヒビクヨァーナ ヨァースデ ヘァー
方まで なかなか 影響するような 様子で もう
コマットァー。
困ったよ。

B ハエー。 ソラー ナカナカ オマエサンガタモ ヨァーエジャ
はい。 それは なかなか あなたがたも 容易では
アリマセンワ。 (A 笑 ンー。) ソァーデスカ。 ナカナカ
ありませんわ。 そうですね。 なかなか
ヨァーエジャー (A ハエ) ネァーガ ソッデー アンタガタノ
容易では (はあ) ないが。 それで あんた方の
コドモサンタチワ ドァーシマシタエー。
子供さん達は どうしましたね。

A アー ウチデモ アッダー トーイノワ コトシワ キマセンドモ
ああ 家でも なんだ。 遠いのは 今年も 来ませんけれども

ネー (B ハー) チカエ アノ コドモガ マー オボンニ
 ね (はい) 近い 子供が まあ お盆に
 エー ヤッテキテ ソエデ マー アー トショリオ⁽⁹⁾ ヨロコバシ
 ええ やって来て それで まあ ああ 年寄りを 喜ばせ
 テルノサ、
 て居るのさ、

B アー ソァーデスカネ。
 ああ そうですかね。

A アー。
 ああ。

B エヤー ウチノ ヤロードモモ⁽¹⁰⁾ ナカナカ クル クルッテ
 やあ。 家の 野郎どもも ~~xxxxxxxx~~ 来る 来ると

エッテテ キョァー オレ デマシタンテスドモネ (A アー)
 いておいて 今日 俺が 出ましたのですけれどもね。 (ああ)

ホーデ マー ミエマセンエネ⁽¹¹⁾ (A ヤ、~~~~) エマ チョット
 それで まだ 見えませんので (や、) 今 ちょっと

マー ワタシモ ヒツクァーシテ キマシタンデステー。
 まあ わたしも 引き返して 来ましたのですよ。

A アー ソァーカネー。
 ああ そうかねえ。

B ハエ。
 はい。

A ヤー タノシミデ ケッコァーダノァー。
 やあ。 楽しみで 結構だねえ。

B ソレア マー。 マー ソッデモ コドモガ キョールノワネ⁽¹²⁾
 それは まあ。 まあ。 それでも 子供が 来るのは

マー ウレシーデスワ。
まあ 嬉しいですわ。

A ソアーダ (B ハエ) ソアーダ。
そうた (はい) そうた。

B ハエ。 ソアーデスカ ソアー セヤ アンタモ マー ヨアーエジャ
はい。 そうですか それでは あなたも まあ 容易では

アリマセンドモ マー キョアーワ クアエギダト セヤ マー
ありませんが。 まあ 今日は 会議た"と すれば まあ

(笑) (A マー) ジドーシャネ ノランケ ナランカラネー。
まあ) 自動車に 乗らなければならぬからねえ。

A バスノ ジカンモ アルノデ (B ソアーソアーソアー) マー
バスの 時間も あるので (そう そう そう) まあ

コレデ シツレー シマスガ。
これで 失礼 しますが。

B ハ ハエ。
は はい。

A ドーゾ ヨロシク。
どうぞ よろしく。

B エッテ オエテ^(B) ナスッテ。 ッア。
行って おいでなさい。 あ。

注

- (1) ハエ 呼びかけの感動詞。改まった感じがある。
- (2) ア 感動詞。応答のことば。「ハイ」よりくだけた感じ。
- (3) オハヨァーシタ 「オハヨァーアシタ」の変化。「アス」は丁寧の助動詞。「ゴザイマシタ」よりもくだけた感じがある。
- (4) タイゴクロー 「オーゴクロー」とも言う。「ドァー」は「だ」（断定）より強い。長野県中信濃にもあるといわれ、馬瀬良雄氏は「だ」に古代の詠嘆の助詞「を」に由来する「オ」が下接して出来た語とされる。本県でも中越地方に「トァー」（たよ）「ドァー」（だよ）がある。
- (5) ヨノナカニ 「ヨノナカナ」のようにもきこえる。「世の中には」のつもりか。
- (6) シャバ 古めかしい感じだがよく使用される老人語。社会・世の中の意。
- (7) サワギ 大さわぎ。いわゆるロックード事件のこと。
- (8) ヘァー 「はや（早）」の変化。大変の意。
- (9) トショリ 老人の意で話し手とその妻をさしている。
- (10) ヤロードモ 男どもの意。この人には男の実子はないから、娘たちの夫やその男の子たち（つまり孫）をさしている。やや乱暴にぞんざいに言ったのであって、卑下の気持はあっても、ののしる意識はない。
- (11) エネ 「エニ」の変化。故に、理由をあらわす接続助詞。老人層語。
- (12) キュールノワ 「クルノワ」と言うつもりであったが「舌がよく回らなかった」と話し手自身が説明した。
- (13) エッテ オエテ この部分はことばが重なってはっきりききとれず、話し手にきいて文字化した。

5. 長野県上伊那郡中川村南向

話(手)

(略号)

(性)

(生年)

A 井沢 賢一 男 明治32年生まれ

B 尾沢 国蔵 男 明治31年生まれ

A ヤー ドーモ コンニチワ
どうも 今日は。

B アー コンニチワ
今日は。

A アー ドーモ オヒサシュー ゴザイマシタ
どうも お久しぶり ございます。

B ハールカブリダッタネー ~~~~~
久しぶりだったね。

A ドーモ イッモ オアツシャノヨーデ ケッコーデ ゴザイマスナ
どうも いつも お達者のようで 結構で ございます
ウン
ね。

B ヤー トシニャー カテンワイ オレモ モー ワズカデ カゾエ
年には 勝てないよ。俺も もう 僅かで 数え
ドシジャ ハチジューダワイ
年では 80 たよ。

A アハー ソレニ シチャー ドーモ タツシャナ モンデ ケッコー
それに しては どうも 達者な もので 結構だ。

ダ マー トニカク アレダナーン トシオ トルツチュ コトダ
とにかく あれだね。 年を 取るという ことだ

ケワ ドーモー ショーナイナーン ソレデモ マー ワルイ ト
けは どうも しょうがないね。 それでも 悪い と

コガ ナクテ キョーマデ タツシャデ クラシテ キタツチュ
ころが なくて きょうまで 達者で 暮して 来たという

コトワ マー ゴ_{xx} ゴド⁽¹⁾ーヨ⁽¹⁾ーニ マー シヤワセナ コトデ
ことは、 御同様に 幸せな ことで

ゴザイマスナウン
ございますね。

B トショー ヒロウ ヤツァー コリヤー ショーネーナー ソオレモ
年を 取る のは、 これは (しょうがないなあ。俺も
マー コノ クレートル⁽²⁾カー オメーサマモ デーブ ジョーブソ
この 暮しているが、 お前様も 大分 丈夫そうで
ーデー ケッコージャ ネーケー⁽³⁾
結構では ないかね。

A アー オレモ マー ドーカ コーカー キョーマデアナー ワリ
俺も どうにか こうにか きょうまでにはなあ、 悪い
ーツチュ トコガ ナクテー ソコソコ マー ウチノ⁽⁴⁾ シゴトー
という ところが なくて、 何とか うちの 仕事に
ニ オテツダイグライナ トコー ヤットルケードナウン
お手伝いぐらいな ところを やっているけれどね。

B アー ヨク シゴタ デキルヨーデ ケッコーダー ソリヤー ソ
良く 仕事が できるようで 結構だ。 それは そ
ートー アニーワ ドコイ ツトメトルエ
うと、 (跡取り)息子は どこに 働かめているかね。

A オラホノ⁽⁵⁾ ムスコワナー コノゴロ アー イーダノ ホーノ デンキ
俺のうちの 息子はなあ、この頃 飯田の 方の 電気
ガイシャエ ツカッテ ムラウヨーニ ナッテナー
会社に 使って もらうように なってなあ。

B ハーハー イーダッチューート
飯田というと。

A マー チ キョネンカラ オセワン ナッテ イットルケード^x マー
去年から お世話に なって 行っているけれど。

イマントカー マー イーндаカ ワリーндаカー ナндаカ ワ
今のところは 良いんだか 悪いんだか 何だか 判
カラシトニカク ジゾーシャニ マエンチ ノッテク アブラデ
らない。とにかく 自動車に 毎日 乗って行く 油代
一オ カセグンダндаカ ナンナンダカ ワカランヨーナ モンダ
を 稼ぐのか 何なのか 判らないような ものだ
ケード^x マー ソレデモ ナンデモ オベントー モッチャー マ
けれど。 それでも 何でも お弁当を 持っては 毎
イニチ イットル トコデナウン
日 行っている ところでね。

B ヤー ジドーシャノー ヒヨーガ カカルナー ゴドーヨーデ^x オ
自動車の 費用が 掛かるのは 御同様で、俺
ラマーリデモ コマガネー カヨットルケード^x ナカナカ ヒヨ
の家近所でも 馬ヶ根に 通っているけれど、 なかなか 費用
一ガ^x イルヨーダ^x ソレデモ チューブデンリョクイ ツトメリヤ
が 要るようだ。 それでも 中部電力に 勤めれば、
一 シッカリ シタ カイシャダデー イーゾエ マー イマ⁽⁶⁾ ハ
しっかり (た 会社だから いいですね。 今 入

イッタバツカダデ アレダケードモ (A マー) ダンダン ヨ
ったばかりだから あれだけれども, だんだん 良

ク ナルデ
く なるから。

A ソノウチニャー イーカト モツテ オルトコダケードナーン
そのうちには いいかと思っ ているところだけれどね。

ソリャー (B アー) ソート アノ キョーワ ドチラエ オデ
それは そうと, きょうは どちらへ お出

カケデ オア Rilノ
掛けて いらっしゃるんですか。

B キョーワー シンセキデー ナクナッタ オジッコノ ジューサン
きょうは 親戚で 亡くなった 叔父さんの 13回忌を

カイキオ スルツテノー (A ハーハー) ホージニ ヨバレテ
するってね。 法事に 招かれて

オレ イマ デカケテ⁽⁷⁾ キタ トコダー
俺 今 出掛けて 来た ところだ。

A ソーカナ ヘー ソンネニ ジューサンネンニモー ナルノカナー
そうですか。もう そんなに 13年にも なるのかなあ。

ハヤイモンダナーン
早いものだね。

B ツキヒノ タツノア ハヤイ モンデノー
月日の 経つのは 早い ものでね。

A ハー ホリャ マー オダイジニ イッテ オイデナンショ
それは お気をつけて 行って いらっしゃい。

B アー ソレジャー マー イッテ メーリマス (A エー)
それでは 行って 参ります。

注

- (1) ゴドーヨーニの前に言いよどみがある。
- (2) クレートルはクラシテオルのサ行イ音便形クライテオルの音韻変化形。
- (3) ネーケーと書いたが、ネーの母音もケーの母音もともに多少2重母音的である。
- (4) ウチノの前に言いよどみがある。
- (5) [ora hono]。同じ行のホーの子音も[h̃]。
- (6) [im]と聞える。
- (7) [dexakete]のように聞える。

6. 静岡市南字中村

話し手

(略号)	(氏名)	(性)	(生年)
A	佐藤 吉平	男	大正5年生まれ
C	山本 俊男	男	明治44年生まれ

- A ヤマモトサン オハヨーゴザエマス。
山本さん おはようございます。
- C アー オハヨー。
ああ おはよう。
- A キョーワ アノー ドチラエ オデカケニ ナルンデスカネ。
今日は どちらへ お出かけに なるんですかね。
- C ヤー シヤクショエサ ア チョックリ アノー ドーロノ コン
やあ 市役所へさ。 ちょっと 道路のこと
デサ ムラノ シューガ ヤイヤイ ユツテクルモンダデ シヨン
でさ。 村の 人たちが やいやい 言ってくるので 仕方が
ネー イソガシーケーガ キョーワ イクデーレ。
ないから 忙しいけれど 今日は 行くんだよ。
- A ソリャー タイヘンデスネー。 ウン ソリャーソート オタク
それは 大変ですねえ。 うん、 それはそうと お宅
サンノ ムスコサン コノゴラー ドーデスネ。
さんの 息子さんは このごろは どうですか。
- C イヤ サー イツモ アイカワラズサ アンマリ センセーニ
いや さあ いつも 相変わらず" あまり 先生に
ミコー ヨク ナエーモンダデ マタ センセーニ アノー
覚えが よく ないもので また(その)先生に (私が)
シカラレーサ キョーモ チョックリ アノー キャーリニ
お説教をしてもらいに 日も ちょっと 帰りに
ヨツテクルツモリダケーガサ。
寄ってくるつもりだけどさ。
- A オタクサンノ ムスコサン ナカナカ シズカダシ エー ムスコ
お宅さんの 息子さんは なかなか おとなしいし 良い 息子

サンダシ ソナニ センセーニ アーダコーダ イワレルコター
さんだし、 そんなに 先生に ああだこうだと小言を言われることは

ネージャ ネーデスカ、ナニモ
ないんじゃないですか。何も

C ナーニサ ヤッパリナ アノー ナキャー ヒャーッテミルト
何さ やっぱりな 中に(その環境へ) 入ってみると

ナカナカ ンー ソーバッカニャー イカナエーモンダデ ンー
なかなか ぞうばかりには いかないもので うん

オヤモ クローシルダヨ。 ヤッパリ センセーニャーナ ヤッパイ
親も 苦労するんだよ。 やっぱり 先生にはな、 やっぱり

ヒトオシ オサレテルダヨ。

(威厳で)おさえつけられているんだよ。

A ワシラノ ムスコモ コマルケーガ オタクサンノ ムスコワ
私の 息子も (世話がやけ?)困るが お宅さんの 息子は

ソナ コター ネーデショー。

そんな ことは ないでしょう。

C ナーニナニ ヤッパリサ ヒトン ミテルヨーナ グアエーニャー
なに やっぱりさ(外から)人が見ているような ぐあいには

コドマー イカナエーモンダデサ ヤッパリサ アー キャーッテ
子供は(うまく)いかないものだからさ、 やっぱりさ 帰って

キチャー ヨク コゴトー センセーニサ デンワデ クルモンダデ
きた時に よく 小言を 先生から 電話で言われるものだから

ウチモ カーサント フターリダカ ツラエーメオ シチャー
家でも 妻と 二人だが 辛い思いを しては

イルダヨ。

いるんだよ。

- A ヤッパ コドモワ ミンナ ドコノ コドモモ ナキヤー ヒャーッ
 やはり 子供は 皆 どこの 子供も それぞれの環境へ 入ッ
 テミリヤー ナカナカ タェーヘンナ モンダェーナー。
 てみれば なかなか 大変な ものですなあ。
- C フントニア マー ツラェーヨ。 ソエダモンダンデ センセーニ
 本当には まあ 辛いよ。 それだものだから 先生に
 モサ ナニカ アゲチャー コッチン マー タノンジャー クル
 もさ、何か とどけ物をしては こちらで まあ(息子のことを)頼んでは くる
 ワケサ。
 わけさ。
- A サー ドーモ……。 ゴメンナサエ マズ" ダェージニ イッテラッ
 さあ どうも……。 ごめんなさい。 まず" 大事に 行っていら
 シャイ。
 しゃい。
- C エー。
 ええ。

7. 愛知県北設楽郡富山村中の甲

話し手

(略号)	(氏 名)	(性)	(生 年)
S	鈴木 清光	男	明治27年生まれ
H	鈴木 英雄	男	明治34年生まれ

S 「イヤ ケッコーナ オテンキデ ゴザイマス ドーモ。
いや けっこうな お天気で ございます どうも。

H 「アー ドーモ エー ヒデ ゴザイマス。
ああ どうも 良い 日で ございます。

S 「ドーモ ハナシ キキャー ムスコサンガ カラダガ ヨワカッタ
どうも 話を きけば 息子さんが 体が 弱かった
フーダガ イマワ ドンナ グアイデスー。
ふうですが 今は どんな 具合です?

H 「アー アリガトーゴザイマス アノ イマー ケッコー マメン
ああ ありがとうございます あの 今は けっこう 健康に
ナッタガネー。
なったがね。

S 「アー ソリャー (H エー) オメデトーゴザイマス (H アリガトー
ああ それは (ええ) おめでとうございます (ありがとう
ゴザイマシテ アッ) 「ケッコーデ ゴザイマス ドーモ アッ。
ございまして) けっこうで ございます どうも。

H アノー アンタノ アノ ムスコサンワ ドンナ グアイダネ。
あのう あなたの あの 息子さんは どんな 具合だね。

S 「エー オカゲサマニエ (H ハー) ア イマー マメデ
ええ おかげさまでね (はあ) 今は 健康で
ハタライトルガナー。
働いとるがな。

H 「アー ソーカネ。
ああ そうかね。

S エー。
ええ。

- H ソ^リャ ソ^リャー アー ケ^ッコーデ ゴ^ザイマス。
 それは それは け^ッこうで ござ^います。
- S ソイジャー シ^ツレーシマス ドーモ。(H 「アー ドーモ」)
 それでは 失礼します どうも。(ああ どうも)
- ゴ^メンナンショ ドーモ (H ハイ) アッ。
 ごめん下さい どうも (はい)
- H ゴ^メンナンショ。
 ごめん下さい。

注

- (1) あいさつして頭をあげる時出す声で、この地方の習慣である。

8. 福井県武生市下中津原町

話し手

(略号)	(氏名)	(性)	(生年)
T	谷口松樹	男	明治32年生まれ
S	下出寅義	男	明治36年生まれ

S アー コンニチワ。

ああ こんにちは。

T イヤッ モホニチ⁽¹⁾ アハッ。

いや ああ

S アー オタッシャケノ。

ああ お達者かね。

T アハッ モーオ カラダダケァ⁽²⁾ カタインニャケドカ⁽³⁾ (^S アー)
ああ もう 体だけは 丈夫なんだけれども (ああ)

モー (^S アーア) イマテァ トシガ イッタラァ⁽⁴⁾ モー ミ
もう (ああ) 今では 年が いったら もう 道

チ アルクンデモ サモー ワカイ ヒトンテニ モー ナンデノ
(8) 歩くのでも そんなもの 若い 人みたいに もう なにでな

ーテ⁽⁵⁾ ボチボチトオ (笑) イマ エー……。

くて ぼつぼつと 今 えー……。

S アー ケッコ⁽⁶⁾……。 ドコ イキナルンニェノ⁽⁷⁾。

ああ 結構(だ)。 どこ(へ) いらっしやるんだね。

T オー キョ アノー タケフニイ⁽⁸⁾ アノー カ^{xxx} アノー コドモァ⁽⁹⁾
うん 今日 あの 武生に あの かの 子供が

アノー チューモンガ ツ^{xxx} キョー タクサンデ トテモ ウチ
あの 注文が 今日 たくさんで とても 家

デ テガ マエンチーデエ⁽¹⁰⁾ (^S エー) オジジニ テッタイニ⁽¹¹⁾ キテクレ
で 手が まわらないと言うから、 (ええ) おじいちゃんに 手伝いに 来てくれ

ンカッチュー キョー アサ デンワ カカッタンヤネ。 (^S アーア)
ないかという 今日 朝 電話(が) かけたんだよ。 (ああ)

ホイデ イマ アー ナンジャ アノー ベントーノ アノ コ
それで 今 ああ なんだ あの 弁当の あの 米

メ カシキニ⁽¹²⁾ (S アー) ホー。 アノ ナンジャ コ^{xxx} (笑)
(を) ときに (ああ) うん。 あの なんだ

ホメカシキグリヤ⁽¹³⁾ ホノ ワカイ トキカラ サカヤ⁽¹⁴⁾ イッテノー
米ときぐらいは その 若い 時から 造り酒屋 行ってねえ

(笑) (S オー (笑)) ヤッテルモンヤサク ナレテルサク。
(うん) やっているもんだから 慣れているから。

ホイデ オジジノカタ ワカイモントァ マダ[”] ホノー エーモ
それで おじいちゃんの方が 若い者とは まだ その 上手に

⁽¹⁵⁾
ンネ カシーテ クレルサク エイッチュサク オー。 (S アー
といて くれるから いいと言うので うん。 (ああ

ソラ) ホンデ キョーモ マタ イアノー ナンジャ アノー
それは) それで 今日も また あの なんだ あの

コイッチュ キテクレッチュサク オーイッチューテ⁽¹⁶⁾ (笑)
来いと言う 来てくれと言うから 「おーい」と言って

イマ (笑) ジュージノ アノ バステ⁽¹⁷⁾ (S アー) アノ イ
今 10時の あの バステ (ああ) あの 今

マ イクンデスゲネ。
行くんですよね。

S ホラ ゴクローヤノー。(T オー) (笑)
それは ご苦労だねえ。(うん)

T (笑) アノ オタクノ アノー オニーサン アノー ウ ナンシャ
あの お宅の あの ご長男 あの なんだ

ドコエ エ イマ オ^{xxx} オシゴトヤネ。
どこへ 今 お仕事だね。

S ⁽¹⁸⁾
アリヤ アレモノ (T ホー) オカゲサンテ[”] カラダ[”] タ^{xxx} タッシャ
あれは あれもね (ほう) おかけさまで 体(は) 達者

デ (^Tホー) ホデ マー ム ムラタエ ⁽¹⁹⁾ ツトメテルンニヤ。
 て (うん) それで まあ 村田へ 勤めているんだ。

T アラー (^Sアー.....) ホーデスカ。 (^Sアー) アノ。コ
 あらー (あー.....) そうですか。 (ええ) あの こう
 ナンジャ アノー マエー イッテイナシタノニ ⁽²⁰⁾ アノー ナンカ
 なんだ あの 前(に) 行っていらしたのに あの なにか
 ゴツゴードー カワンナシタンニヤ。
 ご都合で お変わりになったんだ。

S アー ンニヤ ~~XXXXXXXXXX~~ モー ン ナニシテ ヤッパ オンサンノ ⁽²¹⁾ ウチャ
 うん もう ん なにして やはり おじさんの 家は
 ナニカ カニ ~~XXXXXXXXXX~~ カニカニツケノー (^Tフン) ヤッパーリ キ
 何かにつけてねえ (うん) やはり 気
 ママー デルデ オタガイニ。
 まま(が) であるから お互いに。

T アッ アー ソーカ。
 ああ ああ そうか。

S ホデ モーオ (笑) (^Tフン フン フン フン) ナンシテ
 それで もう (ふん ふん ふん ふん) なにして
 カワツタンニエーノ。
 変わったんだよ。

T アー (^Sエー) ホーデスカ。ホラ マー ナンジャ コ ナカナカ
 ああ (ええ) そうですか。それは まあ なんだ こう なかなか
 ソノー キョービワ モー ソノ アノー ケーキガ チョイット ソ
 その 近ごろは もう その あの 景気が ちょっと そ
 ノー ナンシテルモンジャサケー ⁽²²⁾ モー ハイリトテモ ハイレン。
 の なにしてるもんだから もう はいりたくても はいれない。

アラ エートコエ (^S $\frac{\text{エー}}{\text{ええ}} \frac{\text{エー}}{\text{ええ}}$) マー。 マー オタクノ⁽²³⁾
 あら いい所へ まあ まあ お宅のは
 ア マー マー マエカラ モー ソノー ツトメルノニワ ハタ
 xxxxxx xxxxxx
 前から もう その 勤めるのには 働き
 ラキブリガ マジメナサケ。 アーレフ。 ホーデスカ。
 ぶりか まじめだから。 それは。 そうですか。

S アー ア イヤ ホンナコトモ ネーケド (^T $\frac{\text{ハイ}}{\text{はい}}$) オカゲ
 ああ あ いや そんなことも ないけれど (はい) おかけ
 サンデ マ ハイラレテ⁽²⁴⁾ ヨカッタト オモテルンニヤ。
 さまで まあ はいれて よかったと 思っているんだ。

T ホリヤ ヨゴジェンシタ。 (^S 笑) ヘー。 ホーデスカ。 ホ
 ゃれは ようございました。 へえ。 そうですか。 そ
 ンジャ マー ゴメンナサイ。⁽²⁵⁾
 れでは まあ ごめんください。

S アー ア ゴメンナサイ。 マー。(笑)
 ああ あ ごめんください。 まあ。

T ハイッ。
 はい。

注

- (1) 何かを言いかけてやめたものと思われるが意味不明。
- (2) [kaɸadadakεə]
- (3) 体が丈夫で元気のいいことを体がカタイという。
- (4) [ittaɸa'a] ゆすりイントネーション。「年をとる」ことをトシ
 ガイクという場合が多い。

- (5) 速く歩けなくてとでもいう意味か。
- (6) 谷口氏が元気だと言ったのに対して、それは結構だと言っている。
- (7) 尊敬の助動詞ナル。
- (8) 武生(旧)市内をさす。
- (9) 谷口氏の息子さんの一人が武生市内で寿司屋をやっていてその人をさす。
- (10) 忙しくて自分だけでは手が回らないからの意。マエンチーデ(エ)は本来ならばマエンチューデ(エ)となるところか。
- (11) 当地における祖父の一般的呼称。ここでは谷口氏が自分自身をさしてオジジと言っている。なお、当地方言では家格のちがいなどによる親族呼称の使い分けはほとんどみられず、一般に次のような呼称が用いられる。
- オジジ(祖父), オババ(祖母), トーチャン(父), カーチャン(母), アンチャン(兄), ネーチャン(姉)
- (12) 米をとぐことを米をカシク(カシグとも)という。
- (13) [homekaʃi:kinɯfja] 米[kome]の語頭子音[k]の開鎖がゆるんで声門摩擦音[h]に変化している。
- (14) 谷口氏は若い頃から冬の積雪期間中、杜氏といわれる酒造り職人として京都方面の造り酒屋に行っていた。
- (15) [e:monneɕ]
- (16) 手伝いに来てくれという息子さんからの電話に「おーい」と言って引き受けたということ。
- (17) 下中津原町から1キロほど離れた湯谷町に武生市内と結ぶ定期バスの停留所があり、一日四往復運行されている。10時のバスとは湯谷町を午前10時頃出て武生市内に向かうバスをいう。
- (18) 下出氏の長男をさす。
- (19) 村田とは武生市内数ヶ所に工場を持つ村田製作所のこと。下中津原町でも下出氏の息子さんをはじめ何人もの人が勤めている。
- (20) 以前にほかの所に(勤めに)行っていらしたののにの意。イッテイナシタのナシタは尊敬の助動詞ナサルの連用形ナシに過去の助動詞タが接続

したもの。

- (21) いわゆる伯父(叔父)に対する呼称。伯母(叔母)はオバサン。なお当地方言では、中年の男性に対する呼称、中年の女性に対する呼称もそれぞれオンサン、オバサンとなり、伯父(叔父)、伯母(叔母)に対する呼称との区別はない。
- (22) 景気がちょっと悪くなっているからの意。
- (23) 下出氏の長男のこと。
- (24) ハイラレテは動詞ハイルの未然形に可能の助動詞レルの連用形と接続助詞テがついた形。当地方言では可能表現の場合、五段動詞では読メル、書ケルなどの可能動詞形よりも、この例のように動詞の未然形に可能の助動詞レルのついた読マレル、書カレルなどが圧倒的に多い。ただし若年層では読メル、書ケルなどの可能動詞形も次第に使われ始めている。一方、一段動詞の可能表現の場合も、老年層では見ラレル、寝ラレルのように動詞の未然形に可能の助動詞ラレルのついた形が用いられ、若年層で使われ始めている見レル、寝レルなどの言い方はほとんどされない。
- (25) 別れる時の挨拶。

9. 奈良県吉野郡十津川村那知合・谷垣内

話し手

(略号)	(氏名)	(性)	(生年)
A	後木 弘	男	大正11年生まれ
B	東 正弘	男	明治42年生まれ

A アッ アタラシ^シニ^シ コ^ニチ^ワ. (B アッ コ^ニチ^ワ.)
新^シの^衆 今日^ハ 今日^ハ.

ダンダン オ^ーキ^ニヨ.
い^つも あり^がと^う.

B エ^ー ド^ーモ ド^ーモ.
え^え どう^も どう^も.

A キ^ョー^ワ マ^ー ア^ノ ド^コエ イ^キャ^ー.
今日^ハ まあ どこ^へ 行^くか[。]

B サ^ーノ^ーラ. ヨ^ージ^チュ^テモ ナ^イケ^ンド チ^ョツ^ト ト^ショ^リ
さ^あね. 用^事と^言つ^ても 無^いけ^れど ち^よつ^と 年^寄り
ラ^ノ ヨ^ーキ^キデ イ^テ コ^ーカ^イ.
等^の 用^聞き^で 行^つて こよ^うか[。]

A ア^ー ソ^ーカ. ソ^リャ ゴ^クロ^ーサ^ンジ^ャノ^ーラ. ン^ー.
あ^あ そ^うか. そ^れは 御^苦勞^さん^だね[。]

B ハ^イ. エ^ート ダイ^ブナイ デ^オワ^ナン^ダノ^ー. ウ^シロ^ギク^ンモ.
ほ^い. え^えと 大^分 出^逢わ^なか^つた^ね. 後^木君^も.
ン^ー.

A アッ ハ^ー. ホ^ンマ^ニ ダイ^ブナイ デ^オワ^ナン^ダノ^ーラ. ン^ー.
ほ^あ. 本^当に 大^分 出^逢わ^なか^つた^ね.

B ム^スコ^ワ コ^ーコ^ー ア^ガッ^テカ^ラ オ^ーサ^カノ デ^ケー^サツ^ノ
息^子は 高^校(に) 上^がつ^てか^ら 大^阪の で 警^察の
ホ^ーオ イ^ットル^チュ^ーガ ゲ^ンキ^ナカ.
方^を 行^つて^いる^と言^うが 元^気か[。]

A ハ. マ オ^ーキ^ニ ド^ーモ ス^ンマ^セン. (B ア^ー) ア^ノ
は. ま あり^がと^う. どう^も 済^みま^せん. (あ^あ) あ^の

マー オカゲデサエ ドーニカ コーニカ ヤッチャ オルンジャ
 まあ おかげでね どうにか こうにか やってほ いるのだ
 ケンド ナニセ アツイスカダヨ (B エー) モー ホテ カラ
 けれども なにせ 暑いからね (ええ) もう そして 体
 タモ ナーシシャナー (B アー ソーカ) ナツバテト タイリョク
 も 無いしさね (ああ そうか) 夏ばてと 体力(が)
 (B エー) タラントデ ホデニ ドエライ カシコーモ ナーシ
 (ええ) 足りないのだからで 大して 賢くも 無いし
 シャ (B ハー) エー エライラシーンジャケンドノー マー
 さ (はあ) ええ 大変らしいのだけれどね まあ
 オカゲデ マー ドーニカ コーニカ ミンナノ シリー ツイテ
 おかげで まあ どうにか こうにか 皆の 尻(に) 付いて
 ホーテ (B ソーカ) イキヨルチュヨーナ コトナンジャワヨー.
 そして (そうか) 行っていると言うような 事なのだよ。
 (笑)

B マーノー ヒトモ フェテ キタシ ハンザイモ フェルシ ナカ
 まあね 人も 増えて 来たし 犯罪も 増えるし なか
 ナカノー コレカラノ ケーサツカンニ ナツテモ エライヤロー
 なかね これからね 警察官に なっても 大変だろう
 ケンドノー (A ンー) マー シツカリ シリュ タタイテノー
 けれどね まあ しっかり 尻を 叩いてね
 (A ンー) マー ジンゴニ オチンヨーニ (A アー) アノ
 まあ 人後に 落ちないように (ああ) あの
 オタガイニノー キオ ツケオーテ ワタローライ。
 お互いにね 気を 付けあって 渡ろうよ。

- A アー オーキニ オーキニ。 マー ドーニカ コーニカノーフ
 ああ ありがとう。 ありがとう。 まあ どうにか こうにかね
- マー ツトメテ クレリャー イーガトモーニングャ。 マー ライ
 まあ 勤めて くれれば 良いかと思うのだ。 まあ 来
- ネン サンガツニ ソツギョーナンジャケンド マー シリカラデ
 年 三月に 卒業 なのだけれど まあ 尻からでも
- モ イー ドーニカ ソツギョー (B アー) デキタラトモ一テ
 良い。 どうにか 卒業 (ああ) できたらと思って
- オモーチャ オルンジャガ (B アー) オヤワ。 (笑)
 思っでは いるのだが (ああ) 親は。
- B ボンニワ カエル カエルヨ一ナ ナニ アルンカイ。
 盆には ~~xxxxxx~~ 帰るような 何(が)あるのかい。
- A ウン。 (B イマ) マー ボンニ ト一カニ カエツテ キテカ
 うん。 (今) まあ 盆に 十日に 帰って 来て
- ラ ニジュ一ニニチチュ一タトモーニングャケンド ト一カアマリ
 ニナニ日と言ったと思うのだけれど 十日余り
- ヤスミ アルトモーニングャ。 マ ソレン イチバン イキヌキ
 休み(が)あると思うのだ。 ま それが 一番 息抜き
- ナンジャロ一トモーニングャ。 (B ン一) マー オヤノ アサマシサ
 なのだろうと思うのだ。 まあ 親の 浅ましき
- デ カエツテ クルノ マ イチバン タノシミニ シテルヨ一ナ
 で 帰って 来るの(を)ま 一番 楽しみに しているような
- ワケ (笑いながら) ナンジャヨ。 (笑)
 訳 なのだよ
- B オヤモジャ オヤモジャ ローケンド ジーサンガノ一 (A ン一)
~~xxxxxxxxxx~~ 親もだろうけれど 爺さんがね

メー イレテモ イトー ナーホド カワーガッタ マゴオ
目(に) 入れても 痛く ないほど 可愛がった 孫を
シュッセシテ クレリャ イーガト オモ一テ ネテモ オキテモ
出世して くれれば 良いがと 思って 寝ても 起きても
アノ イノル コッチャロノー. マー カエッテ コイ ユータ
あの 祈る 事だろうね. まあ 帰って 来い(と) 言っ
ッテ クレヨ.
やって くれよ.

A アー マーサイ ホンマニノーラ マゴチューノワ コヨリ カワ
ああ まあね 本当にね 孫と言うのは 子より 可
イーチューグライスカサイ ジーモ ソリャ ホンマニ イチバン
愛いと言う位(だ)からね 爺も それは 本当に 一番
ナニ シンパイシテ クレトルンジャロートモ一ンジャケンド
何 心配して してくれているのだろうと思うのだがけれど
ニー. キタイニ ソ一テ クレリャー イーガトワ オモ一トル
期待に 添って くれれば 良いがとは 思っている
ンジャ. ジャー.
のだ. では.

10. 鳥取県八頭郡郡家町

話し手

(略号)	(氏名)	(性)	(生年)
A	土井 頼重	男	明治30年生まれ
B	衣笠 光寿	男	明治38年生まれ

A ナント キヌガサクンダエーナーカ。
なんと 衣笠くんではないか。

B アー コレア ダレカト オモエヤ コーチョーセンシェーデスカ。
ああ これは 誰かト 思えば 校長先生ですか。

A アー シバラクダッタナー。
ああ しばらくだったなあ。

B サー シバラクデスカ (A キヌガ----) ドーデス ドコニ
そう しばらくですぬ どうです どこに
イキオラレルデスーナ。
行かれるところですか。

A ワシャー マー アノ ガッコーカラ カエリヨル トコロデナー。
私は まあ 学校から 帰る(帰りつつある)ところでなあ。

B ソーデスカ。
そうですか。

A マー チョットー シモキニ⁽¹⁾ チョットシタ コトガ アルモンダケー
 まあ ちょっと しもきに ちょっとした 用事が あるものだから
 チョット ソーダンオ ウケトッテ マー イマ チョット ハヤエー
 ちょっと 相談を 受けて まあ 今 ちょっと(帰る時間には)早い
 ケド カエリヨル トコロダケドナ。
 けれど 帰る ところだけれどね。

B ソーカナー。ンダー ハナシュー キク トコロガ センシエー
 そうですね。それで 話を(話)に) 聞く ところ(です)が 先生は
 チョット カラダオ イタメテオラレルソーデスガ ドーデスナー。
 ちょっと 身体を 痛めておられるようですが どうですか。

A ンマ ワシャー マー アンマリー ンー ケンコーナ カラダデ
 まあ 私は まあ あまり 健康な 身体で
 ノーテナー マー コロゴロー マ オイシャニモ ミテムラッテ
 なくてね まあ 最近 まあ 医者にも 診てもらって
 マー ツカエワ ナエーッチューコトデ マー ガッコーニワ
 まあ 差し支えは ないということだ まあ 学校には
 イキョールケド マー ヤッパリ トシダナー ドーモ ワカエー
 行っているけれど まあ やっぱり 歳だねえ どうも 若い
 トキテァ ナケァ イケンワ。
 時でなければ だめだよ。

B ンマ ナンニ シテモ キョーイクカイノ オサデスケー マー...
 まあ 何に しても 教育界の 長老ですから まあ...

A イヤ マー ドーモ モー ハヤ ネンパイダケー ワシラモ
 いや まあ どうも もう はや 年配だから 私なども
 イケンケドナー。
 (身体が)だめだけれどねえ。

B マ ハヨー カラダオ ナオイテムラッテ モー マスマス オタッ
まあ 早く 身体を なおしてもらって もう ますます お達
シャッ ナッテ。
者になつて。

A マー ソリャ エーガ⁽²⁾ アンタゲーノ ムスメサンワ ナカナカ
まあ それは 良いが あなたの家の 娘さんは なかなか
デキガ⁽³⁾ エーツチューコトダガ アー ドーダエ アノ ダイガク
成績が 良いということだが ああ どうかね あの 大学
ニューシノホーフ ア エー グアイニ イキタカー⁽⁴⁾。
入試の方は 良い 具合に いったか。

B エー マー マンガ⁽⁵⁾ ヨーニ (A アー ソリャー ケッコー。
ええ まあ 運が 良くて (ああ それは 結構。))
ハイリマシテヨー。
入りましたね。

A ソリャー ケッコー。 マー ダイタエー アタマノ エー
それは 結構。 まあ だいたい(せもせも) 頭の 良い
リューダケナー⁽⁶⁾。
たち(性質)だからねえ。

B マー マグレ (A マー) アタリデショーケド マー シトアン
まあ まぐれ (まあ) あたりでしょうが まあ 一安
シント オモイヨルトコロデス。
心と 思っているところです。

A アー ジュージョー ジュージョー。 マー アレダッタラ マー
ああ 結構 結構。 まあ あれ(あの娘)だったら まあ
セイコー ウタガイ ナシダ。
成功 疑い なしだ。

B イヤ ソーユー (A アー) コトモ ナイデスケドナー マー
いや そういう (ああ) ことも ないですけどねえ まあ
ハイリタイッテ イーヨッタ トコロニ ハイレタデスケー マー
入学したいと 言っていた ところに 入れたのですから まあ
ミンナガ ヨロコビオルデスケド。
皆が 喜んでますけれど。

A アー マー キオツケテ アゲナンセーヨ。
ああ まあ 気をつけて あげなさいよ。

B エー アリガトーゴザンス。マー シェンシェーモ マスマス
ええ ありがとうございます。まあ 先生も ますます
(A アー) ケンコーニ リューイシェラレマシテ。
(ああ) 健康に 留意 なさいました。

A オーキニ。
ありがとう。

B ガンバツテツカンシェーヤ。
がんばってくださいよ。

A ジャ サヨーナラ。
じゃ さよなら。

B エッ⁽⁸⁾ サイナラ。
さよなら

注

- (1) 地名。シモキサイナ(下私郡)の略。
- (2) 「マ、ソリヤ、エーガ」 まあ、それはそれとして。
- (3) [ㄨ]
- (4) この方言では「行く」の連用形は「イキタ」「イキテ」となり、音便形を用いない。
- (5) 『まん 運。めぐりあわせ。「マンが悪い」新潟県中蒲原郡・和歌山・大阪・京都・中国・高知・大分・佐賀・長崎県千々石・南島喜界島。』(『全国方言辞典』)
- (6) 「リユー」 習慣、癖、性質、性癖。(「流儀」の「流」か)。
用例: アノ人ワ酒ガ好きナリユーダ。
朝ノ早イリユーダ。
- (7) 「ジュー ジョー」 「この上なく満足である」の意。「重畳」かという。
- (8) [?] のような音声。あいさつのときに文頭もしくは文末で良く使われる。『方言談話資料(9)』の57ページ、注(2)参照。

11. 島根県仁多郡横田町大字大馬木

話し手

(略号)	(氏名)	(性)	(生 年)
A	戸屋 英明	男	明治36年生まれ
B	勝部 定市	男	明治37年生まれ

B アラ オヤカタ オデカケデゴザエスネ。⁽¹⁾ ヤー イツィモ ドーモ
あら 親方 お出かけでございますね。やあ いつも とうも
ニョーバガ オシェワニナーマスイテ アリガトーゴザイマスイテ。
女房が お世話になりました 有難うございまして。

A ヤ カツイベサンカネ。コンツイワ。アー キョーワネ チョット
や 勝部さんかね。今日は。ああ 今日はね ちょっと
オー ヨソカラ ヤマノコトデ ソーダンスィタイツイーコトダテネ。
ああ よそから 山の事⁽²⁾で 相談したいということだからね。
ソコエ エカカトモ⁽²⁾テ デカケタトコーダガネ オマエトコワ
そこへ 行こうかと思って 出かけた所だがね あんた(の)所は
ダレモ ゲンキシタカネ。
誰も 元気かね。

B ソリャー ヨー オデカケデゴザエス。ミンナ ゲンキデ ヤッチョー
それは よく お出かけでございます。みんな 元気で やって
マスイテネ。
ましてね。

A ウーン ウーン ハー ソリャー ナニヨリ ソーダガ アン
うん うん はあ それは 何より。 そうだが あん
オマハントコニャー⁽³⁾ ワケーシーガ オッタハスィダガ ツィカ
あんた(の)所には 若い人が 居ったはずだが 近
ゴロ ドゲスィチョーカネー。
頃 どうしているかね。

B ワケーモンガ オートコーデ ナニカ ショクオ モタシェニャ
若い者が 居るところで(して)何か 職を 持たせなければ
エケントモ⁽³⁾テ アレコレ カンガエチョーマスィガ シェッカク
いけないと思って あれこれ 考えていますが せっかく

オヤカタントコエモ ソーダン キタラトモーテ⁽⁴⁾ オモーチャンコト
 親方の所へも 相談(に)行ったらと思っア 思っていること
 デスイガ ナカナカ エー スーショクグツィガ アーマシエデ⁽⁵⁾ネ
 ですが なかなか よい 就職口が ありませんでね
 コマツチョーマスイガ マー フトツィ イートコガ アッタラ
 こまっていますか まあ ひとつ よい所が あったら
 マタ シェワ ナランエンデシヨーカー⁽⁶⁾
 また (お)世話(に) なれないでしょうか。

A フン フーン イヤ オマンモ スッチョラッジャルトーリネー ナニ
 ぶん ぶん いや あんたも 知っアあられる通りねえ 何
 ブン イナカノコトデ ツイトメグツィト イヤー マー ヤクバカ
 分 田舎の事で 勤め口と 言えば まあ 役場か
 ノーキョーカ スインリンクミヤイグライナコトダエ。 ソコニヤー
 農協か 森林組合ぐらいの事だ。 そこには
 ソレゾレ イマンゴロ ツイトメチョーモンダケン ソノモンガ
 それぞれ 今頃 勤めているものだから その者が
 ヤメドモ シェニヤー ナカナカ エー クツィワ ナイダガ
 やめども しなければ なかなか よい 口は 無いのだが。
 イヤ ソゲ イワツジャリヤー マタ カンガエチョカ。 マ アー
 いや そう 言われるなら また 考えておこうか。 ま ああ
 ドッカ エーコトガ アリヤー サガエテアゲー。
 どこか よい事が あれば 探してあげる。

B ハイ マー オヤカタ ココロニ カケチョッテ ニヤータトコー
 はい まあ 親方 心に かけていて 似合った所
 ガ アリヤー マタ シェワン スィテヤッテ クダサイマスイヤーネ
 が あれば また 世話を してやっア 下さいますように

オネガイイタスマスイケン。ツィット ヨッテ ヤスインデ クダサイ
お願い致しますから。 ちょっと 寄って 休んで 下さい
マシエヤ。
ませよ。

A オッ シェッカクダガ キョーワ エマ サッキ イータトコニモ
おっ せっかくだが 今日は 今 さっき 言った所にも
イカニャーイケンスイ イソイジョーケン。マ カナイスィーニ
行かなければいけないし 急いでいるから。ま 家の人に
ヨロスィー イーテガッシャエ。 ドーモ (^B ~~~~~) ダンダン
よろしく 言って下さい。 どうも 有
アリガトー。
難う。

B ドーモ ドーモ。
どうも どうも。

注

- (1) 「ゴザイマス→ゴザエス→ゴダエス」など出雲で広く言う。
- (2) 「モッテ」という出雲地方一般と違って、広島県に近いこの地方ではウ音便が多い。
- (3) 「オマエサン→オマハン」は時折出雲地方一般で聞く。
- (4) あなたの家に行くもあなたの家に来ると一般に言う。ここではこの用法が用いられている。
- (5) 「アリマセンデ→アリマセデ」、「イカンデモヨイ→イカデモヨイ」は一般的によく言う。
- (6) 「ナランエンデ」は「ナラエンデ」の言い誤りと思われる。

12. 愛媛県越智郡伯方町木浦

話し手

(略号) (氏名) (性) (生年)

A 村上寿一 男 明治30年生まれ

B 山岡寅夫 男 明治42年生まれ

B エー ムラカミサン。 コンニチワー。
 社。 村上さん。 今日ほ!

A ヤー。 コンチャー。
 やあ、 今日ほ。

B エー ドチラエ オイデデス カー。
 社。 どちらへ おでかけです か?

A ンー。 チョット ヤクバカラ ー ⁽¹⁾ コイ ユーモンテ ⁽²⁾ (Bアー)
 ん。 ちょっと 役場から、…… 来い(と) 言ひのて。 ああ。

イキョーシタ ガー。 オー。
 行こうとしているのだよ。 おお。

B ソーデス カ。 (Aアー)
 何です か。 (ああ。)

A アンタガタナー エー ムスコガ オツタガ アヤー ドガン ⁽³⁾ シ
 あなた方には、 …… 息子が いたが、 あれば どう して
ー ⁽⁴⁾ ヨリヤ ー。
 いるのか?

B ヤー。ウチモ一 タイシテ一 ⁽⁵⁾エー コトモ ナイケンド ワカイ
 やあ。うち(の息子)も。たいして。…… ことも ないけれど。若い
 モンジャケン ヤッパ一 キョービノ コト ヨー。ジドーシヤ
 ものだから やはり。みんなちの ことよ。自動車へ
 エノッテ ハシリオライ。
 来て。走っているよ。

A アーソーカイ。(Bソ一)イヤイヤ一。モ一キョービノ コツチャケン
 ああ。そうかい。(うん) いやいや。わ。みんなちの ことだから
 ソーユー アタラシ一 コト ヤラニヤ ショーガ ナイワ。
 そうい。新しい こと(と) やらねば。しょうが。ないよ。
 ケツコージャー。
 結構だ。

B イーエ。ソヤケンド ナニ一 ナニ一 ⁽⁶⁾ムラカミサン。ナニ一 ヤ
 いえ。そうだけれど。何、何、村上さん。何、役
 クバエ オイデルンデス ^カ。
 場へ 行かれるのですか?

A ン一。ヤクバエ トシ トットル ウチニ ⁽⁷⁾モ一 サイサイ コイ
 ね。役場へ。年(と) とっている のに。もう 再び 来い。
 コイ エウンテ ヨワリオル ガ一。
 来い(と) 言うので。困っているよ。

B アーソーカナ。(Aオー)イヤ一ドーモ オセワン ナリマヌ一。
 ああ。そうかね。(おう) いやあ。どうも お世話に なります。
 (Aイヤ。イ……) マ一 ナニ ヨ一。ゲンキデ一……。
 いや。…… まあ。何よ。元気で……。

A ン。ソーイ ソーイ。モ一オマイ。ヒツチハイ ⁽⁸⁾ヤク タタン
 うん。そうよ。そうよ。わ。あなた 80才を越え。役に 主にな

ワイ。サッパリ。(B笑) モー トシ トッテ。
わ。 さらさら (B) ね、 年(と) とて。

B イーヤー。 アンタガー ゲンキデー (A笑) ミナ ナン ヨー。
いっえ。 あなたが 元気で、 みんな 何 よ。

ヤルケニ (Aシー。) ウチノ モンモ ラクナ ワイ。(Aシー。
やるから、 (ん。) うちの 者も 楽だ よ。(ん。

) ジャー ケンド^(?) マー ゴメンナサイ。
では、 しかし、 まあ、 ごめんない。

A アー。(Bドーモ。) マー ゴメンナサイ。
ああ。(どうも、) まあ、 ごめんない。

B エー オジャマ シマシター。
ええ。 お邪魔 しました。

A マー ミンナ ヨロシユー ユーテイテ クダサイ。
まあ、 みんな(!!) よろしく 言っておいて ください。

B へー。 サイナラ。
はい。 さようなら。

注

- (1) 言い淀み
- (2) ロジもり気味で、聞きとりにくい。「モンデ」と解される。
- (3) ドガン……「ドガイニ」のつづまったもの。
- (4) ショーリ+ー……「シオルヤ」のつづまったもの。
- (5) 息を吸う音
- (6) 話すべき次の内容を模索しているところである。
- (7) 聞きとり困難。文脈上は、逆接の「～のに」であるが、「ウチニ」と発音されているように聞かれる。
- (8) かたことめいた言い方が、早口になされる。前後関係から、標記のように、解される。
- (9) 「ジャー」と「ケンド」との間に、場面転換の大きな間がある。しかし、アクセントの山の高さは、同じである。

13. 高知県南国市岡豊町滝本

話し手

(略号) (氏名) (性) (生 年)

A 山崎 貢 男 大正10年生まれ

B 山崎春井 男 明治35年生まれ

A アラ、センセイデスカ。シバラクデシゴザイマシタ。
あ、先生、ですか。しばらくでございました。
シゴブサタオシテオリマシタガセンセイエライシゲン
御沙汰として居りましたが、先生はえらく元
キナ。マダワコーシゴザイマスネー。
気分、まだ若い、でございますねえ。

B イカン、イカン。ワシモネーナナジューナナサイニナツタン
いや、いや。わしもねえ、七十才になった
が、キミワエライワカインガチットモカワリンガナイヨ
が、君はえらく若い、が、すこしも変りが無いよ
ーナシガイクトニナツタカネー。
うだが、いくつにならねえ。

A ハヤオマサンセンセイロクジューイナニナリマシタワネ。
はや、あなた、先生、六十才になりましたよ。
ローシククラブノイナネンセイデス。
老人クラブの一年生です。

B イマノロクジツサイングライワネーワカイモンぢや。ハツラ
今の六十才、ぐらいいねえ、若いものだ。はつら
ツタルセイネンぢやヨ。
つたら、青年だよ。

A ワリーコトオシテヤンヂャボーズデセンセイニシゴメ
悪いこととしてやんぢや、ほうずで先生に御
イワクオカケテッタトキカラソレアレカラハヤシゴジ
迷惑とかけていたときから、それ、あ、それから、はや、五
エーネンハンセイキオスギマシタ。ツキヒノタツノワ
十年半世紀と過ぎました、月日のたつのは

ハイ モンデスネー。

早い ものですねえ。

B ソーシヤ ねー。 イー⁽¹⁾ ムスコサンワ ナニカネー ヤッパリー
そうだ ねえ。 いい 息子さんは なにかねえ やっぱり
ニチギンエ トットメテ オインデルカネ。⁽²⁾
日 銀へ つとめて おいでになつてゐるかね。

A ハイ コーチシテンニ オリマス。

はい 高知支店に 居ります。

B アタマノ エー セイトン 残 ッタキニ モー エー イスニ ス
頭 の 上い 生徒 だったから もう 上い いすに 坐
ワリヨルローネー。
つてらだらうねえ。

A ドーシテ ドーシテ。 ヤッパリ カエルノ コワ カエル
どうして どうして。 やっぱり かえりの 子は かえら
デスラー。 トコロノ デ センセイワ キョーワ ノドチラエ オ
ですと。 ところで 先生は 今日 は どちらへ お
インデマデス。
でかけです。

B ワシカネ。 キョーワ ニチヨーイナエ イテ コイオ ノゾイテ
わしかね。 今日 は 日曜市へ 行って 鯉を のぞいて
ミヨーカト オモテ マタ キニイッ タン ガノガ アツタラ
みようかと 思つて また 気に入つた のが あつたら
コーテ ミヨーカト オモテ ヤッテ キタ トコロノガキー。
買って みようかと 思つて やつて 来たところだ。

A ソルヤー 知ーンド ヨンゴザイマス。 ウチノ キンジョノ
それは どううごようごでいます。 うちの 近所の

ヤマサキタカシト ミツングト フターリンガ マイシュ一ニチ
 山崎高志と 美津丸と 二人が 毎週 日
 ヨーイチエ コイオ モテ イキユーンガ ゼヒ ソノ ヒトニ
 曜市へ 魚を 持って 行っているが ゼヒ その 人に
 セワシテ モライナサイ。 メツタナ ヒトニ タノミヨッタラ
 世話して ほしいなさい。 あんなに 人に 頼んでいたら
 ツカマサレルキニ コノ フターリラーニ タノーンダヨ キャー
 (変なものを)つかまされるから この 二人などに 頼んでおけば
 ンダインダ ヲブンデ ンゴザイマズジネ。 ゼヒ ソノ ヒト
 大丈夫 下 ございますよ。 ゼヒ その 人
 ニ セワシテ モライナサイヤ。
 に 世話して ほしいなさいよ。

B ソリャ エー コトオ キイタ。 ワシモ ソー ユー ヒトニ
 それほ 悪い ことを 聞いた。 わしは そう いう 人に
 タノンデ マー ミタテテ モローテ コーテ ミヨーカト オモ
 頼んで 自ら 見立てて 買って 買って みようかと思
 ーテ イキヨラー。
 って 行っているら。

A マー ホイタラ イテ オインデ ナサイマセ。
 まあ そしたら 行って おいで なさいませ。

B ヘー アンタモ マー ンゲンキン デネー。
 へえ あんなに 自ら 元氣 でねえ。

A ハイ センセイモ ンドージ オカラダオ タイセツニ。
 はい 先生も どうぞ おかくだと 大切に。

B アー。
 ああ。

A オクサンニモ ヌドージ ヨロシク ーニ モーシテ クンダサイマ
奥さんにも どうぞ よろしく 申して 下さいませ

せ。

せ。

B アリゲガト。 サヨーナラ。
ありがとう。 さようなら。

A サヨーナラ。
さようなら。

注記

(1) 感動詞

(2) オイゲテル (おいでになる。いら。しる) 西日本でかなり広く使用されているようである。これが方言でなくて、共通語と
思っている土佐人が少なくない。

14. 長崎県西彼杵郡琴海町尾戸郷

話し手

(略号) (氏名) (性) (生年)

A 平尾忠太郎 男 明治31年生まれ

B 溝口誠治 男 大正4年生まれ

B オジヤーン。

おじいさん。

A エー。

はい。

B ヨカ ヒヨリジャッタ ナー。

良い 日和だったねえ。

A ヨカ ヒヨリ ナイター。 (笑)

良い 日和になって。

B アッテ ギョーサーン キューワ アッテー ヨカ キモンドン
ほら たくさん 今日ほら 良い 着物など

キトットノ ドケ イク ト。 ドケ イコテ オモテ ⁽¹⁾ウツタッ
着ている様子だがどこに行くの。 どこに行こうと思って 構えて

トル カナー。

いるのかね。

A ナガウラサン フサーシュー ヤクバノ ノーキョーンテ イカン
長浦へ 長く 役場の 農協のと 行かな

ケンカー (B ンー) イロイロ シゴトノ タマツトルケン イ
いから (うん) いろいろ 仕事が たまっているから

タテ ミューテ オモテ サー。
行って みようと 思って ねえ。

B ハー。
はあ。

A ムスコワ ドギャン シトロ カー。
息子は どのように しているだろうか。

B ムスコテ ⁽²⁾ ハジメワ ドギャン ドギャン ⁽³⁾ シオットジャッタロー。
息子って(言いと)ーは *** ***** *** どのように しているのだったろうか。

(A笑) アノー ドギャンテー ユーガ ナンノー アルモ アッ
あおう どのようにと 言うけれど どうしてあれも ほら

テー アノー ナンバー ミシェドン シター ソシテ アルワ
あの 何を 店など したり そして あれは

アギヤントガ シートルケン サ。 アノー リョーンバ シート
あんなのが 女子いているからね。 あの 漁を 好いて

ルケン (A笑) ソイテー ボライオドンバ ⁽⁴⁾ ヨブリー イカン
いるから (A笑) そして 鰯などを 夜突きに 行かなけ

バテ イーオッタトノ マター ツキギヤ イタッジャロー。
ればと 言っていたのだが また (鮎で)突きに 行ったのだろう。

A アー ソー。 ソナラ (B ホナ ノー。) ソナラ イタチ
ああ そう。 それでは (それではねえ。) それでは 行って
クッター。

来るから。

B ハー ⁽⁵⁾ アノ イタテ キナハレー。
はい あの 行って 来なさい。

A ウン。
うん。

注記

- (1) 「ウツタツトル」は、「準備をしている」の意。
- (2) 「ハジメ」は、人名で、溝口 一氏。
- (3) 「シオットジャッタロー」とあるのは、息子が、話者と別居していることによる。
- (4) 「ヨブリ」は、夜、船で、銚子を使ってする漁。昔は、あかりには、松明を用いたが、今は、カーバイトのガスランプを用いる。銚子で突く対象魚種は、主に鯰、ほかに「ちぬ」「こち」「かれい」など。
- (5) 「アノ」は、間投詞。

場面(8)

うわさ話をする

1. 青森市大字牛館

話し手

(略号)	(氏名)	(性)	(生年)
A	桜田 鉄弥	男	明治36年生まれ
B	八木沢千代三郎	男	明治43年生まれ

B ネットアガー。⁽¹⁾ ネットアガー。 ミンナ ネットアベー。
眠ってるか。 眠ってるか。 みんな 眠ってるだろう。

A アーエ ナン (B タ) ナンガ アルガー。
ほーい 何か あるか。

B エ、タエヘンダジャー。(A ナ) オーミンス⁽²⁾ オーミンスー。
大変だぜ。 大水。 大水(だ)。

A ナンテァ。
何だって？

B エー。
はい。

A ヤッヤヤヤー ナンモ ネット スラネステ アッテァ、ホラー。
やあやあやあ 何も 眠って 知らなかったよ。 ほら。

B オメァダノ スタノ ナモ スタノ タモ ナンモ ハー スッカ
お前の家の 下の 田も 何も はあ すっかり

ド ツテ⁽³⁾ マッテァ。
水びたしになってしまったよ。

A アー ホンダ⁽⁴⁾ンダ. ヘバ^ナー. (B ウンー) オヤ コリヤ
ああ そうなんだ(ろう). じゃなあ. (うん) おう コリヤ
コマッタ モンダナ.
困った もんだな.

B ヤーヤ キョー ホラ ハゴダ⁽⁵⁾エサ エグ ツモリデ ミンナ
やあやあ 今日 ほら 函館へ 行く つもりで みんな
スタグステ マッテアズ. ホラ.
支度して しまった(のに) ほら.

A ウン ウンウンウン ウー ホンダ^ナー. (B ウンー) ケサ.
うん うんうんうん そうだ^ナなあ. (うん) 今朝.
ナンダ. ノーゼクミアエデ^ナ ホラ スコーキサ ノッテ ミー キ
何だ. 納税組合で ほら 飛行機に 乗って みようと
ナテラキャ (B ウン) コリヤ⁽⁶⁾ コマッテ マッタナ.
思っていたら (うん) 困って しまったな.

B ヤ マガリヤ⁽⁷⁾ノ スタノヨー. (A ウン) ウン サエドートスエ
やあ 曲り屋の 下のよ. (うん) うん 斎藤俊栄
ノ. オンチャマ⁽⁸⁾ノ (A ウン) エダ^キャ. ハー. ズーット ツデ
の.(つまり) 次男の (うん) 家は. はあ. ずうっと 水びたして
ウエサ ノボテ マッテア. ハー.
(水が)上にのぼって しまったよ. はあ.

A ナー^ンテ. (B ウン) ヤー ヘバ ワーモ マガ^ナッテ.
なんだって? (うん) やあ じゃ 吾も 身支度して.
エッテ ミネバ マネ^{ジャ}ー.
行って みないと ためだよ.

B ウン^ウー (A ウン) サー コンダ^キンコーバスモ⁽⁹⁾ ナガエデ
うんうん (うん) さあ こんど 金高橋も 流れて

キタズセア⁽¹⁰⁾.

きたと言うしよ。

A ウー ホンダネナー、オソロス ミンズダド。
うん そうだよなあ。 恐ろしい(洪)水でないか。

B エヤ アズモ エガエグ ナッテ マッタス、ハー。
いや あっちも 行かれなく なって しまったし、 はあ。

A エヤ ドンダステ コロホント ミンズ キタズ オラ⁽¹¹⁾ マンダ
やあ どうだい これほど 水(か) きた(のは) まだ
ミンダ ゴト ネーナ。
見た こと(か) ないな。

B ナンジューネンダベナー。
何十年(来)だろうなあ。

A ホンダナー、(B アー) ヤーヤ。
そうだよなあ。(ああ) やあやあ(大変だ)。

B ダエエズ アオモリサ エガエネス ホラー。
第一 青森(市街)へ 行かれないし ほら。

A ウンウンウンウー (B ウン) ヤ コエダバヨー (B ウン)
うん うん うん うん (うん) やあ これならよ (うん)
オラバステ マエネイエ、ショーボデモ ミンナ カエデー (B
俺ばかりで ためだぜ。 消防(員)でも みんな 借りて
ウン) ウン ヤ ソエゴソ スマツサネバ マエンジャ。
うん) うん やあ それこそ 始末しないと ためだよ。

B ヤ⁽¹³⁾ ヤジャグノ ホーモ ア オーサワギセア、ハンショ タデアデ。
ハッ役の 方(を)も 大騒ぎよ。 半鐘(を) 叩いて。

A ウーン アラ アノ ハスノ ウエノ フト ミネガ、アラ
うん あれ あの 橋の 上の 入(を) 見ろよ。 あれ(は)

(B ウンウン) ドンデーナッ。
(うん うん) どうなんだな。(ひどい)。

B ヤーヤ タエヘンダ、コレァ ドーセ、コレァ。
やあやあ 大変だ。 コリャ どうする? コリャ。

A ドッスモ ナンネァナ、(B ウン) コエダラナー、ココノ
どうしようも ならないな。(うん) これならなあ。 この
⁽¹⁴⁾エノ ナガモナ ホラ コリャ ミンズ オワレバヨ。⁽¹⁵⁾ (B ウン)
家の 中もな ほら これは (洪水(が)) 終ると。(うん)

スッカド コンダ エノ ナガ ミナ アー スマツステ ミンナ
すっかり こんど 家の 中 みんな ああ 始末して みんな
ステ (B ホンダ ネ ハー) テズダエサネア マネナー。
で (そうたよ はあ) 手伝いしないと だめだなあ。

B ハゴダデドゴノ サワギデ ネンタエナー。
函館どころの 騒ぎで ないようだなあ。

A ウーン コエダバ ナンテ (B ウン) スコキドゴデ ネージャ。
うん これなら なんと (うん) 飛行機どころで ないよ。

B ウン (A ウンー) ハゴダデ マ チューズニ ナッタテヨ。
うん (うん) 函館(は)まあ 中止に なったってよ

(A ハハー) エンマ マワテ キタジャー。
(ははあ) 今 回って 来たよ。

A スタド⁽¹⁶⁾ グット ⁽¹⁷⁾ホラ スコキサ ノルヤズ ノリハンジュ スタ
だけれども まったく ほら 飛行機に 乗るの(を) 乗りはずした

エナー。(B ノリハンジュ ステ マタエナー) ヤ ヒコキドゴ
よな。(乗りはずして しまったよなあ) やあ 飛行機どころ

デ ネーヤ。(B ウン) ウン ホエダバ ミンナステ ムラノ
で ないよ。(うん) うん それなら みんなで 村の

フト (B ウン) ホラ サエドノ オンチャマノ エーモ
人(が) (うん) ほら 斎藤の 次男の 家も

ミンナ カダズゲテ ケネア (B マ) マエネスヨー。
みんな 片付けて やらないと (まあ) だめでしょう。

B オ オズズデ ミンナ テズデネ エグベスヨー、 (A ウン)
×× 落ち着いて みんな 手伝いに 行こうよ。 (うん)

ウン。

うん。

A マ ミンズ フケァダラヨー、 (B ウン) ミンナステ コンダ
まあ 水(が) 引けたらよ、 (うん) みんなで こんど

アズバッテ (B ウン) ウン ナガ ミンナ エート カダズ
集まって (うん) うん 中(を) みんな えーと 片付

ゲテ (B ウン) ソーズステ ケネア マネビョン。
けて (うん) 掃除して やらないと だめだろう。⁽¹⁸⁾

B ウン キョー ミンナデ ヤービス。
うん 今日 みんなで やろう。

注

- (1) 当地では「ネデル(寝ている)」、「ネッテル(眠っている)」の相違がある。ちなみに同じ「ネル」でも、だいたい「ネル(寝る)」、「ネル(眠る)」のようにアクセントによる違いがある。
- (2) 一般に「洪水」よりも「オーミンズ」、「ミンズマワス(水回し)」などという。
- (3) 漢字を当てるなら「漬く(終止形)」。
- (4) 「ホンダング」のあとに、疑問の助動詞「ガ」か、推量の助動詞「ベ」が付くべきである。

- (5) 「ハゴダデ」と発音することが多い。函館へは飛行機で慰安旅行に行く予定だった。
- (6) 不明瞭な発音。
- (7) 昔の農家の構造、つまり南部曲り屋のこと。青森市近在の農家は曲り屋式がかなり存在した。本文の「マガリヤ」は、桜田敏光家（収録場所）をさす。数年前に解体し新築（現代風）したが、それでも曲り屋の呼称は残っていて、牛館では「マガリヤ」といえば、必ずここをさすことになっている。
- (8) 「斎藤家のオンチャマ」の意。オンチャマは「叔父様」から出たことばとえばよいか。俊栄がそのオンチャマである。
- (9) 青森市大字金浜と同市大字高田の中間にかかっている橋の名称。
- (10) 「キタズスセア」と言うつもりだったらしい。訳はこれに従った。
- (11) 不明瞭発音。
- (12) 「スマツス」は「あと片付けする」の意で使った。
- (13) 青森市大字ハッ役。牛館とは荒川をはさんだ対岸にある。
- (14) 斎藤俊栄宅をさす。
- (15) 「水が引く」の意。
- (16) 「モ」はほとんど聞こえない。
- (17) 以下の「ノリハンジュスタエナ」を修飾する。「グット」は程度の甚しい様の副詞。定まった訳はなく、今は「まったく」と訳す。
- (18) 「ケネア」の「ケ」は「くれる」。「～てやる」を「～テケル」で表現することが多い。

2. 群馬県利根郡利根村大字追貝

話し手

(略号) (氏名)(性) (生年)

A 井上 嘉十 男 明治35年生まれ

B 小林 弥太郎 男 明治40年生まれ

B ハイ オハヨゴザイマス。⁽¹⁾
はい、お早うございます。

A ハイ オハヨゴザイマス。⁽²⁾
はい、お早うございます。

B イタケア。⁽³⁾
居たがね。

A エレー ハイー ジャネー カイ。
ずいぶん 早いではないかね。

B ンー。⁽⁴⁾
うん。

A アー。
ああ。

B オラーナー アノー アレサー ネンガハガキナンチューナー ア
 俺はなあ、あのう あれさあ、年賀葉書などというのは 当
 タル モンジャ ネートモツタラネー (A アー。) オーハラ⁽⁵⁾ ス
 たる ものでは ないと思ったらぬえ、(A ああ。) 大原の 澄
 ミサンチジャ^(b)ーサー (A ハー ハー。) ニト⁽⁷⁾ー アノー トーキョ
 さんの家ではさあ、(A ハえ ハえ。) ニ等、あのう 東京
 ーカラ キタ ハガキダツチューケドサー (A アー。) デンキドケ
 から 来た 葉書だというけどさあ、(A ああ。) 電気時計
 ーガ ニト⁽⁷⁾ーデ アタツタツチューンダデ。
 が ニ等で 当たったというのだよ。

A アー↓ナルホドネー。ハー ソリャー マー ウンガイーナー。
 ああ、なるほどぬえ。ハえ、それは まあ 運が いいなあ。

B オックアイユービンキョクジャ⁽⁸⁾ーネー オックアイユービンキョクジャ
 追貝郵便局ではぬえ、 追貝郵便局ではぬえ、
 ーネー (A アー↓。) ハジメテダツチューデー。(A ハハー↓。) エ
 (A ああ。) 初めてだというよ。(A ははあ。) た
 ライモンダヨ。(A ハー↓ソーカイ。) キレーナ⁽⁹⁾ トケーダイ。
 いした物だよ。(A ハえ、そうかね。) きれいな 時計だよ。

A ハー↓。(B アー) マー アスゴジャ⁽⁸⁾ー ナンダー アノー ヨメゴ
 ハえ。(B ああ) まあ あそこでは 何だ あのう 嫁を
 ーモラッテ マゴガ デギル ソラー マー イーカゲン アノ
 貴 っ て 孫が できる、それは まあ、いい加減 あの
 ーウンノ イー シトガ アレダナー マタ デンキドケーナン
 う、運の いい 人が あれだなあ、また 電気時計など
 ゾガ アタツチャ⁽⁸⁾ー マー ウ^{xx} ウンノ イー ウエニ マタ
 が 当ってはい まあ 運の いい 上に また

アレダチー イー コッ タチー。

あれだなあ、 いい 事だなあ。

B イー コッ タイネー。

いい 事だなあ。

A アー↓。

ああ。

注

- (1) 呼びかけで、高い調子。
- (2) 応答で、低い調子。
- (3) 発音は、「[itakēā]」と二重母音的。Aが自宅に居ることを確認したことの発話。Bは、耳よりの話をしにAの家にやってきたのであるから、Aが自宅に居ることは、Bにとって重要である。
- (4) 「そうなんだ。早いには訳があるのだ。」といった気持ちをこめて。
- (5) 地名。大字追貝の中の小字名。収録地の字追貝より四つしもになる。
- (6) 人名。澄雄さんの略称。
- (7) 言いなおし。「二等」当選の原因となる葉書の由来を先に説明しようと考えた。
- (8) 発話が重なったのであらためて言いなおした。
- (9) 平生の発音では、「キレーナ」であるが、こゝでは第ス音節「レー」を高め、しかもやゝ引き伸ばして強調表現としている。

3. 千葉県館山市相浜

話し手

(略号)	(氏名)	(性)	(生年)
S	西藤 徳蔵	男	明治37年生まれ
T	武田 松雄	男	大正6年生まれ

- T オー イナダガ シツカリ アガッタツチュー ハナシオ キーテ
 おう いなだか ずいぶん 揚ったという 話を 聞いて
 キタツケン オメー シツテンノカヨー。
 きたけど あんた 知っているのかよ。
- S オラモ イマ キー~~タ~~^x キー~~タ~~^x タツケンノ アンデモ サンキョーマ
 私も いま 聞いたけどね なんでも 三共丸
 ルガ トッタヨナ ハナシダヨ。
 が 採ったような 話だよ。
- T オッ ドッチデ トッテ キタ モンダオカナセー。
 おう どこで 採って きた ものだらうかなあ。
- S アンデモ シラハマオキーラシーノー。
 なんでも 白浜 沖らしいねえ。
- T シラハマメワ ショガ ハヤウテ ナカナカ ムズカシ トンダッ
 白浜前は 潮が 早くて なかなか むずかしい ところだ
 ケンナー ヨッポド イー トンニ イタダッペナー。
 けれどねえ よほど よい ところに いたのだらうねえ。

S アンデモノー シマン ナカラシカンノー ショモ イッタダッペ
なんでもね 島の 中らしいからねえ 潮も よかったのだろう
ヨー。

よ。

T アー ホンデ⁽¹⁾ ネバ ナカナカ フケ トンデワ オーネニヤ
ああ それでなければなかなか 深い ところでは 大根には
カガラネカンナー。
掛らないからねえ。

S ホダノー。
そうだねえ。

T コッデ イクラグレ トッタダッテヨー。
これで いくらぐらい 採ったのたつてよう。

S アンデモ ニセンガングレー トッタヨーナ ハナシダノー。
なんでも ニ千貫くらい 採ったような 話だねえ。

T ホー タマゲタネー。
ほう たまげたねえ。

S イマダカラ アッダッペノー。 タイシタ モンダノー。 イクラ
いまだから あれたらうねえ。 たいした 物だねえ。 いくら
グレン ナッタダオカノー。
くらいに なったのだろうかねえ。

T ホッ イライ モンダナセー。 マ ジキモ ジキダカラ コンデ
ほっ えらい ものだなあ。 ま 時期も 時期だから これで
オンダラモ ソロソロ コレデ シタク シテ ミタラ アジョダ
私たちも そろそろ これで 支度 して みたら どうだろ
ンベドーカナセー。
うかなあ。

S アー ソーダノー。 ミンナゲ ソー イッテヤッテヨー シタク
あゝ そうだねえ。 みんなに そう いってやってよう 支度

シヨカヨー。
しょうかねえ。

T ホー シベンネカナー。
そう しょうかなあ。

注

- (1) 大根——魚の棲息する大きな根(海底の岩場で、海藻や餌の豊富な場所)。

4. 新潟県柏崎市大字折居字餅糰

話し手

(略号)	(氏名)	(性)	(生年)
A	高橋 真	男	大正7年生まれ
B	高橋 辰男	男	大正9年生まれ

A オハヨァー ゴザエマスー。
おはよう ございます。

B ハエー。
はい。

A ドァー シャツ⁽¹⁾タエネ。
どう されましたね。

B アー ヤー エマ シゴトカラ キタ ドコダエネ。 オメァサン
ああ やあ、今 仕事から 来た ところです。 あんたは
ナンダァー アノ アワテテ。 ナンカ アツタカエ。
なんです。 あわてて。 なにか あったかね。

A エヤネー エマ キータンダドモネー ヒカゲ⁽²⁾ノ オジジガネー
やあねえ、今 聞いたのだけれども 日蔭 おじいさんがねえ
マムシニ カブツカ⁽³⁾ッタテネ。
まむしに かみつかれたそうだと。

B エァーッ ホンネカ。
ええっ、ほんとうにか。

A ヤー アンダスケァネー アノー アーサ⁽⁴⁾ ハヨァッカラサ
やあ それだからねえ あの 朝 早くからさ
エッテ エリグチノ アノ カドノ キンジョ ダテガンネ カブツ⁽⁵⁾
行って 入口の あの 角の 近所だというのに かみつ
カッタテヤ。 ヨァーエジャ ナカッタコテー。
かれたそうだと。 大変だったさ。

B エー ソラ マー タエヘンダノァー⁽⁶⁾。
へえ それは まあ 大変だねえ。

A ダスケァネー。 ア スグ マー ビョァーエン デネケ
だからねえ。 あ すぐに まあ 病院へ 出なければ(行かなければ)

ナランダ^ダロ^アガ ア ハヨ^ア ナオ^ッテ クレ^ヤ エー^ガ、
ならないだろうが ああ 早く 治^ッて くれ^レば いい^ガ。

B ダ^スケ^アネー^エ。 マ^ムシ^テノ^ワ ナ^カナ^カ ド^クガ ア^ッテ
た^ダから^ねえ。 ま^むし^とい^うの^は な^かな^か 毒^ガ あ^ッて
ナ^オル^ニク^イテ ユ^ンダ^ガネー。
治^リに^くい^と い^うこ^とた^ダが^ねえ。

A ダ^スケ^アネー。 マ^ケッ^セー^ガ エ^マノ コ^ンダ^スケ ケ^ッセー
た^ダから^ねえ。 ま^あ 血^清が、 今^の こ^とた^ダから 血^清
ガ アル^カラ ダ^エジ^ョア ブ^ダト オ^モード^モ マー ア^ッダ^ロア
ガ ある^カら 大^丈夫^タと 思^うけ^れども ま^あ な^んた^らう
ー テ^ハエ キ^ット シ^ヤッ^タロ^アー。
手^配は き^ッと さ^れた^らう。

B ンー ソ^アー^ダケ^ラ エー^ドモ^ネー。
うん。 そ^うなら い^いけ^れども^ねえ。

A イ^ヤ マー グ^ンビ^ョア エ^ンモ アル コ^トダ^シ ホ^ケン^ジョ^モ
い^ヤ、ま^あ 郡^病院^も ある こ^とた^ダし 保^健所^も
アル^スケ マー ナ^ント^カ マ^ニオ^アー^ダロ^アー^ガ ハ^ヨア^ー
ある^カら ま^あ な^んと^か 間^に合^うた^らう^ガ 早^ク
ナ^オッ^テ クレ^バ。⁽⁸⁾ ホ^ンメ^アー^ダガ^ンネ ヒ^ドエ メ^ニ ア^ワレ^ッ
治^ッて くれ^レば、 盆^前な^のに ひ^どい 目^に 遇^われ^る
コ^テノ^アー。
よ^ねえ。

B ソ^アー^ダネー。 ソ^ラ マー キ^ノド^クダ^ネー。
そ^うた^ダね^え。 そ^れは ま^あ 気^の毒^タね^え。

注

- (1) (シ)ヤッ(夕) 「ヤル」という尊敬の助動詞の連用促音便形。その動作をする人に対する親しみと軽い敬意を表現する。柏崎市の代表的民謡「三階節」の詞章の中に「ヤル」が10例ほどあらわれる。ヤウ・ヤッ・ヤル・ヤル・ヤレ(命令形)のように活用する。ヤルは「御～ヤル」の「御」が脱落し、室町時代に生まれ、後期江戸語にさかんに用いられたといわれるもの。東北地方の岩手・山形までみられる。他の尊敬の言い方との差異については未詳である。昔話中にも出る。
- (2) シカゲ 屋号高橋孝行氏宅。「日蔭」か。
- (3) カブツカッタ 「かぶりつかれた」の変化。かみつかれた意。
- (4) アーサ 長音化している。
- (5) エリグチノカド 「リ」の[r]はかすか。「入口の角」で、公道から個人の宅地に入る曲り角のところを言う。
- (6) タエヘンダノァー [taeendano:] のようにきこえる。
- (7) シヤッタ (1)の「シャッタ」参照。
- (8) クレバ 「クレレバ」の変化。

5. 長野県上伊那郡中川村南向

話し手

(略号)

(性)

(生年)

A 尾沢 国蔵 男 明治31年生まれ

B 井沢 賢一 男 明治32年生まれ

A ハー⁽¹⁾ テーキ° テーキ° シンゾー オドツタワ イマ イソイデ
 苦しい、苦しい。心臓が 躍ったよ。今 急いで
 キタラ シンゾーガ° オドルワー ホントー アノナー サ アノ
 来たら 心臓が 躍るよ、 本当に。あのまあ
 ー サカノウエノナオン⁽²⁾ (B ン) イワオサントコジャーナー
 坂の上のね、 岩男さんのところではね、
 (B アー) デカイ ヤツ アタリクジガ° アッテナン⁽³⁾(B ン) エラ
 でかい やつ、 当り籤 が 当ってね、 大変
 イ コトジャー ネーカ マー アー ユー ワル⁽³⁾ トコニ⁽⁴⁾ ソ
 な ことでは ないか、 ああ いう (財産)ある ところには
 ー ユ モノ サズカルンダガ° ドーダラー⁽⁵⁾ ネー トコエワ ナ
 そう いう ものが 授かるんだが。 どうだろう、 ない ところには 何
 ンニモ アタリヤー センニ ヨノナカ オモウヨーニ イカン
 にも 当りは しないよ。 世の中は 思うように 行かない
 モンダノー
 ものだね。

B ンー マー エレー コトガ キタ⁽⁶⁾モンダナー マー ソリヤー
 大変な ことが 起きたものだなあ、 それは
 マー ウンノ イーツチュ シトガ マー ドコマデモ ウンガ
 運の 良いという 人が、 どこまでも 運が
 イーランダナー
 良い人だなあ。

A アル トコエワ ソー ユーヨーニ サズカルンダガ° ビンボーナ
 ある ところには そう いうように 授かるんだが、 貧乏な
 (B ン) モナ イツモ ビンボーモチツキリデ (B ンーン)
 者は、 いつも 貧乏 続きで

ソー ユー イーメニ アワナンデ" オシメーダ"ガ コリヤー マ
そう いう 良い目に 逢わないで" お終いだ"が これは ま
あ…。

B シーン ホリヤ マー ヘー ショーネーナー マー ウラヤンデ
それは もう しょうがないなあ。 羨んで"

ミタ トコロデ" ドーショーモ ネーデナ
みた ところで どう(ようも ないからな。

A マー ショーネーノー コイツバッカー マー ソノウチニ マタ
(ようがないね, こいつばかりは。 そのうちに また

イー コトモ アルカモ シラン (B ン) エレー⁽⁷⁾ ウレーマ
良い ことも あるかも 知れない。 ひどく 羨しがら

シガランヨーニ クラスツチュ コトダ"ノー
ないように 暮らすという ことだね。

B ン

注

- (1) [ha:] と聞えるのでハーとしたが、話し手はアーと言っているつもりかもしれない。
- (2) サカノウエは家号。
- (3) ワルと言っている。アルの言い間違えであろう。
- (4) トコニヤのニヤはよく聞きとれない。トコエワと言っているのかもしれない。
- (5) 推量の -ダラ (-) は比較的新しい表現である。
- (6) [°kita] のようにも聞える。
- (7) エレーの前に言いよどみがある。

6. 静岡市南字中村

話し手

(略号)	(氏名)	(性)	(生年)
A	佐藤 吉平	男	大正5年生まれ
C	山本 俊男	男	明治44年生まれ

C オイオイ キッチン キッチン。 アタッタ ヒトガ アルダッ
おいおい 吉ちゃん 吉ちゃん。 当たった 人があるんだ
テサ。

てさ。

A ナーニ ナーニ ソンナニ アタッタダッテ。
何 何に そんなに 当たったんだって。

C タカラクジンサ。
宝くじにさ。

A ホー。
ほう。

C ホントダッテダネ。
本当だそうだよ。

A ドコノ ウチダッテ。
どこの 家だって？

C イヤサー アノー アンマリ イワレナエーケガナ オ アノ
いや あまり(大きい声で)言われ^{xx}ないがな。

シタノ ウチデサ。

下の 家デサ。

A ホー アノヒト ホエジャ タカラクジ カッタリ シタノケー。
ほう あの人は それでは 宝くじを 買ったりに したのかい。

C ンー ヤマニャ ヤッパリ ソーユー コトモ アルダナ。
うん たまには やっぱり そういう ことも あるんだな。

A ソイデ イクラ アタッタッテ。
それで いくら 当たったって(いうんだ)。

C イカエー キンカクダデ ンー ニヒャクマンバカ イッタダッ
大きな 金額だよ、うん 200万ばかり 行ったんたら
テサ。
てさ。

A ホー タエーシタモンダナ オイ。
ほう 大したものだな、おい。

C ナー ホエデモサ オラモ イッペンバカ ソンナナ メニ アッ
なあ、それでもさ 私も 一ぺんぐらい そんな 目に 遇っ
テミタエーダケガ ヤ オラミタエーナ モナー ナクテサ アル
てみたいんだが 私みたいなのは なくてさ、(金が)ある

ヒトン トケー イクッテユート コ ムッコーモチデナ。 アル
人の 所へ 行くというと (金は)他人へ行くんでね、金

ヒトン トケーパッカ カネ イッチャウダンデ。
持の 所へばかり 金が 行ってしまふんだから。

A ~~~~ フントカエ。 ~~~~~
(当たったのは)本当かえ。

C フントズラ。 アエダッテモ ミンナ ソノ ナー ムコーノ
本当だろう。あれだって(その証拠に)みんな 向こうの

オーバーサンガ キテサ オラン ウチー キテ ナンダヨ アウエー
おばあさんが 来てさ、私の 家へ 来て 青い

カオ シテ キタダヨ。 オラン ウチノ ヤツン アタッタッテ
顔 して 来たんだよ。「私の 家のやつが(宝くじに)当たった」と言って
トンドキタダヨ。

とんで来たんだよ。

A ホー タエーシタモンダナー。 ダケド (C ナー) ドーダヤ
ほう 大したもんだなあ。 だけど (なあ) どうだい

イッパエー オゴラセルカエー ジャー。
一杯 おごらせるかなあ じゃあ。

C (笑) オゴッタッテ イーヤナー ソレバッカ。 マー ソ
おごっても いいやなあ 少しぐらい。 まあ ソ

ソナン ワケダンデ キッツァン コンヤーサー アノー フタ
そんな わけだから 吉つあん 今夜

ーリデ ンー オシカケテミヤ アー ヤツン トケー イッテサ
二人で おしかけてみよう。 奴の ところへ 行ってさ。

オゴラセルベァヤ ヤマニヤ。
おごらせようよ、 たまには。

A ソーダナー (C ミンナデ イッショニ) コンヤ イッテミル
そうだなあ (みんなで 一緒に) 今夜 行ってみよう

カ アスベー。
か 遊びに。

C ンー イマエーマシーヨーダケーガ シヨンネー。 (A ネー)
うん いまいましいようだが 仕方がない。 (ねえ)

ヒトガ アタッタナンテ。
他人が 当たったなんて。

- A デモ イー ジャネーカ キンジョ デモ ッテ デモ タダ モーカル
 でも いいじゃないか、 近所で でも ただ もうかる
 ヨーナ タカラクジ アタ ッタダ グライデ マー デモ エーサ。
 ような 宝くじ が当たったんだという位 (に考えておけば)、まあ それでもいいさ。
- C ソリャ ソーダ ケーガナー。
 それは そうだけどなあ。

7. 愛知県北設楽郡富山村中の甲

話し手

(略号)	(氏名)	(性)	(生年)
S	鈴木 清光	男	明治27年生まれ
H	鈴木 英雄	男	明治34年生まれ

S ハイ 「ケッコーナ オテンキデ」 ゴザイマス ドーモ。
 はい けっこうな お天気で ございます どうも。

H ハイ _____ デ ゴザイマス アッ。
 はい (小声) ございます

S アッ。ワ「シャー イマ ト「チューデー」 アノ キーテ キ「タンダガ」
 私は 今 途中で あの 聞いて きたんだが。

(H ハー) タ「ナベヒロシサンノ コドモ」シューガ ト チ「ーサ」
 田辺博さんの 子供が 小さい
 イノガ ヒトリ サンニン ノットッタノガ ヨソノ クルマガ
 のが 一人と 三人 乗っていたのが よその 車が
 ムコーカラ キテ ソリョー ヨケル チュッテネー (H「ハー」)
 むこうから きて それを よける といってね
 アノ 「アクセルダカ フミソコナッテ タ「ニ」ノ ホーエ フンジャッタ
 あの アクセルだか 踏みそこなって 谷の 方へ 踏んでしまった
 モンダデ (H ハー) フタリノ シトワ 「ダムイ」ヘーッテ
 ので 二人の 人は ダムに 入って
 「ケガシタソーナガ ソノ シューワ 「ツイ」 タ「スカランソーナノ」ネ
 怪我したそうだが その 乗は つい 助からないそうだね
 ー (H ハー) ソノ 「チーサイノワー」 クルマカラ ホーリダ
 その 小さいのは 車から 放り出
 サレテ (H アー) ソレワ タスカッタッテユ「ー」ネ。
 されて それは 助かったって いうね。

H ハーハー。

S マー オトマシーコト アッ タモンダ「ネー」 ドーモ。
 まあ 可哀想なことが あったもんたね どうも。

H アー ドーモ (S ハイ) ト「ンダ」 ワケニ ナンダ「エ」 (S エー)
 ああ どうも (はい) とんだ 次第に 何だね
 アー キ「ノドクナ」 コト「ー」 シタ ドーモ。
 気の毒な ことを した どうも。

S ハイ。
 はい。

8. 福井県武生市下中津原町

話し手

(略号) (氏名) (性) (生年)

S 下出寅義 男 明治36年生まれ

T 谷口松樹 男 明治32年生まれ

S アー イナハルケ⁽¹⁾ノー。

ああ いらっしゃいますかねえ。

T ヤッ ヨー オイデ。 (^Sオオー) ナンジャ オメ⁽²⁾。
 やあ よく いらした。 (うん) なんだ お前。

S アー マーダ オタクニ⁽³⁾……。 キータンジャ ウラ ビックリシ
 ああ まだ あなたに……。 聞いたんだ 俺 びっくりして

テ トンデ ホントカト オモテ イマ トンデ キタンニャゲ。
 跳んで 本当かなと 思って 今 跳んで きたんだよ。

T ホエー。 (^S笑) ドンナ コト アッタンヤ。
 ほう。 どんな こと(が) あったんだ。

S アノノ (^Tホ) トナリノ (^Tホ) アノ ナカムラサンテ⁽⁴⁾
 あのね (ほう) 隣の (ほう) あの 中村さんて

(^Tオー) アソコァ オメ⁽⁵⁾ タカラクジ アタッタンヤト。
 (うん) あそこは お前 宝くじ(が) 当たったんだと。

T へー。
 へえ。

S アタルモ アタルモナイ ウ^{xxx} ウララ⁽⁶⁾ ソーゾーモ デキン イッ
当たるも 当たるも(なにも)ない 俺達(が) 想像も できない ー

シェンマンエンモ アタッタンヤト。
千万円も 当たったんだと。

T イッシェンマンエン。 (^Sウⁿ) ウラントコノ オメ⁽⁷⁾ ザイサ
ー千万円。 (うん) 俺の所の お前 財産
ンナ ウッタッテ (^S笑) トレンジャ⁽⁸⁾ オメ (^S笑) カス
(と) みんな 売ったって 取れないぞ お前 ものす
(9) ナ。 (^Sア^ー) ウッダッテ⁽¹⁰⁾ ドーⁿナ シタラ-----。
ごい。 (ああ) いったい どんな(ふうに)したら……。

S ホーリヤ ウントニ ⁿナモ ウララ⁽¹¹⁾モ ソノ シエメテ ハンブン
それは 本当に そんなもの 俺も その せめて 半分で
デ イート オマウンニヤ。
いいと 思うんだ。

T ハンブンテ オメー ホンナモ オメ タマデ オメー。
半分なんて お前 そんなもの お前 全然 お前

S ホシー ホシーナー。
~~xxxxxxx~~ 欲しい 欲しいなあ。

T ホー。 (^S笑) ホシーッテ ⁿナー オメ テードガ⁽¹²⁾ イコスギテ
ほう 欲しいって そんな お前 程度が 大きすぎて
オメ (笑) オエ (笑) オ ビックリシテシマウヤ。
お前 おい うん びっくりしてしまふよ。

S ホーヤトコトイ⁽¹³⁾ヤ。 ホヤデ ウラ ビックリシテ マー ンニヤ
そうなんだよ。 それで 俺 びっくりして まあ なんだ
シラシェニ キタンニヤ キョー。
知らせに 来たんだ 今日。

T ヒィエー。(S笑) ウランテナモンワ マー モー ソンナモン
 へえー。 俺みたいな者は まあ もう そんなもの
 ワ マー トテモオ⁽¹⁴⁾ オヨビワ ツカン。 コンニサン イッペ⁽¹⁵⁾
 は まあ とても 及びは つかない。 こんにさん 一度
 オ コンニサンデア ヤレルンジャケ イッペ コーユー テツヅ
 うん こんにさんでは やれるんだから 一度 こういう 手続き
 キ... (S イヤー) イヤ^{xxxxxxx} ナカッタモント オモテ⁽¹⁶⁾ オメー
 (いや) いや なかったものと 思って お前
 モッテルノ ヤッテミレ インジャ⁽¹⁷⁾。
 持っているの やってみればいいんだ。

S イーヤ ソリヤ^{xxxxxxxx} ソリガ アカンノヤッテ。 カラスァ ウノ マ
 いや それは それが だめなんだって。 鳥は 鶏の ま
 ネシテ シンダツチュコト アルサケ⁽¹⁸⁾。
 ねして 死んだということ(が) あるから。

T アー ソーカ。 ソレモ アルノー。 ーン。
 ああ そうか。 それも あるねえ。 うん。

S アー ソー アノー (笑) ホレデ コ ウー コマッタモンジ
 ああ そう あの それで こう うん 困ったもんだっ
 ヤッテ ソレ。(「アーアーナー」) マチガイノー アタルン
 て それは。(ああ ああ なあ) まちがいなく 当たるの
 ナラ ヤル^{xxxxxxx} シャッキンシテデモ ヤルケド。
 なら やる 借金してでも やるけれど。

T ハハー。 マ ソレモノー。(S笑) ウーン。
 ははあ。 ま それもねえ。 うん。

S ホレデ^{xxxxxxxx} ホッデ キタンニャ。 オメァ ンマイコトシタ (T へー)
 それで それで 来たんだ。 お前 うまいことした (へえ)

ウマイコト ヤッタ トニカク。

うまいこと やった とにかく。

ト イヤ ソーレワ⁽¹⁹⁾ マー ウラヤミシーナ⁽²⁰⁾。(S.T 笑)
いや それは まあ うらやましいな。

注

- (1) イナハルは動詞イルの未然形に尊敬の助動詞ナハルがついた形。
- (2) 当地方言で最もよく用いられる二人称代名詞。ややぞんざいな感じを与える。
- (3) 当地方言で最もよく用いられる一人称代名詞。古くは男女ともに用いられたようだが、最近では女性からはあまり聞かれなくなった。
- (4) ナカムラは、藤木伊一氏(場面「品物を借りる」「新築の祝いを述べる」の話者。方言談話資料(9)参照。)の家の屋号。漢字をあてるとすれば「中村」で、家の場所が村のちょうど真ん中あたりに位置していたための命名と想像される。
- (5) 本来は注の(2)で述べた二人称代名詞であるが、しばしば単に相手の注意を喚起する挿入句として用いられる。ここの例もそれである。
- (6) 注(3)で述べた一人称代名詞ウラの複数形。
- (7) 注(5)のオメと同様単なる挿入句として用いられている。
- (8) 自分の家の財産をみんな売ってもそれだけの金は手に入らないの意。
- (9) 程度の甚しいことを意味する副詞。形容詞的にも用いられる。

カスナ ヨーケノ ヒト (ものすごく たくさんの 人)
カスナ ハエー クルマ (ものすごく 速い 車)
カスナ ヒト (ものすごい 人)
- (10) このように聞こえるが意味ははっきりしない。「イッタイ(ジェンタイ)」と言いかけての言い誤りかとも思われる。
- (11) 当地方言では注(6)で述べたような複数であらわすウララと平行して単数をあらわすウララも用いられる。ここは単数の例。同じ単数のウ

ラとの間に意味上の差異は特に見い出せないが、構文上、あとに助詞がつく場合、あるいはその助詞が省略される時その助詞の意味をも含んでウララの方が用いられやすい傾向があるように思われる。

- (12) イコスギテのイコは「大きい」意の形容詞イケー（イカイ）の連用形。イケーヤロー（イカカロー）、イコナル、イカカッタ、イケー（イカイ）、イケーヒト（イカイヒト）、イカカッタラのように活用する。
- (13) ～トコトイヤは自分の言うことを強調しようとする場合などに用いられる表現。ただし用法的にはかなり限られた表現である。
ホンナトコ イッタラ アカントコトイヤ
（（危ないから）そんな所へ 行ったら 駄目だっていうんだよ）
- (14) [tote'mo'o] 独得のゆすりイントネーション。
- (15) コンニは下出氏の家の屋号。先祖の名前「小仁平」に由来するもの。
- (16) 持っている金をもととなかったものと思っの意。
- (17) 下出氏に宝くじを買うことを勧めている。
- (18) 実力以上に背伸びをして人の真似をしても失敗するという意味のことわざであるが、なかなか面白いたとえである。
- (19) [so:le'wa]
- (20) 話し手は二人ともウラヤマシーでなくウラヤミシーと発音している。

9. 奈良県吉野郡十津川村那知合・谷垣内

話し手

(略号)	(氏名)	(性)	(生 年)
A	東 正弘	男	明治42年生まれ
B	泉谷正彦	男	明治35年生まれ

A オイ イズタニクン。
おい 泉谷君。

B オイ。
おい。

A ドエライ ザイモクガ サガッ タチノー シランカ。
えらく 材木が 下がったってね、知らないか。

B ホンマカイ。
本当かい。

A イーヤ モー コノ イッ シューカングライニ モノスゴー サガ
いや もう この 一週間位に ものすごく 下が
ッタラシーワヨー。
ったらしいわよ。

B イヤー ソラニ サガッ タラ コマルノー。 シリノシタ ナイヨ
いや それは 下がったら 困るね。 財産(が) 無いよう
ーニ ナルモノー。 ソ ショクニンニモ ダ ダチンガ ハラエ
に なるもの。 ^{xx} 職人にも ^{xx} 駄賃が 払え

ン~~~~。 コマルノー。

ない。 困るね。

A マー マー ショーバイユーモノワ ジューネンショーギリデノー
まあ まあ 商売というものは 十年帳尻でね

アガッタリ サガッタリジャーシ ココ コミデ デテ イカニャー
上がったリ 下がったリだし ここ 込みで 出て行かなければ

ショーワ ナイケンド イマ ヤットル シワ ヨワル ヨワルト
仕様は 無いけれど 今 やっている 衆は 弱る 弱ると

モーケンド マー シッカリ ヤラニャー ショーガ ナイノー。
思うけれど まあ シッカリ やらなければ 仕様が 無いね。

B マー サガル テードニモ ヨルケンド チョット ~~~~~
まあ 下がる 程度にも よるけれど、 ちょっと

サガッタラ ヤリニク ナルノー。

下がったら やりにくくなるね。

A ウン。 マー ケンド サガッタ コトワ ジジツナンジャワ。
うん。 まあ けれど 下がった 事は 事実なのだよ。

B ソージャロカ。
そうだろうか。

A ウーン。 サガッタ コトワ ジジツナンジャ。
うん。 下がった 事は 事実なのだ

B ソリャー シランジャワヨー。
それは 知らない(の)だよ。

A マー ケンド ナンジャワ。 アンタモ ソーヨーニ ウンヨー
まあ けれど なんだ。 あなたも 運良く

ヨーケーモ モッテ ナーシ。 ショクニンニ ハラエンチューヨー
余計も 持って 無いし。 職人に 払えないというような

ナ コトワ ナーワヨー。

事は 無いよ。

B ソリャー アノ ~~~~~ ワカランノー。 マ ハラエンチュ ~~~~~ コト
それは あの 分からないね。 ま 松えないという事

モ ナカローケンド ソガー サガラレタラ コマルノー。 ~~~~~
も 無かろうけれど そんな 下がられたら 困るね。

A マー デモ ワッ ワカイ トキカラ ズット ヤッ ミンナ
まあ でも xxxx 若い 時から ~~~~~ 皆

モー モー ザイモクワ ザイモクワ ユーテ サワイダモンジャ
もう もう 材木は 材木は (と) 言って 騒いたものた

ガ ヤッパリ アガッたり サガッたりジャ ワヨ。 キズ カイナイ
が やはり 上がったり 下がったりだよ。 気遣い無い

ワヨ。

よ。

B ウン マー ソリャー ザイモクノ アガリサガリワ デ ソレデ
うん まあ それは 材木の 上がり下がりは、 で それで

モーケタリ ソンスルンジャ ケンドノー (A アー。 ~~~~~)
儲けたり 損するのだけれどね

マー サガッテモ ショーワ ナイケンド マ ソリャー コマル
まあ 下がっても 仕様は 無いけれど ま それは 困る
ノー。

ね。

A ソリャー マー コンダケ サガッタサカイガ モー ヤマデ
それは まあ これだけ 下がったから、 もう 山で

クッテ イキヨッテ サガリコンデ イタラ ナンモカモ ナンジャ
食って 行っていて 下がり込んで 行ったら 何もかも 何だね。

ノー ヤッパリ メサキバツカリ ミナ ツイキュースルスカ
やはり 目先ばかり 皆 追求するから

ヤマモ ナニモ ソシダケ デンヤローケド マー ココデ ヒト
山も 何も それだけ 出ないだろうけど まあ ここで ひと

ガンバリ シテジャノー マー ンナラ トツカワデ ハダカニ
がんばり してだね まあ そんなら 十津川で 裸に

ナルノモ ザイモクジャシ クラ タテルノモ ザイモクジャシノ
なるのも 材木だし 倉(を) 建てるのも 材木だしね

一 マー ヨノナカ (B ウン. ソー ジャノー) ツズクマデ
まあ 世の中 うん. そうだね 続くまで

ヤッテ ミマショーライ マー ナンジャノ オタガイガ アン
やって みましようよ。 まあ 何だね。 お互いが 余

マリ ヒカンセントヨ (B ウン) ソン ツモリデ マ コイデ
り 悲観しないでね (うん) その 心算で ま 漕いで

ミヨーライ。

みようよ。

B ジャローナー. サガツタラ ショー ナーケンド。
だろうね。 下かったら 仕様 無いけれど。

10. 鳥取県八頭郡郡家町

話し手

(略号)	(氏名)	(性)	(生年)
A	土井 頼重	男	明治30年生まれ
B	衣笠 光寿	男	明治38年生まれ

A オイ キヌガササン。
おい 衣笠さん。

B エッ。
え？

A ナーント サワダクンガ ナント ニワカニ シンダダソーデスカ。
なんと 沢田君が なんと にわかに 死んだのだそうですが。

B サー ~~チョッ~~ チョット キータ トコデスケド ホンニ サワダ
そう ~~xxxx~~ ちよっと 聞いた ところですけど 本当に 沢田

ノ ムコサンガ シンダッチュコトデ アノ ウチノ オヤジサン
の 婿さんが 死んだ⁽¹⁾ということであの 家のおやじさん

モ ニサンネン アトニ シンデ ソレデモ キノドクニ オモイ
も ニ、三年 前に 死んで それでも(そのときも)気の毒に 思い

ヨッタデスケド モー アノ ムコ アレガ タオレタッテ ユー
ましたけど もう あの 婿… あの人が 倒れたと いう

コトニツイテワ アノ ウチワ アト ドースルダローヤート⁽²⁾
ことについては あの 家は このあと どうするだろうなあと

オモッテ ホンニ シトノ ウチナガラ オビエタ⁽³⁾ヤーナコッテス
 思って 本当に 人の 家ながら 驚いたようなことです
ワ。
わ。

A アーア コマッタモンデスナー アリヤー、マー アンネーグラーエー
 ああ 困ったものですなあ あれは、 まあ あの家くらい
 ショーラ⁽⁴⁾エーノ イー モノワ ボクラ ナエート オモイヨッタ
 性質の 良い 者は 僕ら 無いと 思っていた
 トコダガ カツジサンノ オヤジサンモ トッテモ ソノ オナゴ
 ところだが かつじさんの おやじさんも とても その 女の
 ミタエーナ エー シトデスシナー。
 ような 良い 人ですしねえ。

B エー マー シットデスガ、(A エー) アンネーノ オヤジサン
 ええ まあ 知ってますよ。(ええ) あの家の おやじさんから(おや
 カラ サワダノ カツジクン ソレカラ ムコモ エー モンデシ
 じさんをはじめ) 沢田の かつじ君 それから 婿も 良い 者 だし
 タシナー。
 たしねえ。

A ソーソー。
 そうそう。

B ソレカラ モー ミンナ エーデスワ アンネーワ。 オバーサンガ
 それから もう 皆 良いですよ あの家(の人)は、おばあさんが
 ヨシ (A エー) ソレカラ アンネノ マー イマ オカーサン
 良いし (ええ) それから あの家の 今 お母さん
 デスケド アレモ トテモ イーモンデスケナー オヤニ ニテ。
 ですが あの人も とても 良い人ですからねえ 親に 似て。

- A エー トテモ ショーラーガ エー。ショーラーガ エーデス。
ええ とても 性質が 良い。 性質が 良いです。
- B ホンニ キノドクナコッタ オモッテ シトノコトノヨーニ
本当に 気の毒なことだと 思って 他人のこのように
オモエンデスワ ホンニ。
思えませんよ 本当に。
- A ドーモ マー アーシテ ケンチクオ シテ マー イチニネンワ
どうも まあ どのようにして 建築を して まあ 一二年は
ダージュナ トキノ フーデスナ (笑いながら) エキノ ウエカ
大事な 時の ようですね 易の上
ラデモ。 (B サー デモ) マー ナンダワ ニサンネンワ
からも。 (さあ でも) まあ なんですよ ニ、三年は
アー コイコトーノ ナエーノデ ナケリャニャ ホントワ ヨー
こういう(不幸な)ことが無いので 無ければ 本当は 良く
ナエーチュコトー ユーガ⁽⁵⁾ アリャ ケンチクチュー マンダ
ないということを 言われているがあれは 建築中 また
スンドラナンダデショー カツジサンガ シンダノワ。
すんでいなかったでしょう かつじさんが 死んだのは(死んだときは)。
- B ソーデショーヤ。 マンダ⁽⁶⁾ ズット⁽⁷⁾ ジョーズー デキアガラ^ンウ
そうでしょう。 また 全部 完全に できあがらない
チダッタデ^ンショーヤ。
うちだったんでしょね。
- A ハイハイ ドーモ (B エー) ソーラシューニ オモイマス。
はいはい どうも (ええ) そのように 思います。
マイマ ショーショーノ ザエサンガ アッタッテ ハタラキニン
まあ 今 少々の 財産が あったって(一家の)働き人

が モー ノーナッタラ アワレナモンダケナー。
が もう いなくなったら 哀れなものですからねえ。

B エー ホントーニ ソリャ ナンデスナー コマッタモンダト
ええ 本当に それは 何ですねえ 困ったものだと
オモイヨルデスケドー。
思っているのですけれど。

A エー アー キノドクナケドモ ドーモ コノコト バッカリワ
ええ 気の毒だけれども どうも このこと ばかりは
ドーモ シカタガナエー。
どうも しかたがない。

B エー マー ホントーニ イツ ダレノ ミノウエニ フリカカッ
ええ まあ 本当に いつ 誰の 身の上に 降りかかって
テクルカ ワカランコッテスケーナー コレモ。
くるか 分からないことですからねえ これも。

A アア ソーデスーウ。
ああ そうです。

B ホントニ キーテ オドロキマシタワ。
本当に 聞いて 驚きましたよ。

A ンマー アザナエル ナワノゴトシツチューガ ヨク イッタモンダ。
まあ(禍福は)あざなえる 縄のごとしというが 良く 言ったものだ。
ドーモ エーコト バッカリワ ナエデスナ。
どうも 良いこと ばかりは 無いですねえ。

B エー マー フシンオ シタ アトニャ ワリカタ コーユ
ええ まあ 普請をした あとには 割に こういう(不幸な)
コトが (A 笑) クルモンデシテナ (A アー) シモツグ⁽⁸⁾ロノ
ことが 来るものでしてね (ああ) 下津黒の

アノ タブチクンノ ウチモ オヤジサンガ フシンオ シテ
あの たぶち君の 家も おやじさんが 普請を して
タオレテシマッ タダシ。
(病気で) 倒れてしまったし。

A ソーソー。
そうそう。

B トシサンガ。
としさんが。

A エーエー
ええええ

B ソレカラ ソーサンモ。
それから そうさんも。

A ソーサンモ デシタナ。
そうさんも でしたね。

B エー。(A エー) フシンオ スル アユフーニ ナッテシマッタ
ええ。(ええ) 普請を する(ときに)ああいうふうになっちゃったの
デスクーター。
ですからねえ。

A ウッカリ ドーモ デキンコッテスナー。 ヨホド ソリャー
うっかり どうも できないことですねえ。 よほど それは
シンチョーニ シテ カカリャニヤ。
慎重に して とりかからねば。

B エー。 マー ホントーニ ソリャー カミサンテ ユーコトワ
ええ。 まあ 本当に それは 神様と いうことは
イマゴロ ダレモ アマリ シンジンデスケド ジッサイ マ
今頃(は) 誰も あまり 信じませんが 実際 まあ

コーユー コトガ アッテミルト ホントニ アルモンノヨーナ
こういう ことが あってみると 本当に あるもののような
キ キガ スルデスナー。
×× 気が しますねえ。

A エー マー ホーイッチュコトワ マー ユー シトワ ユーシ
ええ まあ 方位ということば まあ 言う 人は 言うし
イワン シトモ アルケドモナ ドーモ コノ ホーイ ワルイ
言わない(信じない)人も いるけれどもね どうも この 方位が 悪い
ホーイニ ムカッテ シタノワ コトワリユウ シテモ ソイツ
方位に さからって したことは 「ことわり」を しても
ソノ タットルノ クダイテモ イケンソーデスナ。
建った家を こわしても いけない(効果がない)そうですね。

B マー ソーユー コトオ (A エー) ユー シトガ アルデス
まあ そういう ことを (ええ) 言う 人が あります
シ ジッサイ コーユー コトガ アッテミルト ホントニ アル
し 実際 こういう ことが あってみると 本当に ある
ダローヤート オモーデスダガナー。
たろうなあと 思いますかねえ。

A ヤー マー アノ メーシンニ シテモ ヨケニャ ナランコッテ
まあ あの 迷信にしても(悪い方位は)避けなければならないことです
スワエーナ (B エー) ダイジナ コッタケナー。
よね (ええ) 大事な ことだからねえ。

B ホントーニ ナンデス。 キノ (A マー げ---) キノドクナ
本当に 何です。 ××× 気の毒な
コッテス。
ことです。

A ア. アー ソーデス,
ああ そうです.

注

- (1) アトニ 前に (時間の進む方向を「前」とみて、それに対して「後に」の意)。 用例「ニ、三年アトニ行ッ、タコトガアルカ」
(ニ、三年前に 行ったことがあるか)
- (2) ドースルダローヤート 「ドースルダローナート」とも聞こえるが、話者は「ドースルダローヤート」と言っているつもりの由。
- (3) おびえる 驚く。怖れ驚く。出雲 (物類称呼)・駿河 (駿国雑誌)・静岡県志太郡・奈良県吉野郡十津川・京都府与謝郡・鳥取県八頭郡・岡山県津山・出雲・隠岐。(『全国方言辞典』)
なお『日本言語地図』第77図「びっくりする (驚く)」(質問文 = 急にうしろから大きな声をかけられてドキンとすることを、どうすると言いますか。)によれば、オビエルまたはオベルが鳥取県、島根県出雲地方、岡山県北部などに分布する。
- (4) ショーライ 性質。「生来」に由来か。
しょーらい 性質。たち。「ショーライがよい」新潟県頸城地方・愛媛県喜多郡大州。(『全国方言辞典』)
用例「アンタノ髪ワ ショーライが良イ」
- (5) この地方では家を新築すると精神的にも肉体的にも疲れが出て、二、三年以内に家族に倒れる人が多いという言い伝えがある。そういう人が出たときに、「フシンクタビレが出タ」のように言いあわす。
- (6) ズット 全部、すっかり。
- (7) ジョーズー 完全に。立派に。(共通語の「上手に」と意味的に重なる部分が多いが、わずかにずれている。)
用例 「ジョーズニ デキナイ」(未完成である = 九分通り完成しているが、こまごましたところが未完成で不体裁な状態を言う。)
- (8) シモツグロ 地名。

- (9) コトワレ あやまる。言いわけをして(理由を述べて)あやまる。
 用例 「(人から誤解されたときに)ハイコト コトワリシトカン
 ト イケンゼ。」
 ここでは「コトワリュー シテモ」は「神様に祈禱など、やるべき
 ことをやっても」の意。

11. 島根県仁多郡横田町大字大馬木

話し手

(略号)	(氏名)	(性)	(生年)
A	勝部 定市	男	明治37年生まれ
B	吉川 幸吉	男	明治35年生まれ

B アー トナリノ オツツァンジャーネーカ。(A オーイ)
 ああ 隣の おっつあんではないか。(おおい)

ナンゴトガ ハズィ マッタカネ。 エラエ シェツィゲナ フースィテ
 何事が はじまったかね。 大変 苦しい ふう(を)して

カケツィケテ。
 駆けつけて。

A イヤ コナオマエ⁽¹⁾ ヨー オマエ カネエダンノ タワデノ
 いや なんとあんた よう あんた 叶谷の 峠での

(B オー) コナエダ ウツィン ムコーノ ワケー モンガ
 (おお) 先日 私の家の 向うの 若い 者が
 ズィドーシャズィコ ヤッテ (B ハー ハー) モー ダンプノ
 自動車事故 やって (はあ はあ) もう ダンプの
 アトエ ツィケテ デチョッタゲナ トコーメガノー (B オー)
 後へ つけて 出ていたような ところがね (おお)
 ムコーカラ バスィガ キテ (B ハー) ヘーカラ オマエ
 向うから バスが 来て (はあ) それから あんた
 アンマリ スィピードオ ダエテノ (B ハー ハー) ロクズィツ
 あんまり スピードを 出してね (はあ はあ) 六十
 キロモ ダエチョッタゲナダケン (B ハー ハー) アーテ
 キロモ 出していたというのだから (はあ はあ) あれて
 ヨキョーニヤ ヨケラレズィノー (B ハー ハー) バスィニ
 避けるに 避けられずね (はあ はあ) バスに
 アタリヤー オマエ ソンガイガ ガイダラーガ (B 笑 ハー)
 当れば あんた 損害が 大きいだろうが (はあ)
 スィカタガナーテ アノ スィゾーサンノ ムコーデ ケー トンダ
 しかたがなくて あの 地蔵さんの 向うで つい 飛んだ
 ゲナワ。

そうだね。

B ヤー オジェコトジャッタネー (2) (A (笑いながら) ホホー)
 やあ 恐ろしいことだったねえ (ほほお)

ソイチャー。

そいつは。

A フー ホンテ サンクウイハンモ マクレテノー タニエ オツィタ
 ふん それで 三回半も ころがってね 谷へ 落ちた

ゲナガノー。

そうだがね。

B アララー マー ノシエテモラー⁽³⁾ チョラエデ ヨカッタナー。
あららあ まあ 乗せて貰ってなくて よかったなあ。

A モー スインデモ タラントコーダワナ。
もう 死んでも 足りないところだわな。

B アリャリャー ワケー モナー (A ウーン) ズイコ オコエテ
あれあれ 若い 者は (うん) 事故(を)起して
エケンダー。

いけないねえ。

A ウーン ズイドーシャワノー ヤーネ (B アー) メチャメチャ
うん 自動車はね まったく (ああ) めちゃめちゃ
ジャッタゲナガノー。

たったということだがねえ。

B アララー。
あららあ。

A ソーデモノー (B ハニ) エノツイ ホダー フロータゲナワー
それでもね (はあ) 命は 捨ったそうだが

(B ハハー) ホーン。
(ははあ) ほお。

B マー ホンナラ ソーデモ ダイブン エカッタホーダ。
まあ それなら それでも だいぶん よかったほうだ。

A マー マー ウンノ エー コダワ アノコワノー。
まあ まあ 運の よい 子だわ あの子はねえ。

B ハー ハー。 マー ムジャ ヤッチャー エケノワー。
はあ はあ。 まあ 無茶 やってはいけないわ。

A ウーン オジェ⁽⁴⁾コトダワ。
ううん 恐ろしい事だわ。

B アー マー ソリャー ホンネ。 (A ウーン) ヤレヤレ
ああ まあ それは ほんとに。 (ううん) やれやれ
オゾオゾ⁽⁵⁾。
恐ろしい恐ろしい。

注

- (1) 「コナ」は代名詞としてコナワ ワルイ ヤツダなど「アイツ」の意。この場合は呼びかけに用いている。「コナマエ」といえば「あの人」の意で、この場合は軽蔑の意はない。コナオマエ → コナマエとなったもの。単独の「コナ」という場合は軽蔑の気持が強い。
- (2)(4) 「オゾイ」、これから出た「オゼ」、「恐ろしい」の意で広く出雲地方に分布している。
- (3) 「モラーチョラエデ」の「モラー」はウ音便、「チョ」は「チョル」でテイル → チョル。この「チョル」が五段活用をなし、未然形「チョラ」に、打消の「イデ(エデ)」のついたもの。
- (5) 「オゾイ」を重ねて、「オゾオゾ」とよく言う。

12. 愛媛県越智郡伯方町木浦

話し手

(略号) (氏名) (性) (生年)

A 村上寿一 男 明治30年生まれ

B 山岡寅夫 男 明治42年生まれ

B ヤッタ。ヤッター。コンチワー。
 やった。 やった。 今日は!

A ン[↑]。オハヨー。
 ん。 お早う。

B エー。コングー (A オー。) ヒドイ コト ヤッタ デー。
 ええ。 今度は、 (おお。 えらい) こと(と) やった よ。

A ヤッタ。ヤッター。ホントニーンマイ コト ヤッタゲナノー。
 やった。 やった。 (ほんとうに。 うまい) こと(と) やった(うら)に ね。

B ソーヨ。ソーヨ。 (A ンー。) コンドノー ナンヨー。チョ
 えい よ。 えい よ。 (ん。 今度の 何 よ。 町長
 一⁽¹⁾チョーニ ナツテカラー ナンジャロー。 (A ンー。) マチモ
 い なるて 何(が)ん。 ん。 町

アカルク ナル カモワカラン。
 明るく なる かもわからない。

A ソー。ソー。 ホイ ドー ⁽²⁾ コンドコン コレデ モー コン キフ
 えい。 えい。 今度こそ これで ち。 こ 気分

一ガ カワルゾ。 (B ソー。) チョーノ ノー。
 が 変わるぞ。 (じ。) 町の ねえ。

B カワルト オモーガ ノー。 (A ンー。) ンー。
 変わると 思ひが ねえ。 (じん。) じん。

A ヨカッター。
 よかつた。

B ヨカッタ。ヨカッター。
 よかつた。 よかつた。

A ンー。ミンナガー チカラ イレックケン ノー。
 じん。 みんなが A(じ) 入れから ねえ。

B ソーヨ。 (A ンー。) ソーヨ。
 じよ よ。 (じん。) じよ よ。

A ソノケ⁽³⁾ーソイデ マー コーヨ = ナツタゲナー ノー。
xxxxxx
 ぞ け(か) それで ああ。 のように。 なったぞうだ ねえ。

B コンドノー ナンヨー。 チョーチョーニ ナツテカラー ナン
 今度の 何 よ。 町長に ねえから 何

ヨ。ミンナモ ナンヨ。ヨロコンドル ヨーナ フージャ。
 よ。 みんなも 何 よ。 喜んでいる ような ぶうだ。

注

- (1) 昭和52年3月3日におこなわれた伯方町の町長選挙で選出された新町長。
- (2) 内燃する実感がこみあげてくるのか、ことばが乱れている。
- (3) ケー……「け、か(結果)」と言いかけて、「け」だけでとどめ、別の言い方に改めた。

13. 高知県南国市岡豊町滝本

話し手

(略号) (氏名) (性) (生 年)

A 山崎 貢 男 大正10年生まれ

B 山崎春井 男 明治35年生まれ

A オイ サンヤチ オンヤ一 ケサノ シンブンオ ミタカ。
 おい 三 吉 貴様は今朝の新聞を見にか。

B ナンナラヤ。オラー マンダ ⁽¹⁾ ミ ミチヨ ランガ ナンゾ カー
 何なのかい。おれは まだ 見^タ 見てないの。何か 変
 ッタ ニュースデモ ンデチョ ッタカヤ。
 った ニュース ても 出てない。

A カーッタモ カーランモ オンヤ一 ぶト オンドロク タメ
 変 たい 変^(い) るかい(い) 貴様 おと おどろく 為
 ゴロー。イマンダ オンヤ一 キイタ コトモ ナイヨーナ
 五郎。いまだ 貴様 聞いた ことも 無いような
 ニュースヨヤ。
 ニュースさ。

B マー ソンナニ コーファンセント オチツイテ ハナシテ ミヨヤ
 まあ そんなに 興奮しないで 落ちついて 話して みよ
 。
 。

A コーファンスタ ユータチ オンヤ一 コーファンセズニ オレルカ。
 興奮するほど言^(い) いて 貴様 興奮せずに 居れるかい。

アノ オンシャ - マルヤマノ サンキチンガ オクマンヲ - ジ
あの 貴様 丸山の 三吉が 億万長者
ヤニ ナッタト ユー コトゾ。 ソンデ オンシャ - クミンヂ
に なったと いう ことぞ。 それで 貴様 組中
ユ-ノガ ウエヤ シタエノ オンシャ - オーソ-ノド-ヨヤ。
お 上や 下への 貴様 大騒動さ。

B ソリヤ マタ ノド- シタ コトナラヤ。
それは また どうした ことなのかい。

A アノ サンキチノ オンヂサンノ サンタサンヨネヤ。
あの 三吉の おじさんの 三太さん[なあ]。

B ン- アノ サンタサンガ ノド-カ シタカヤ。
うん あの 三太さんが どうしたのか。

A ノド-モ コ-モ アルカヤ。 サンタサンワ オンシモ シツチ
どうも こうも あるかい。 三太さんは 貴様も 知って
ユル ト-リ ベイコク⁽²⁾デ コ-ヒー サイバイオ ヤリヨツタ
る とおり 米回 中 コ-ヒー 栽培 していた
ンガ ソノ ジンギ-ノガ アタツテ オンシャ - オクマンヲ
お その 事業が 当って 貴様 億万長
-シ = ナッタツツガ。
者に なって 来たのか。

B ン-。
うん。

A ソレノガ オンシャ - キュ-ビ-ノデ ポツ コリ シンデネキ
それが 貴様 急病 で不意に 死んでさ
。 ノダレツキ - ソ-ゾクニンガ オラインデ アノ マルヤ
。 誰も 相続人が 居なくて あの 丸山

マノ サンキチン ガ ソーゾクニシニ テ サンタサンノ オ
の 三吉 が 相続人 に なり 三太さんの 貴
ンシヤ - ガイサンガ スコトン サンキチニ コロンガリコーン
様 財産が 全部 三吉に ころがりこん
で キテネヤ サンキチン - オンシヤ - オーンガネモヲヨヤ
で 来てさ 三吉は 貴様 大金 持よ

B ソリヤ ホントーカヤ。
それは ほんとうか。

A ホントーカ。 ウソカ。 ホントーモ ウソモ アルカ。 ケサノ
ほんとうか。 うそか。 ほんとうも うそも あるか。 今朝の
シンブンオ ミテ ミヨ。
新聞と 見て みよ。

B ソーカ。 ソレンガ ホントナラ ンダイシタ モンギンガ サ
そうか。 それが ほんとうなら たいした ものだが 三
ンキチン メオ マーシヤ - センカヤ。
吉は 目を まわしては いないか。

A ソレンガ オンシヤ - キュ - ンギンキニ サンキチモ アンガイ
それが 貴様 急 だから 三吉も 案外
ケロット シヤ ラヤ。
けろつと していら。

B ンキニ。 - マンデ ヒヨー シヨッタ モンガ ボッ コリ オ
うん 昨日まで 日 備していた 者が 不意に 億
クマン者 - 等ニ ナタト ユータラ ピント コナイローネ
万長者 に なると 言たら ぴんと 来ないだろうな

ヤ。

わ。

A オタンガイニ オクト ユー カニャー ムメニサエ ミタ コト
おたのいには 億と いう 金は 夢にさえ 見たこと

ンガ ナインガ ヒトノ ウント ユー モナ ワカラン モンヂ
が 無いが 人の 運と いう ものは わからぬ ものだ

ャーネヤ。

なあ。

B マー ソー ングテオ ユーナヨ。 オタンガイニ イツ ンボン
まあ そう 愚痴を 言うなよ。 おたのいには いつ どん

ナ コーウンガ ンマイコンデ クルカモ ワカランガ オクマン
な 好運が 無いこんで 来るかも わからぬが 億万

チョージャ = ナルヤラモ ワカラン。 マー キナシガニ マツ
長者に なるやしも わからぬ、 まあ 気長に 待つ

コトヨネー。

ことよねえ。

A アテニャー ナランネヤ。 (B, A 笑)
あてには なるないなあ。

注記

(1) ナラは断定の助動詞「なり」と間違あるか。

(2) コーヒー サイバイとつづけて書くことも考えられる。むしろこの方が妥当か。

14. 長崎県西彼杵郡琴海町尾戸郷

話し手

(略号) (氏名) (性) (生年)

A 平尾忠太郎 男 明治31年生まれ

B 山崎政右衛門 男 明治30年生まれ

A ⁽¹⁾ ヨイ オン ナー
よい おる かね。

B ハー。
はい。

A ココン コドミヤ (B アー) ネヤ。 マー ヨンベァ
この 息子は (ああ) ねえ。 まあ 昨夜は

⁽²⁾ アミネヤ イカン トー。
漁には 行かないのかい。

B ⁽³⁾ ア イカイタ。
あ 出かけた。

A ⁽⁴⁾ イカイタッテ ヤー。
出かけたって ねえ。

B ~~~~~ ⁽⁵⁾ ハヨ ⁽⁶⁾ ハッテ コライター。
早く 急いで 帰ってきた。

A オー。 タケナカドモニヤ ヨンベァ テマーノイオノ フトカト
おう。 竹中たちは 昨夜は 鯛の 大きいの
バ ゴンマイモ トッテ キタチューテ マー ココン コドミヤ
を 5枚も とって 来たと言うのに まあ この 息子は

ドーシタ モンジャイロ ニヤー。 リョーノ シミチバ シラ
どうした ものだらう ねえ。 漁 の 仕方を 知ら

ントヤ ザイニヤ。マー。
ないのだよねえ。 まあ。

B サー ゴンマイモッチャ ソリヤー (A笑) アンマル フト
さあ 5枚もってば それは あまりに(話か)太

カトン ネヤー。 ドーシテ。
きすぎる ねえ。 どうして。

A ムラマツムリヤー オッタチュ モン。 ソルガー。
村松村に おったというもの。 それか。

B ムラマツムリヤー オッタケン ユータッチャ ソリヤー マーダ
村松村に おったからと言ったって それは まだ

キテ ミンバ ワカラン。
来て みなければわからない。

A (笑) ソギャン アレ ヒョーバン バーン。 ソッデン。
それほどに あれ 評判だよ。 それでも。

B アリヤ アリヤ フト ユートジャルケン フテバカー シェンミ⁽⁷⁾
××××× あれは 大きく 言うのだから (話か)大きいばかりで

ツジャルケンカ アルガ ユー コター ワカラン テ。 (A笑)
大嘘つきだから あれが 言う ことは わからないよ。

注記

- (1) 「ヨイ」は、呼びかけことば。
- (2) 当地では、漁に行くことを「アミニ イク」と言う。
- (3) 「イカイタ」は、「イカシタ」の音変化（イ音便）であるが、敬意をほとんど含まない。話者が、自分の息子について使っているのでもそれは明らか。これは、むしろ、ことばつきと、ていねいに言おうとする方向に、本来の尊敬語を利用している現象とも言えよう。(4)、(6)のものも同じ。
- (5) 「ハッテ」は、「急いで」に当る。ここでは、「途中で(り)帰る」の意味になる。
- (7) 「シェンミツ」は、1000に3つしか、ほんとうのこと言わない。「大嘘つき」の意。

な は しゅりり
沖縄県那覇市首里

収録・文字化担当者 中松竹雄

- 1 地点名 沖縄県那覇市首里
- 2 タイトル 「あいさつ」「子供の日の玩具市で」「結婚のうわさ話」
- 3 録音年月日 昭和56年5月3日
- 4 録音場所 高宮城氏宅
- 5 話し手

真栄平房敬 (男) 大正10年生まれ

首里の旧家真栄平家に生まれ、父子二代にわたり、旧王族中城御殿につかえる。県立第一中学校・県立師範学校卒業後、市内の各中学校教諭をつとめるかたわら、郷土文化の研究に従事。はえぬきの首里士族、中城御殿に出入りをゆるされ、貴族語に通じる。首里を離れたことがない。発音もはっきりし、首里語らしい特徴をよく体現しておられる。

尚 詮 (男) 大正15年生まれ

琉球最後の国王、尚泰の孫に当る。尚順男爵の嫡子、松山御殿当主、桃園農園社長。沖縄県中小企業団体連合会会長のほか、多くの会社・団体・委員会等の役職をつとめる。宇都宮大学農学部園芸学科に学ぶほかは、ほとんど首里の地を離れたことがない。首里貴族語の話者としての第一人者。日常の生活語の中で貴族語を用いるのはもとより、公共の場・集会・講演会・演舌会場などにおいても、流暢な貴族語を話す。英明で人望も厚い。

高宮城恵子 (女) 大正4年生まれ

尚泰王の孫娘に当る。尚順男爵の娘、尚詮氏の姉。松山御殿で生育の後、結婚後は首里当蔵町に居住。音量が大きく、由緒正しい首里貴族語の伝承者の一人。

知名 茂子 (女) 大正6年生まれ

尚泰王の孫娘に当る。尚順男爵の娘。尚詮氏の次姉。松山御殿で生育の後、結婚後は同じ町内に居住。知性的で記憶力にすぐれ、はぎれの良い貴族語を話す。

6 録音環境

良好なり。閑静な首里の城下町。

首里方言談話資料の作成に協力して下さった尚詮様・高宮城恵子様・知名茂子様は旧貴族の出身であり、いわゆる首里貴族語の話者である。真栄平房敬様は旧士族の出身であるが、中城御殿の要人として父子二代にわたって出入りがゆるされ、貴族語の環境の中で生育された方であり、首里貴族語の話者としては、私の知るかぎり、最もすぐれた伝承者の一人であると認められる。よって、ここでは、四者がチームをつくり、それぞれの場面を首里貴族語として不自然にならないように、最大の考慮をはらいつつ、設定し、突演していただいた。

貴族語の談話を、このような形で実現できたのは、四氏の琉球文化保存に対する熱意のたまものであり、この方々をおいて、ほかには、不可能である。

その意味で、この談話資料は、首里貴族語についての唯一無二のものである。

7 収録地点の概観・収録した方言の特色などについては、『方言談話資料(6)』を参照。

5. あいさつ

話し手

(略号)	(氏名)	(性)	(生年)
A	真栄平房敬	男	大正10年生まれ
B	尚 詮	男	大正15年生まれ

A juʃirijabitan⁽¹⁾
ごめんください。

B tʃe:saja: ʔire:⁽²⁾
おやお入り。

A ʔu: ʃidu:gaʔu: ʔadzidzanaʃi:me:ʔuhadzimi⁽³⁾⁽⁴⁾
はい。ありがとうございます。御主人様 はじめ

gusu:jo: ʔubukundzanaʃi: ʔujanʃe:bi:ti:
御皆様 お健やかに あられましたか。

B ʔi: ʔitta:N ʔukura:sa so:ti:⁽⁵⁾⁽⁶⁾
うん。君たちも 達者であったかね。

A ʔu: ʃidu:gaʔu: nage: nuntʃi ʔugami:gan
はい。ありがとうございます。永く 御気嫌うかがいにも

juʃiriju:sabiran ʔusuri ʔittʃo:ibi:N
参上することができません。恐縮いたしております。

B ʔn: nna ʔitʃunasa sukutuja: ʔiʔina: ku:jo:⁽⁷⁾
んー みんな 忙しくしているからね。たまにはいらっしゃいな。

A ʔu:⁽⁸⁾ ʃidu:gaʔu:
はい。ありがとうございます。

注

- (1) あいさつ語。
- (2) あいさつ語。
- (3) あいさつ語。目下から目上に対して用いる。
- (4) [ʔadzidzanaʃi:me:] の語源は、[ʔadzi] <按司> 領主の意、本土の大名に相当するか。[-dzanaʃi:] は [kanaʃi:] の有声化した語形「加那志」を当てるが、美称の接尾辞。[me:] は「御前」などの [mae] から音韻変化したもの。ae > e: と変化する（二重母音の長母音化現象）美称や敬意の接尾辞。転じて、貴族階級の主人の意に用いられる。
- (5)(7) 応答語。目上の者から目下の者に対して用いられる。
- (6) [ʔitta:] 君たち。二人称複数代名詞。同輩以下の者に対して用いられる。
- (8) 応答語。目下の者から目上の者に対して用いられる。

6. 子供の日の玩具市で

話し手

(略号)	(氏名)	(性)	(生年)
A	真栄平房敬	男	大正10年生まれ
B	知名 茂子	女	大正6年生まれ
C	尚 詮	男	大正15年生まれ

A ʔutʃe:ŋʃe:biti:⁽¹⁾
いらっしゃいませ。

B tʃu:ja jukkanuʔi:nditʃi ʔumingwanume:⁽²⁾⁽³⁾
今日は 子供の日 と言って お坊っちゃんを
ʔutumu ʔugadi tʃo:nde:
お供して きましたよ。

A nu: ʔusagijabi:gaja:
何を さし上げましょうかね。

C ʔana:⁽⁴⁾ ʔanu ʔuttʃirikubusa: ko:igaja:
下女よ。 あの 張り子のタルマを 買うかね。

B tʃintʃimʔimmagwa:du ʔumasi jaje:sabirani
チンチンお馬が よいのではないのでしょうか。

A dʒi:ro: ʔumasi jamise:bi:gaja: ʔumingwanume:ja
どれが よろしいのでしょうか。 お坊っちゃんは

ʔwi:kutʃi ʔunaŋʃe:bi:ga
おいっつに なられますか。

B ʔumi:tʃi ʔujanse:nde:
御三歳に なられますよ。

A ʔaŋʃe: tʃintʃimʔmmagwa:du ʔumaʃi ʔujanʃe:
それでは チンチンお馬が いいのでは

sabirani ʔumingwanune: sa:ri kuri
ありませんか。 お坊っちゃん！ これを

ʔusagijabirana
さし上げましょうか。

C ʔi: ʔurijatin ʃimusa
はい。 それでも いいよ。

注

- (1) あいさつ語。尊敬語。貴族・士族に対して用いられる。いらっしゃい。
- (2) [jukkanuʔi:] <四日の日>旧暦5月4日。子供の日。男子はこの日、首里那覇の子供は玩具市(首里は龍潭池畔で)(那覇は久米町の孔子廟の周辺で)に出かけ、張り子の玩具を買ってもらい、楽しむ行事が戦前まであった。
玩具には、「チンチン馬」^マ、「シシ舞い」^マ、「闘鶏」^{タワチー}、「闘牛」^マ、「ジュリ馬人形」^{アジ}、「按司」^{サル}、「猿」^{ホト}、「鳩」^{ホト}や面[ha:tʃibura:]^マ 凧[taku]手まり[ma:i] ソテツの実で作った笛・鈴などのおもちゃ、カジマヤ(風車)、竹トンボ、など多種多様である。
- (3) [ʔumingwa] お坊っちゃん、お嬢ちゃん。他人の子供に敬意を表して用いる尊敬語。[nu]は格助詞「の」、[-me:]は敬意の接尾辞。
- (4) [ʔana:] 乳母や女中、下女の意。高貴な家につかえる女の意。

7. 結婚のうわさ話

話し手

(略号)	(氏名)	(性)	(生年)
A	高宮城恵子	女	大正4年生まれ
B	知名茂子	女	大正6年生まれ

A bitʃikaidu ʔutʃe:ŋʃe:bi:rui⁽¹⁾
お出かけでございますか。

B ʔu: gusu:jo: ʔubuku ʔubukura:sa ʔujanʃe:-
はい。皆様は お元気で いらっしやい
bi:mi
ますか。

A mi:ʔudunnu⁽²⁾ to:to:gwa:ja⁽³⁾ kunuʔutʃi gukunri:
新御殿の 御嬢様は 近々 御婚礼
miʃe:bi:ndija:
なさいますそうですね。

B ʔu: ʔaŋ ʔujanʃe:bi:ndi
はい。そう た"ということですね。

A ma:nu ʔuhanajumi namiʃe:bi:gaja:
どこの 御花嫁に なられますか。

B tamagusikuʔudunnu⁽⁴⁾ gudzinannu ʔwe:jumi
玉城御殿の 御次男の 花嫁に

Zunanŋe:bi:ndi
なられるそうです。

A gudzinano: Zwi:kutŋi Zunanŋe:bi:gaja:
御次男は おいくつに なられるのでしょうか。

B Zunindzu:ŋitŋi Zujanŋe:bi:ndi miΦuduntŋa:gi
御二十七歳に なられるようです。 体格も

Zutŋati suguri Zumingwa Zujanŋe:bi:ndi
ご立派で 優れた 御子様 であられるようです。

A ji: gujŋ Zujanŋe:bi:saja:
良縁で ございますね。

B Zan Zujanŋe:bi:ŋja:
そうでございますね。

注

- (1) あいさつ語。今日は、正式なあいさつ言葉。最近よく使用されているあいさつ語に〔ma:kaiga〕<どこにか>というのがあるが、それはあやまった用法というか、野卑な表現であって、あいさつ語としては普及してほしくない。
- (2) 〔mi:Zudun〕<新御殿> 松山御殿から分家した新しい御殿であることから、この名がある。当主は尚静子様である。
- (3) 〔to:to:gwa:] 上層階級の娘。お嬢様。
- (4) 〔tamaguŋiku-Zudun〕玉城御殿。近世、琉球において、総地頭中の王子地頭および按司地頭の邸宅を「御殿^{おとん}」と敬称した。玉城は「たまぐすく」と表記し〔tamaguŋiku〕といい、沖縄を代表する氏姓の一つ。

玉城御殿は首里区赤平町に所在した。名門の一つ。

販売価格

	16%カラー	VTRカラー(3/4インチ)	VTRカラー(1/2インチ)
全巻セット	¥ 720,000	¥ 480,000	¥ 384,000
各ユニット	¥ 112,500	¥ 75,000	¥ 60,000
各巻	¥ 30,000	¥ 20,000	¥ 16,000

第一巻～第3巻は文化庁との共同企画

*については日本語教育映画解説の冊子がある。

日本語教育映画 関連教材・資料 (株)ビスコ販売)

日本語教育映画 基礎編 教師用マニュアル (全6分冊)	各分冊	1,000円
日本語教育映画 基礎編 練習帳 (全6分冊)	"	500円
日本語教育映画 基礎編 シナリオ集 (全1冊)		1,000円
日本語教育映画 基礎編 総合語彙表 (全1冊)		1,500円
日本語教育映画 基礎編 総合文型表 (全1冊)		1,500円
映像教材による教育の現状と可能性 (全1冊)		
日本語教育映画ワークショップ報告	日本シネセル社刊	2,500円

日本語教育映画教材中級編一覧

(各巻ビデオおよび16ミリカラー、約5分、日本シネセル社販売)

セグメント	題名	制作年度(昭和)
ユニット1	初めて会う人と 一紹介・あいさつ一	
1	自己紹介をする 一会社の歓迎会で一	61
2	人を紹介する 一訪問先の応接室で一	61
3	友人に出会う 一喫茶店で一	61
4	面会の約束をする 一電話で一	61
5	道をきく 一交番で一	61
6	会社を訪問する 一受付と応接室で一	61

販売価格

	16%カラー	VTRカラー(3/4インチ)	VTRカラー(1/2インチ)
各ユニット	¥ 157,500	¥ 90,000	¥ 70,000
各セグメント	¥ 35,000	¥ 35,000	¥ 28,000

日本語教育映画基礎編一覧

(各巻ビデオおよび16ミリカラー, 5分~8分, 日本シネセル社販売)

巻	題名	制作年度(昭和)
ユニット1		
1*	これは かえるです —「こそあど」+「は~です」—	49
2*	さいふは どこに ありますか —「こそあど」+「~がある」—	49
3*	やすすくないです, たかいです —形容詞—	49
4*	きりんは どこにいますか —「いる」「ある」—	51
5*	なにを しましたか —動詞—	50
ユニット2		
6*	しずかな こうえんで —形容動詞—	50
7*	さあ, かぞえましょう —助数詞—	50
8*	どちらが すきですか —比較・程度の表現—	52
9*	かまくらを あるきます —移動の表現—	51
10*	もみじが とても きれいでした —です, でした, でしょう—	52
ユニット3		
11*	きょうは あめが ふっています —して, している, していた—	52
12*	そうじは してありますか —してある, しておく, してしまう—	53
13*	おみまいに いきませんか —依頼・勧誘の表現—	53
14*	なみのおとが きこえてきます —「いく」「くる」—	53
15*	うつくしい さらに なりました —「なる」「する」—	50
ユニット4		
16*	みずうみのえを かいたことが ありますか —経験・予定の表現—	54
17*	あのいわまで およげますか —可能の表現—	54
18*	よみせを みに いきたいです —意志・希望の表現—	54
19*	てんきが いいから さんぽを しましょう —原因・理由の表現—	55
20*	さくらが きれいだそうです —伝聞・様態の表現—	55
ユニット5		
21*	おけいこを みに いっても いいですか —許可・禁止の表現—	56
22*	あそこに のぼれば うみがみえます —条件の表現1—	56
23*	いえが たくさんあるのに とてもしずかです —条件の表現2—	56
24*	おかねを とられました —受身の表現1—	51
25*	あめに ふられて こまりました —受身の表現2—	55
ユニット6		
26	このきっぷを あげます —やり・もらいの表現1—	57
27	にもつを もって もらいました —やり・もらいの表現2—	57
28	てつだいを させました —使役の表現—	57
29*	よく いらっしゃいました —待遇表現1—	58
30*	せんせいを おたずねします —待遇表現2—	58

10	昭和33年度	品切れ	20	昭和43年度	品切れ	30	昭和53年版	800円
11	昭和34年度	〃	21	昭和44年度	〃	31	昭和54年版	1,200円
12	昭和35年度	〃	22	昭和45年度	〃	32	昭和55年版	1,300円
13	昭和36年度	〃	23	昭和46年度	450円	33	昭和56年版	1,300円
14	昭和37年度	〃	24	昭和47年度	品切れ	34	昭和57年版	2,000円
15	昭和38年度	250円	25	昭和48年度	〃	35	昭和58年版	2,200円
16	昭和39年度	品切れ	26	昭和49年度	〃	36	昭和59年版	2,700円
17	昭和40年度	〃	27	昭和50年度	700円	37	昭和60年版	2,700円
18	昭和41年度	300円	28	昭和51年度	非売品			
19	昭和42年度	300円	29	昭和52年度	〃			

国 語 年 鑑 秀英出版刊

昭和29年版	品切れ	昭和40年版	品切れ	昭和51年版	4,000円
昭和30年版	〃	昭和41年版	〃	昭和52年版	品切れ
昭和31年版	〃	昭和42年版	〃	昭和53年版	〃
昭和32年版	〃	昭和43年版	〃	昭和54年版	〃
昭和33年版	〃	昭和44年版	〃	昭和55年版	〃
昭和34年版	〃	昭和45年版	〃	昭和56年版	〃
昭和35年版	〃	昭和46年版	2,000円	昭和57年版	5,500円
昭和36年版	〃	昭和47年版	2,200円	昭和58年版	5,500円
昭和37年版	〃	昭和48年版	品切れ	昭和59年版	5,800円
昭和38年版	〃	昭和49年版	3,800円	昭和60年版	5,800円
昭和39年版	〃	昭和50年版	品切れ	昭和61年版	7,800円

高 校 生 と 新 聞	国立国語研究所 日本新聞協会 共編	秀英出版刊	280円
青年とマス・コミュニケーション	日本新聞協会 国立国語研究所 共著	金沢書店刊	品切れ
国立国語研究所三十年のあゆみ	——研究業績の紹介——	秀英出版刊	1,500円

日本語教育教材

1	日本語と日本語教育	国立国語研究所 文化庁 共編	大蔵省印刷局刊	700円
	——発音・表現編——			
2	日本語と日本語教育	——文字・表現編——	〃	850円
3	日本語の文法(上)	—日本語教育指導参考書4—	〃	450円
4	日本語の文法(下)	〃 5—	〃	550円
5	日本語教育の評価法	〃 6—	〃	700円
6	中・上級の教授法	〃 7—	〃	500円
7	日本語の指示詞	〃 8—	〃	500円
8	日本語教育基本語彙比較対照表	〃 9—	〃	1,000円
9	日本語教育参考文献一覧	〃 10—	〃	1,400円
10	談話の研究と教育 I	〃 11—	〃	550円
11	語彙の研究と教育(上)	〃 12—	〃	600円
12	語彙の研究と教育(下)	〃 13—	〃	700円

5	沖繩語辞典	大蔵省印刷局刊	4,300円
6	分類語彙表	秀英出版刊	1,800円
7	動詞・形容詞問題語用例集	〃	1,700円
8	現代新聞の漢字調査(中間報告)	〃	品切れ
9	牛店安愚楽鍋用語索引	〃	1,500円
10	方言談話資料(1)——山形・群馬・長野——	〃	6,000円
10-2	方言談話資料(2)——奈良・高知・長崎——	〃	6,000円
10-3	方言談話資料(3)——青森・新潟・愛知——	〃	6,000円
10-4	方言談話資料(4)——福井・京都・島根——	〃	6,000円
10-5	方言談話資料(5)——岩手・宮城・千葉・静岡——	〃	6,000円
10-6	方言談話資料(6)——鳥取・愛媛・宮崎・沖縄——	〃	6,000円
10-7	方言談話資料(7)——老年層と若年層との会話—— 青森・岩手・新潟・千葉・静岡・長野・愛知・福井	〃	6,000円
10-8	方言談話資料(8)——老年層と若年層との会話—— 群馬・奈良・鳥取・島根・愛媛・高知・長崎・沖縄	〃	6,000円
10-9	方言談話資料(9)——場面設定の対話——	〃	6,000円
11	日本語地函語形索引	大蔵省印刷局刊	1,500円

国立国語研究所国語辞典編集資料

1	国定読本用語総覧 1 第1期(あ～ん) ——『尋常小学読本』明治37年度以降使用——	三省堂刊	25,000円
2	国定読本用語総覧 2 第2期(あ～て) ——『尋常小学読本』明治42年度以降使用——	〃	28,000円

言語処理データ集

1	高校教科書 ——文脈付き用語索引——	日本マイクロ写真	35,000円
---	--------------------	----------	---------

国立国語研究所研究部資料

1	幼児のこたば資料(1)——2歳・3歳誕生日のこたばの記録——	秀英出版刊	3,800円
1-2	幼児のこたば資料(2)——4歳誕生日のこたばの記録——	〃	3,800円
1-3	幼児のこたば資料(3)——1歳児のこたばの記録——	〃	6,000円
1-4	幼児のこたば資料(4)——2歳児のこたばの記録——	〃	6,000円
1-5	幼児のこたば資料(5)——3歳前半のこたばの記録——	〃	6,000円
1-6	幼児のこたば資料(6)——3歳後半のこたばの記録——	〃	6,000円

国立国語研究所論集

1	こたばの研究	秀英出版刊	品切れ
2	こたばの研究 第2集	〃	〃
3	こたばの研究 第3集	〃	〃
4	こたばの研究 第4集	〃	〃
5	こたばの研究 第5集	〃	1,300円

国立国語研究所年報 秀英出版刊

1	昭和24年度	品切れ	4	昭和27年度	160円	7	昭和30年度	品切れ
2	昭和25年度	〃	5	昭和28年度	品切れ	8	昭和31年度	〃
3	昭和26年度	〃	6	昭和29年度	〃	9	昭和32年度	〃

59	電子計算機による国語研究(VIII)	秀英出版刊	1,300円
60	X線映画資料による母音の発音の研究 ——フォネーム研究序説——	〃	2,500円
61	電子計算機による国語研究(IX)	〃	品切れ
62	研究報告集(1)	〃	1,700円
63	児童の表現力と作文	東京書籍刊	6,000円
64	各地方言親族語彙の言語社会学的研究(1)	秀英出版刊	2,000円
65	研究報告集(2)	〃	3,000円
66	幼児の語彙能力	東京書籍刊	8,000円
67	電子計算機による国語研究(X)	秀英出版刊	1,500円
68	専門語の諸問題	〃	4,000円
69	幼児・児童の連想語彙表	東京書籍刊	6,800円
70-1	大都市の言語生活(分析編)	三省堂刊	7,800円
70-2	大都市の言語生活(資料編)	〃	12,000円
71	研究報告集(3)	秀英出版刊	4,800円
72	幼児・児童の概念形成と言語	東京書籍刊	6,800円
73	企業の中の敬語	三省堂刊	9,500円
74	研究報告集(4)	秀英出版刊	4,200円
75	現代表記のゆれ	〃	品切れ
76	高校教科書の語彙調査	〃	5,000円
77	敬語と敬語意識 ——岡崎における20年前との比較——	三省堂刊	8,000円
78	日本語教育のための基本語彙調査	秀英出版刊	6,000円
79	研究報告集(5)	〃	4,200円
80	言語行動における日独比較	三省堂刊	8,000円
81	高校教科書の語彙調査(2)	秀英出版刊	5,000円
82	現代日本語動詞のアスペクトとテンス	〃	5,000円
83	研究報告集(6)	〃	4,200円
84	方言の諸相 —『日本語地図』検証調査報告—	三省堂刊	9,800円
85	研究報告集(7)	秀英出版刊	4,000円
86	社会変化と敬語行動の標準	〃	9,000円
87	中学校教科書の語彙調査	〃	5,000円
88	日独仏西基本語彙対照表	〃	8,500円
89	雑誌用語の変遷	〃	7,000円
90	研究報告集(8)	〃	3,000円
91	中学校教科書の語彙調査II	〃	5,000円
92	談話行動の諸相 ——座談資料の分析——	三省堂刊	2,800円

国立国語研究所資料集

1	国語関係刊行書目(昭和17~24年)	秀英出版刊	品切れ
2	語彙調査 ——現代新聞用語の一例——	〃	〃
3	送り仮名法資料集	〃	〃
4	明治以降国語学関係刊行書目	〃	〃

30-3	日 本 言 語 地 図 (3)	大蔵省印刷局刊	品切れ
	日 本 言 語 地 図 (3) <縮刷版>	〃	17,000円
30-4	日 本 言 語 地 図 (4)	〃	品切れ
	日 本 言 語 地 図 (4) <縮刷版>	〃	17,000円
30-5	日 本 言 語 地 図 (5)	〃	品切れ
	日 本 言 語 地 図 (5) <縮刷版>	〃	17,000円
30-6	日 本 言 語 地 図 (6)	〃	品切れ
	日 本 言 語 地 図 (6) <縮刷版>	〃	17,000円
31	電 子 計 算 機 に よ る 国 語 研 究	秀英出版刊	品切れ
32	社会構造と言語の関係についての基礎的研究(1) ——親族語彙と社会構造——	〃	〃
33	家庭における子どものコミュニケーション意識	〃	350円
34	電 子 計 算 機 に よ る 国 語 研 究 (II) ——新聞の用語用字調査の処理組織——	〃	品切れ
35	社会構造と言語の関係についての基礎的研究(2) ——マキ・マケと親族呼称——	〃	〃
36	中学生の漢字習得に関する研究	〃	〃
37	電子計算機による新聞の語彙調査	〃	〃
38	電子計算機による新聞の語彙調査(II)	〃	〃
39	電子計算機による国語研究(III)	〃	〃
40	送 り が な 意 識 の 調 査	〃	1,500円
41	待 遇 表 現 の 実 態 ——松江24時間調査資料から——	〃	品切れ
42	電子計算機による新聞の語彙調査(III)	〃	1,200円
43	動詞の意味・用法の記述的研究	〃	6,000円
44	形容詞の意味・用法の記述的研究	〃	4,000円
45	幼 児 の 読 み 書 き 能 力	東京書籍刊	4,500円
46	電子計算機による国語研究(IV)	秀英出版刊	700円
47	社会構造と言語の関係についての基礎的研究(3) ——性向語彙と価値観——	〃	700円
48	電子計算機による新聞の語彙調査(IV)	〃	3,000円
49	電子計算機による国語研究(V)	〃	900円
50	幼 児 の 文 構 造 の 発 達 ——3歳～6歳児の場合——	〃	品切れ
51	電子計算機による国語研究(VI)	〃	1,000円
52	地 域 社 会 の 言 語 生 活 ——鶴岡における20年前との比較——	〃	1,800円
53	言 語 使 用 の 変 遷 (1) ——福島県北部地域の面接調査——	〃	2,500円
54	電子計算機による国語研究(VII)	〃	1,000円
55	幼 児 語 の 形 態 論 的 な 分 析 ——動詞・形容詞・述語名詞——	〃	品切れ
56	現 代 新 聞 の 漢 字	〃	6,000円
57	比 喩 表 現 の 理 論 と 分 類	〃	6,000円
58	幼 児 の 文 法 能 力	東京書籍刊	5,500円

国立国語研究所刊行書一覽

国立国語研究所報告

1	八丈島の言語調査	秀英出版刊	品切れ
2	言語生活の実態 ——白河市および付近の農村における——	”	”
3	現代語の助詞・助動詞 ——用法と実例——	”	2,000円
4	婦人雑誌の用語 ——現代語の語彙調査——	”	品切れ
5	地域社会の言語生活 ——鶴岡における実態調査——	”	”
6	少年と新聞 ——小学生・中学生の新聞への接近と理解——	”	”
7	入門期の言語能力	”	”
8	談話語の実態	”	”
9	読みの実験的研究 ——音読にあらわれた読みあやまりの分析——	”	”
10	低学年の読み書き能力	”	”
11	敬語と敬語意識	”	”
12	総合雑誌の用語(前編) —現代語の語彙調査—	”	”
13	総合雑誌の用語(後編) —現代語の語彙調査—	”	”
14	中学年の読み書き能力	”	”
15	明治初期の新聞の用語	”	”
16	日本方言の記述的研究	明治書院刊	”
17	高学年の読み書き能力	秀英出版刊	”
18	話しことばの文型(1) ——対話資料による研究——	”	2,000円
19	総合雑誌の用字	”	品切れ
20	同音語の研究	”	”
21	現代雑誌九十種の用語用字(1) ——総記および語彙表——	”	3,000円
22	現代雑誌九十種の用語用字(2) ——漢字表——	”	3,000円
23	話しことばの文型(2) ——独話資料による研究——	”	2,000円
24	横組みの字型に関する研究	”	品切れ
25	現代雑誌九十種の用語用字(3) ——分析——	”	3,000円
26	小学生の言語能力の発達	明治図書刊	品切れ
27	共通語化の過程 ——北海道における親子三代のことば——	秀英出版刊	”
28	類義語の研究	”	”
29	戦後の国民各層の文字生活	”	400円
30-1	日本語地図(1)	大蔵省印刷局刊	品切れ
	日本語地図(1) <縮刷版>	”	17,000円
30-2	日本語地図(2)	”	品切れ
	日本語地図(2) <縮刷版>	”	17,000円

昭和62年 6 月

国立国語研究所

〒115 東京都北区西が丘3丁目9番14号
電 話 東 京 (900) 3111(代表)

UDC 809.56-087

NDC 818

本書の市販品発行所

〔〒162〕東京都新宿区納戸町40 (03-260-5281)

株式会社 秀英出版

NATIONAL LANGUAGE RESEARCH INSTITUTE PUBLICATION

SOURCE X-X

TEXTS OF TAPE-RECORDED CONVERSATIONS
IN JAPANESE DIALECTS

(Volume 10)

DIALOGUES IN SET UP SCENARIOS

CONTENTS

Foreword

Purpose and Outline

Text

Part 5 ; "Where is your husband?"

AOMORI PREF., GUNMA PREF., TIBA PREF., NIIGATA PREF.,
NAGANO PREF., SIZUOKA PREF., AITI PREF., HUKUI PREF.,
NARA PREF., TOTTORI PREF., SIMANE PREF., EHIME PREF.,
KOOTI PREF., NAGASAKI PREF.

Part 6 ; Small talk between two women

AOMORI PREF., GUNMA PREF., TIBA PREF., NIIGATA PREF.,
NAGANO PREF., SIZUOKA PREF., AITI PREF., HUKUI PREF.,
NARA PREF., TOTTORI PREF., SIMANE PREF., EHIME PREF.,
KOOTI PREF., NAGASAKI PREF.

Part 7 ; A chat between two men belonging to different social classes

AOMORI PREF., GUNMA PREF., TIBA PREF., NIIGATA PREF.,
NAGANO PREF., SIZUOKA PREF., AITI PREF., HUKUI PREF.,
NARA PREF., TOTTORI PREF., SIMANE PREF., EHIME PREF.,
KOOTI PREF., NAGASAKI PREF.

Part 8 ; Gossiping

AOMORI PREF., GUNMA PREF., TIBA PREF., NIIGATA PREF.,
NAGANO PREF., SIZUOKA PREF., AITI PREF., HUKUI PREF.,
NARA PREF., TOTTORI PREF., SIMANE PREF., EHIME PREF.,
KOOTI PREF., NAGASAKI PREF.

OKINAWA PREFECTURE

Geetings, Buying at the toy market, Gossip about a marriage

THE NATIONAL LANGUAGE RESEARCH INSTITUTE
TOKYO JAPAN

1987